

濟定檢省部文

教科書文庫

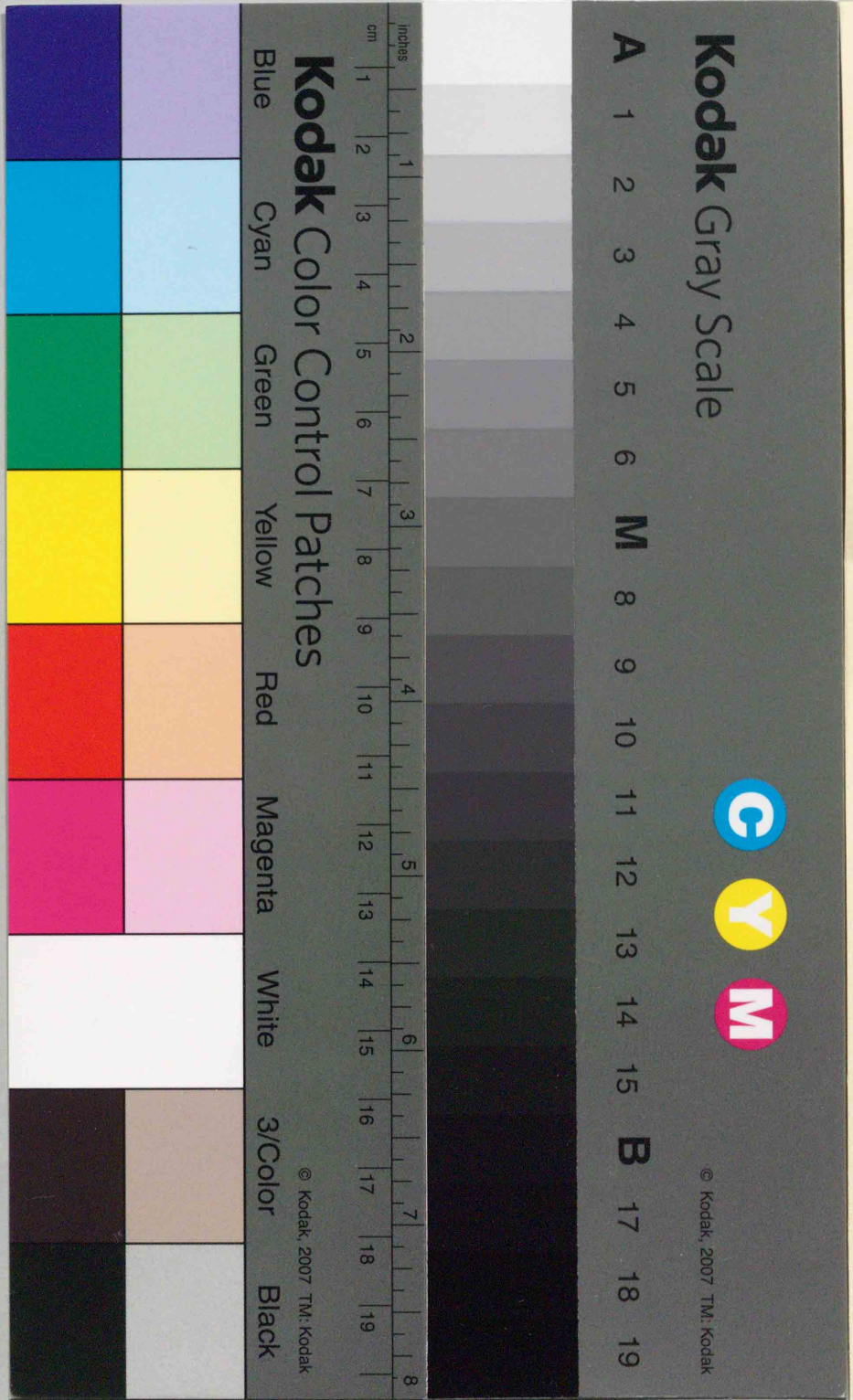
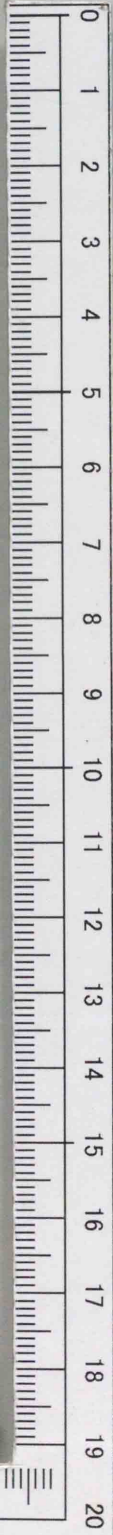
4  
370  
42-1930  
2000048934

# 本日 學育教子女

士學文  
若雄政島福



阪大  
版藏房華精



40780

教科書文庫

4  
370  
42-1930  
20000  
48934



© Kodak, 2007 TM: Kodak

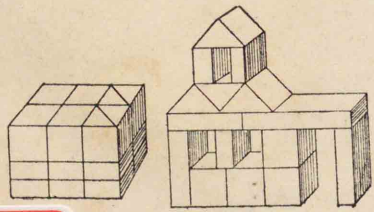
日十月一年五和昭  
濟定檢省部文  
用科育教校學女等高

教科書文庫  
4  
370  
42-1930  
2000048934

375.9  
Full

本 日  
學 育 教 子 女

授教學大科理文島廣  
著 雄 政 島 福 士學文



広島大学図書

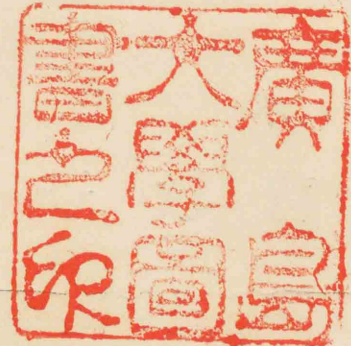
2000048934

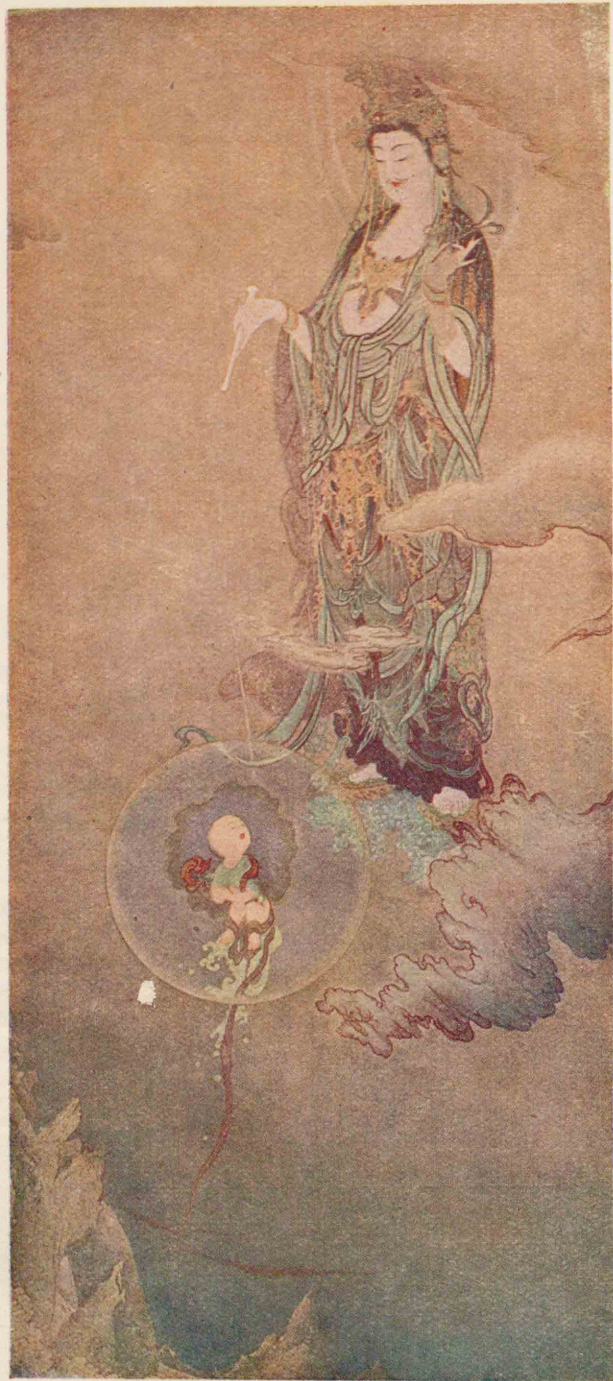


阪 大

版 藏 房 華 精

砂  
辰





悲  
母  
觀  
音

狩  
野  
芳  
崖  
筆

人類が慈母を慕ふは最も古く且つ最も美しき心である。東洋における観音の信仰、西洋における聖母の崇拜はいづれも此の美しき心を物語る。芳崖の悲母観音はその心血の滴れるもの。吾人はこれに對して切に慈母の徳が此の人生を潤し教育を導くことの深きをおもふ。

## 凡 例

一、本書は高等女學校用の女子教育學教科書として編纂したものであつて、特に注意したる點は所謂教科書風の乾燥無味なる敘述を避け、將來日本の母となるべき人々の讀物としても相當の興味があるやうにと心掛けたことである。

二、材料は西洋に採つたものも餘程多いのであるけれども、これを統一するに常に日本及び東洋の特有の精神を以てし、殊に宗教の問題に心を用ひ、日本の母として如何なる人も深く考へなければならぬ恩の世界から宗教の世界を示さうとすることに努めた。

三、家庭教育の敘述に殊に力をそゞぎ、心理の敘述においても子供の心理を手近き日常生活上に觀察せらるゝところからこれを

説明し、あまりに學術的なる説明はこれを避けるやうにした。

四、全編を通じて至るところにおいて母としての情操に觸れることを主とし、それと同時に單に優しき母たるに止らず、鍛鍊の精神を以て子供を導く母たらしむるやうに注意した。

五、全人生が教育の道場であるといふ意味と、特に我が國家が教育の上において如何に深き意義を有するかを示す上にも十分に心を用ひたつもりである。報本反始の精神及びそれが家庭においてあらはれ來る行事などを述べたのは、日本の母をつくるといふことにおいて著者の特別の關心の存するところである。

六、日本及び東洋の文明に深きものを認め、此の文明によつて哺まれたる日本の母なるものを、更に豊かに深く發展せしむる上に、本書が少しにても貢獻し得る事を著者は切に望む次第である。

昭和四年九月

著者誌す

### 日本女子教育學 目次

第一章	教育の意義	一
第二章	教育精神	二
第三章	母と教育	二六
第四章	宗教と教育	三
第五章	遺傳と境遇	六
第六章	子供の身體及び精神	三
第一節	身體の發育	三
第二節	榮養と睡眠	六

第三節 鍛 鍊…………… 四

第四節 疾病及び異常…………… 五

第五節 精神の發達…………… 五

    第一 知の働 き…………… 五

        一、感覺と知覺…………… 五

        二、直 觀…………… 六

        三、注意と記憶…………… 六

        四、想像と思考…………… 六

        五、言語と文字…………… 七

    第二 情意の働 き…………… 七

        一、情緒と情操…………… 七

        二、本 能…………… 七

三、意 志…………… 101

四、習 慣…………… 110

第七章 幼兒期の教育…………… 111

    第一節 家 庭…………… 111

        第一 胎 教…………… 112

        第二 報本反始…………… 112

        第三 家庭の行事…………… 113

        第四 家庭教育と徳育…………… 115

    第二節 幼 稚 園…………… 119

        第一 フレーベルの精神…………… 120

第二章 恩物……………一三五

第三章 自然に親め……………一三八

第四章 現行の幼稚園……………一四三

第五章 託兒所……………一四六

第八章 少年少女期の教育……………一五〇

  第一節 小學校……………一五〇

  第二節 小學校の教育者……………一五五

  第三節 學友……………一五六

  第四節 教科書と科外讀物……………一六三

  第五節 小學教育の三方面……………一六六

  第一 養護……………一六六

第二章 教授……………一七〇

  第三 訓練……………一七三

  第六節 特殊教育……………一七七

第九章 青年期の教育……………一八三

  第一節 中學校と女學校……………一八三

  第二節 性的誘導……………一八七

  第三節 心身の鍛鍊……………一九二

  第四節 宗教的覺醒……………一九六

第十章 人生即教育……………二〇〇

  第一節 結婚論……………二〇五

  第二節 社會教育……………二一〇



第三節 社會生活の歸趣……………三四

附録

一、小學校令(摘要)……………一  
二、小學校令施行規則(摘要)……………五

目次終

日本女子教育學

福島政雄著

第一章 教育の意義

親心子心の融和

瓜はめば子どもおもほゆ、栗はめばましてしぬばゆいづくよ  
り來りしものぞまなかひにもとなかかりて、やすしいしなさぬ  
しろがねもくがねも玉も何せむに

まされる寶子にしかめやも

この歌は萬葉集に出て居る有名な山上憶良の歌で、自然の人情としての親心をうたつたものである。この憶良が、旅に病める人に代つて

出でて行きし日を數へつゝけふくと

吾を待たすらむ父母等ほも

と歌つたのは、自然の人情としての子心を詠じたものである。かやうな親心と子心とが深められて行つて一つに融けあふところに教育といふことが成り立つのである。苟しくも教育といふ限りは、そのすがたかたちは如何にかはつても、必ず此の親心と子心との融和を以てその根本とするものである。

イタリヤの小説「愛の學校」といふ書物を讀んだことのある人はその中に次のやうな話があるのを記憶してゐるであらう。

新しい受持の先生が書取をしながら机の間を歩いてゐると、顔に赤い粒々の出てゐる子供がゐた。先生が書取を中止して兩手でその子の顔をはさみながら、どうしたのか、熱はないかなどとたづねてゐると、先生の後の子供がフイと腰掛の上に立つ

## 愛の學校

て操人形をやり出した。先生が不意に後をむかれたので、その子供は落ちるやうに腰かけたが、首をたれて叱られるのを待つてゐる。すると先生はその子の頭を撫でながら「またとそんなことをしないのですよ」と言はれる。ただそれだけである。

書取がすんでから、先生は少しためらひながら、しかし靜かな、親切な聲で、かう言はれた。皆さん、私共はこれからこの一年間を一緒に過すのだから、これを善く過さうではありませんか。私には一人の家族もありません。皆さんが私の家族です。去年までは母が生きてゐましたが、母が死んでからは全くの孤獨です。皆さんの外に此世界中に私の家族は一人もありません。皆さんは私の子供です。皆さんは全級一家族となつて私の慰藉となり、私の誇となつて下さい。」

放課の鐘がなつて皆が靜かに立つた時、操人形をした子供は

先生の側に行つて慄おそ聲こゑで「先生許して下さい」と言つた。

この先生の態度にはうちひらいたところがある。心の扉を開放して子供達のとび込みに任せ、ともに喜びともに泣いて、手とりあつて人間の道を進まうといふ親切と同情とがある。それで悪戯をした子供もすつかり悔悟したわけであるが、恐らくその外の子供達もみんなこの先生が好きになつたであらう。そして喜びも悲しみもうちあけられるやうな親しみを持つたに違ひない。先生もまた子供達が自分の子のやうにいとしく感ぜられたであらう。教育はこの二つの心の融和から出發するものである。

一緒に生活すること

子供をよく遊ばせてゐる親達の動作に注意して見るがよい。手を敲いたり、歌をうたつたり、笑つたり、踊つたり、さながら子供のやうである。古歌に

はへば立て立てば歩めと親心

わが身につもる老を忘れて

と歌つてあるが、親は子供の前では全く老を忘れて子供心に歸つてゐる。これが眞實の教育者の態度である。かう言ふ態度の人にはよしそれが親でなくてもよく子供がなつき、面白がつて一緒に遊ぶものである。そしてその一緒に遊ぶ間に心の融和が遂げられ、愛情も尊敬も信頼もそのうちに養はれる。教育はここにその最初の礎石をおくものである。このことなしには教育といふことを考へることが出来ない。愛情ナシニ

目的を忘れよ

勿論、教育といふからには、そこに一定の目的が考へられなくてはならない。被教育者のもつてゐる身體及精神を十分に發達させること、社會國家の一員として有爲有能な人間たらしめることなどは、當然その目的として考へられることである。そしてその目的を遂げるためにいろいろな計畫がめぐらされる。何を教へ

伸びる力

たらよいか。どう教へたら有効かと種々に討究されて、もつともよい手段によつて最も有用なことが教へられねばならぬ。しかも教育が最も効果をあげるのは、教育者がこの目的の中にあつてその目的を忘れ、この手段のなかにゐてその手段を忘れ、自らが教育者であるといふことすら忘れて、ただ被教育者と一つ心になつて働く時にのみ、その實効を擧げることが出来るのである。

人間は死物ではない。親はなくても子は育つ」といふ諺が暗示してゐるやうに、不斷に伸びて行く力がある。身體の成長して行くのは誰でも知るところであるが、精神もまた身體同様に不斷に伸びて行くものである。不知をきはめ、未明<sup>みみ</sup>を退けて、常に何等かの發達を遂げてゐる。この力が人類今日の文化をうちたてたものだと言ふことが出来る。空に輝く星に神秘の眼をみはり、地に咲く花に不可思議の思ひを寄せ、地形の變遷、萬物の活動、それらの中

に眞理を探り、美をもとめ、道德宗教の尊嚴にぬかづき、衣食住の原理と方法とを發見して來たのである。この偉大な力をいたはり育てるのが教育である。それ故、子供を白紙のやうに考へ、教育をその上に宇でも書くことのやうに考へたり、子供は粘土のやうなものだと思つて、教育を粘土細工でもすることのやうに考へたら大なる誤解である。子供には伸びてゆく力が内在してゐる。教育はそれをいたはり、育てるだけのことである。何等その上に新しいものをつく



像念記ナツロタスベ

るのでない。子供を導いてゆくといふよりも、むしろ子供に随伴してこれを守りいたはつて行くのである。殊に母親が子供に對する關係においては、此の心持が中心となるべきものである。

母親が妄りに小賢しい心を起して子供を不自然に矯めるといふやうなことは、子供の生命をいたはるといふ教育の本意にかなはぬことである。母親の態度は無理のない自然の態度でなければならぬ。眞實の母親らしさもそこに現れ出るのである。そしてこのやうな態度は、子供と一つ心になつて生活することによつてのみ満足されるのである。

實に被教育者と教育者の二つの心、伸びて行く二つの生命が融和協同して一つになつて働く時、そこに眞實の教育を見ることが出来るのである。感激も奮勵もそこに芽生え、感化も更生もそこに培はれ、知識は活物となり、人格は向上する。大教育家ペスタロ

眞實の教育

ツチが、スタンツでの教育狀況を報じて、

「我々は相ともに泣き、相ともに笑つた。世界をもスタンツをも

忘れて、唯彼等



チツロタスベのツンタス

あるを知り、余もまた彼等とともにあるを知るのみであつた。我等は飲みもの、食ひものを分けあ

つた。余には家族もなく、朋友もなく、下婢もなく、ただ彼等あるのみであつた。余は彼等が病める時も、健かなる時も、眠れる時

## 教育の種類

も彼等とともにゐた。余は寢臺に行く最後のものであり、寢床を離れる最初のものであつた。寢室では彼等とともに祈り、また彼等の自らなる要求に應じて寢につくまで教へた。」

と言つたのは、實に味ひ深いところである。普通、教育と言はれてゐるのは主として學校で行はれてゐる學校教育のことを指してゐる。しかし親が子を育てるのは更に大切な教育であつて、これを家庭教育といふのである。また學校教育と家庭教育の中間をなすものに幼稚園教育がある。學校教育や家庭教育、幼稚園教育は常に一定した被教育者を對象としてゐるが、もつと對象の判然しない社會公衆を相手として行はれる教育もある。これは社會教育（カミューニティ・エデュケーション）と呼ばれてゐる。

尙この外に教育とは言はれないけれども人間の成長に對して有力な影響を與へるものがある。山川草木の化、氣候風土の影響

社會交友の感化等がこれであつて、ともに教育の問題として研究さるべきものである。

## 第二章 教育精神

どんな精神が教育活動をうながすかといふことは興味ある問題である。勿論精神現象のことであるから、その根源に於ては渾然として分ち難いものがあるであらう。しかしその活動の相（すがた）から見ると次の數種をあげることが出来る。その第一は理解である。

すべての教育活動は理解から始る。母はその子供を理解することによつて教育活動の第一歩をふみ出すのである。しかるに人類は永い間子供の理解といふことに無關心であつた。近世に至つて漸く兒童研究が盛んになり、子供を理解しようとする努力

の理解

が各方面にあらはれるやうになつたのである。

子供を理解するといふことは、現在眼前にある一人の子供がどんな状態にあるか、體重はいくらで、身長はいくら、榮養はどうといふやうなことをわきまへることではない。かかる態度は靜止してゐるものを理解する態度である。生きたもの、伸びつつあるものを理解する態度は、少しくこれと趣を異にしてゐる。生きた子供を理解するに最も役立つものは體驗である。自己の深い體驗から子供の尊さを知ることが眞の理解である。子供は伸びて行く。伸びて行くものでなければ持たないやうな過去と未來とをもつてゐる。そして現在の子供には子供として何物にも代へない生活がある。しかも彼等は一個の人間に全人類の魂を宿し祝福されて生れて來た愛兒である。この深い同情と認識とが即ち眞の理解であつて、かかる理解はその人の體驗が豊かになればな

慈愛

るほど深められ正されて行くものである。

理解から生れ出て來るものは慈愛であつて、教育精神の第二にかぞへることが出来る。親の子に對する愛を普通、慈愛と言つてゐるが、親の愛はそのままで教育精神とはなり難い。親の愛は強い。しかしそれは動物にも見る愛である。親の愛が教育精神となるためには反省が必要である。人情としての愛が深い反省によつて、醇化せられ根柢づけられてはじめて教育精神となるのである。

「愛は盲目なり」と言ひ、子ゆゑの闇に迷ふと言ふもみな人情としての愛である。かかる愛は教育精神とはならないのである。腸チブスの快癒期には非常に空腹を感じるもので、子供などは泣いて食慾を訴へる。しかしこの時絶對に固形物を與へてはならない。母親が子供可愛さの餘り、林檎やパンの一片を與へ

て遂にとりかへしのつかぬやうになつたと言ふことはよく聞くところであるが、人情としての愛を殺して、醫學の法則に従ふことが、この場合眞に子供を愛する道である。精神上の事柄について、もまた同様であつて、人情の愛に溺れて子を害うた例は決して少くない。

深く反省すれば、人情としての愛は多くはこれ我執である。

親子、兄弟、隣人の愛も、それが人情である限りに於ては我執の範圍を脱することが出来ぬ。この淋しき自覺は我等をより高い精神生活に導くものである。その一層高い精神によつて我執を脱して人間性を愛する心が即ち慈愛であつて、この醇化せられたる愛、根柢づけられたる愛が教育精神となるのである。

慈愛が一層積極的な形をとつたものを犠牲的精神といふ。これを教育精神の第三にかぞへることが出来る。俗に犠牲といふ

犠牲的精神

言葉は、自分の利益をすてて他人の爲につくすことに使はれてゐるが、かかる意味で犠牲になる、犠牲にするなどと言ふのは結局利己心の争ひにすぎない。犠牲にした方が利己心を満足し、負けた方がその利己心の犠牲になつたのである。教育精神として數へられる犠牲的精神といふのは、かかる利己的な争ひを超えて、自他ともに満足の境涯を得る道を求むるもので、言つて見れば、身を焼きつくして人類の生命の中に生きる底のものである。

法然上人の父は賊のために刺されてこの世を去つたのであつた。上人が子供心にも父の臨終の枕許で、この父のために復讐を誓つた時、父は苦しい息の中からかう言はれた。お前が俺の仇を討たうといふのは有難い。しかしお前が仇を討つと、その子供はまた敵としてお前を狙ふであらう。かくては世に争闘の絶える時がない。お前はこんなに討ちつ討たれつしないで、



「自他ともに喜んで暮せるやうな道を見つけて貰ひたい。」  
 この言葉が浄土宗興隆のはじめをなしたもので、この訓こそ、眞  
 の犠牲の道を示されたものであり、上人の一生こそ犠牲的精神の  
 顯現であつたといはねばならぬ。

理解、慈愛、犠牲的精神、この三者は教育精神の活動する三つの相  
 であつて、吾等はその實證を古來の多くの教育家の生涯に見るこ  
 とが出来ゝる。そして今、この三つの相の正しい心象をえがくこと  
 は、やがて我等の胸に教育精神を喚起、育成することになるのであ  
 る。

### 第三章 母と教育

母は家庭の中心であつて、また最もよい教育者である。勿論親  
 であれば父も子供の教育には無關心ではあり得ないし、祖父も祖

母らしさ



(筆ロエッラ) 母聖のノリデルカ

母も孫の教育に力をつくすに相違ない。しかも子を育つる母に  
 如くはない。それは母が何人も修養によつては達し得ないほど  
 の教育者として  
 よい素質を自然  
 にもつてゐるか  
 らである。限り  
 なく廣く深い愛  
 情がそれである。  
 この愛情は、子供  
 を持つて経験す  
 る數の精神的慘  
 苦に醇化せられ、  
 陶冶せられて、ここに「母らしさ」となる。この「母らしさ」こそは、前に

述べた教育精神の三つの相である理解と慈愛と犠牲的精神とをもつともよく代表するものであつて、子供の本能はこの「母らしさ」のうちにはいたはられ、その感情はこの「母らしさ」のうちに温められ、その意志はこの「母らしさ」のうちに勵まされて、ここに子供はすなほな成長を遂げることが出来るのである。誠に女性はこの「母らしさ」に甦ることによつて永遠の生命のなかに生きることが出来る人類はこの「母らしさ」によつて今日の發展を將來することが出来たのである。

母性の力

父も母も等しく親である以上、そこに甲乙のあらう筈がない。父は父として、母は母としてそれぞれその子の教育の上に特殊な意味をもつてゐるものである。よく「父の威と母の愛」といふやうに、恩威ならび行はれるといふことが教育上よいことであるから、母の愛の外に父の威があるべきである。しかし冬の日の厳しさ

三、ワオカラ、十二オマコ  
四、カイナ、ケレ、心、イ、イ、イ

よりも春の日の和かさが草木を育てるやうに、子供の教育には母の慈愛を欠くことが出来ないものである。古來、父を失つて母の手によつて大成された偉人の例が少くない。忠孝兩道を完うした楠正行が注意深い母の手に養はれたことは人のよく知るところである。孔子も三歳にして父を失ひ、頼山陽も七歳にして父を失つてゐる。二宮尊徳は十三歳で父を失つたが母とともに貧困な生活を送つてゐる間に後年の偉大さが養はれたと言ふことが出来る。ペスタロツチが大教育者として生ひ立つたのは六歳の時父を失つて以來、母の手によつて慈愛深い教育を受けたからであると言はれてゐる。父を失ふのは大なる不幸であるが、父を失つても、母の慈愛によつてよく子供が育つと言ふことがこれらの例によつて知られる。ただこれらの母がよくその子を育てたのは、盲目の愛ではなくて、醇化せられた「母らしさ」であつたことを記

家庭は個性の  
搖籃

憶せねばならぬ。

家庭はこの「母らしさ」がしとやかに咲き出でた花園である。子供は蜂や蝶のやうに、自由に、愉快に、心ゆくまでこの花園に遊びたはむれる間に、すすくと伸びて行くのである。人には各、それぞれの天分、即ち個性がある。その個性はこのやうな静かな時と處を得て、存分に發達するものである。個性は自由放任の間に發達するものでもなく、また形式的な壓迫の間に育つものでもない。その個性を受け容れて、これをいたはりはぐくむ「母らしさ」の中に發達するものである。もしも個性がこのやうな時と處とを得ないならば、子供の伸びべき天分は鬱して、その性質は陰慘な、疑ひ深い、卑屈な傾向をもつやうになる。人はその天分を發揮することによつてこの世に生を享けた意味を持つものであるから、個性を伸すことは非常に大切なことである。その個性が「母らしさ」によ

女性の永生の  
道

つて養はれるといふことは誠に意味の深いことである。家庭は個性の搖籃キョウランであり、母性は人道の發祥地である。

女性として世に盡すべき務は多い。今日女子の従事する職業は次第にその數をましてゐる。しかし家庭を營み子女を育てることに優つたものがあるであらうか。男子もなし得ることを女子がしたとてそれが優れた任務だといふことは出来ない。女子にとつて尊い任務は、必ずや女子特有のものでなければならぬ。その女子特有の仕事のうちでも人間の心を養ふといふ位尊い仕事は外にあるだらうか。人生は短い。しかし人間の世はながい。その人間の世の礎を築いて行くものこそは、女性が母として營む勞作である。世には一見華かな仕事と地味な仕事がある。しかし華かなものが常に優れたものとは言へない。母の仕事は、孟子の母やワシントンの母のやうに永く世に謳はれることもあるけ

れども、多くの場合世に埋れてゐる。しかもその母あつて人間の將來が祝福されるのである。それゆゑ女性は母性に生きることによつて、永遠の生命を得るものであるといはねばならぬ。近時の文明は、この女性より母性をうばひ、人間より家庭をうばはんとする傾向がある。惜しむべく、嘆くべきことである。心あるものは母性を護り、家庭を守るために戦はねばならぬ。

#### 第四章 宗教と教育

恩を知る

「家庭教育は人間に最も大切な教育で、その主宰者は母であることを前章に於て述べた。」そしてその母は「母らしさ」を顯現することによつて最良の教師たることが出来ると言つた。しかしその最良の教師とは、何うにでも思ふがままに子供を教育することが出来るといふやうな意味ではない。「母らしさ」によつてよい教育が

出来るとは言つたけれども、それは結果を見てその力の偉大なるを讃仰した言葉であつて、教育者たる母親の心には、それが「母らし」い母であればある程、その力の足らないのをかこつことが多いものである。言ひかへれば、自分のやうに上手に子供を育てる親はないと思つてゐる母には、所謂「母らしさ」といふものがなく、子供の教育に苦心慘憺してゐる母に「母らしさ」を見ることが出来るのである。そしてこのやうな母親が、自分の無力を知りつくした果に思ひあたるものは、自分を育ててくれた親の有難さである。諺にも「子をもつて知る親の恩」といふ。この親の恩に目ざめて、その有難さに涙するところに教育から宗教への轉向がある。

我等は相對の世界に住するものである。人もし右の頬を打たば我もまた打ちかへしてやらうといふのが、我等の本性であり、打ちかへすのが人間生活であつて、これを許して左の頬をも向ける

相對と絶對

やうな寛大さはなかなか持てないものである。賞める人は大切に思ふが、悪口を言ふ人はこれを憎むのが我等の常であつて、賞めても諂つてもこれを愛するといふやうなことは到底出来ない。この相對の生活は教育の世界に於ても同様であつて、廣く深い愛をもつ親といへども、思ひにまかせぬままに子を憎みこれを疎にすることもあり、時には怒り、罵り、大聲をたてることもあるのである。しかし乍らもしこの時に、同じこの勞苦に堪へて自分を育ててくれた親の恩を思ふならば、荒れたる心も和ぎ、怒れる心もおさまつて、にこやかな心をもつて子供に接することが出来る。恐らくさう言ふ時の心持は、暗かつた心が急に明るくなつた思ひがして、人は思はず偉大なものに額づくであらう。この偉大なものは即ち絕對であつて、我々の相對の世界を超越したものである。即ち絕對の世界は打つものも打たれるものもそれが問題でなく、恩

## 親心と子心

も譬も一味の慈光に溶かされて行く世界である。親の恩を知る時になぜ人は絕對の前に額づくか。それは親心が絕對の相をうつしてあるからである。自分のわがままを笑つて諭してくれた親の心に、人間の弱さ、寂しさを愛撫してくれる絕對の相があるからである。目にあまる悪戯を倦む日もなく、教へ導いてくれた親の心に、人間の悪と醜とを無限に攝取する絕對の相を見るからである。ラファエロのマドンナが貧しげな伊太利の娘を描きながら、そこに永劫の氣高さをもち、芳涯が母の姿を悲母觀音の尊像として描いたのもこの故からである。それゆゑ絕對の相は大いなる親心であるといふことが出来る。この大いなる親心を感じる世界が宗教の世界である。母はこの宗教の世界に生きることによつて、子の親としてではなく、絕對の親心に安住することが出来る。即ちその愛は所謂動物の愛ではなく、眞の慈

愛であり、そこに罵りも憤りも滞ることのない悠々たる教育の世界を味ふことが出来るのである。

またこの絶対の親心を仰ぐ心は、これを子心と言ふことが出来る。この子心の動きを感じるものこそは、眞に子供の子心に觸れることが出来るものである。子心をもつた母親がその子供ともどもに大いなる親心への道をたどるとき、そこに始めて、苦しみ  
の底にも無限の慰めを感じるものである。

無碍の一道  
宗教の世界は無碍の一道である。如何なる煩惱もその障碍をなすことの出来ないものである。従つて宗教にまで觸れた教育の世界も無碍自在の趣をもつてあるものである。例へば同じく體罰を行ふにしても、悪いとか善いとかといふ問題には拘泥することなく、子供には「打たれても親の杖」といふ感があり、親の方には「打つて憎くまず」といふ趣があるものである。すべてが恩の感じ



筆ロエフラ

母聖のトスシンサ

ドイツのドレスデンの美術館にあるラ  
ファエロの大作であつて、聖母の繪として  
最もすぐれたるものゝ一つであり、きよ  
き母らしさを表現したものである。

教育の究竟理  
想

において融和し、怒りも悲しみも愛情を裏切らない世界がそこに  
出現するのである。

日常相對の世界を反省すれば醜い我執のいがみ合ひが多い。  
この我執が絕對の親心の前にうちくだかれて行くところに恩の  
感じがある。そしてこの現象は、丁度母が親の心にかへる時に親  
の恩を感じずるやうに、自己の根元にかへることにより、絕對の親心  
にかへることによつて起るものである。宗教の世界が無碍の一  
道であるやうに、この宗教の世界にまでふれた感恩の生活もまた  
無碍の一道である。悩みも、迷ひも、苦しみもそこに姿を消し、争ひ  
も、戦ひもそこに解決をもとめることが出来る。個人はそこに永  
生の道を見出し、國民はここに國家の永遠の生命を仰ぐことが出  
来る。それ故教育は被教育者と共にかかる感恩の生涯に入るこ  
とを究竟の理想とするものである。

第五章 遺傳と境遇

遺傳 癖  
造作、推致  
形、  
心、  
知、  
悲、

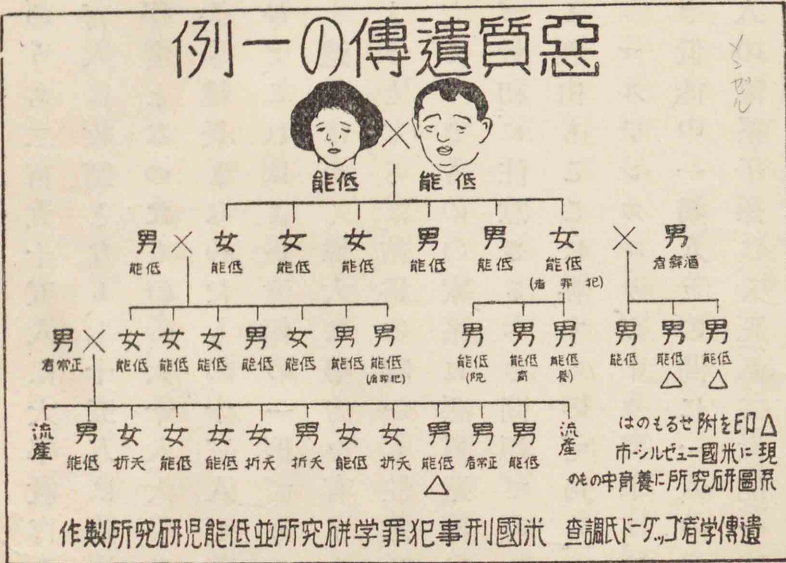
惡質遺傳の例

生物にはすべて遺傳といふことがあつて、生れながらにして祖先の性質をうけついでるものである。人間も亦その遺傳によつて先天的にその素質が決定される。これを教育的力で動かすことは出来難い。古人も「上智と下愚はうつらず」といひ、諺にも「瓜のつるには茄子はならぬ」と言つてゐる。

一七二〇年に和蘭からデュークといふ低能で、且つ怠者の男がニューヨーク州に移住した。その二人の息子はまた親に似て低能で酒飲みであつたが、素性不明の不良姉妹と結婚して六代の間に千二百人の子孫をまうけた。そのうち三百人は幼年で死亡し、三百十人は貧民となつて養育院に入り、放蕩で身を持ちくづしたものの四百四十人、賣春婦となつたもの六百、犯罪者百三十人で、僅

良質遺傳の例

例一の傳遺質惡



かに二十人のものが正業を営んだといふことである。この一家のためにニューヨーク州の刑務所、養育院が費した總經費は一八七七年までの七十五年間に百二十五萬弗であつたといふ。これは惡質遺傳の恐るべき一例である。

ジョンナサン、エドワードは世界的に著名な神學者で、プリンストン大學總長となつた人であるが、一九〇〇年の調べによるとその子孫千三百九十四人



のうち、二百九十五人は大學教育を受け、百人は法律家となり、また百人は牧師となり、七十五人は陸海軍の將校となり、著明な醫師、文學者となつたもの各六十人、大學教授の職についたもの六十五人、大學總長となつたもの十三人で、前例とは比すべくもない偉人揃ひで、これはよい遺傳の一例である。

## 優生學的考察

遺傳はかく偉大な勢力を有するものであるから、よき子孫を得ようとならば、結婚の時から注意せねばならぬ。即ちその配偶者たるべきものの家系に惡質遺傳の傾向がないかといふことが、先づ最初に注意するべき問題である。法律上、血族結婚を禁じてある理由もここに存するのである。

マルチンカルクリカーク將軍は、アメリカの獨立戰爭當時、名もなき低能の一婦人との間に一人の男兒をまうけたが、その四百五十人の直系子孫は、夭死(八二)低能(一四三)品行下劣なる者(六九)酒飲み

(二四)癩癩持ち(三)犯罪者(三)不正の仕事師(八)など多く、正常者は漸く四十六人に過ぎなかつた。然るに戰爭後善良有爲な一婦人と結婚して得たる子孫四百八十六人は、二人の酒飲みと一人の背徳者の外は何れも世間より尊敬されるやうな善良な人々であつたと言ふ。誠に結婚は人生の大事と言はねばならぬ。

さてかやうに遺傳は人間の素質を決定するに有力なものではあるが、その發現にあつては後天的な支配を受けることが多いものである。即ち人はかかる遺傳があるにかかはらず境遇の影響を受けることが大きいのである。孟子の母が三度その居をうつしたといふのは、子供の爲に環境の悪い影響を恐れたからであつた。「朱に交れば赤くなる」といふ諺も、水は方圓の器に従ひ、人は善惡の友による」といふ格言も、ともに人間が境遇に支配され易いものであることを戒めてゐる。その人を取りまく自然界と人事

## 境 遇

界とは、不知不識の間にその人に大なる影響を與へるものである。殊に幼時に於ける家族、交友、經濟生活環境、自然より受ける感化は著しい。一生の方向はこの時代に決定すると言ふことも出来る。少年審判所にあらはれたところによると、少年の犯罪は出來心からが最も多く、悪友の感化がこれに次ぐといふことである。人間本來の性質は、しばしば古人によつて論ぜられたやうな性善とも性惡とも判ずることが難しい。寧ろいづれにも染みやすい弱性質であるとするべきである。

子供の環境を整理することは教育上非常に大切なことである。境遇は既に述べたやうに廣い意味で教育問題のうちには包括されるものであるが、一般に教育と遺傳の關係はこれを水夫と水流とに例へることが出来る。もし水夫が流れに従つて舟を漕ぐならば自分の力と流れの速さだけ進むことが出来る。これに反して

## 遺傳と教育

流れに逆つて舟をやるならばその速さは流れの速さだけ減殺される。境遇や教育が遺傳質に順應するならば善いにつけ惡いにつけその進度は著しいが、もし遺傳質に反するならばその効果は著しく減殺せられる。それゆゑ我等は子供の環境を整理することによつて惡い素質の發現を未然に防ぎ、善い素質の發展をはからねばならぬ。このことはまた小學校以上の學校を選び、職業を選ぶ上にも深く留意するべきことで、そのすぐれた素質を見つけてこれに應じた教育の途を講ずることは、父母教師の重大な務でなければならぬ。

## 第六章 子供の身體及び精神

子供は生れながらにして二つの遺産を繼承してゐる。一つは身體であり、一つは精神である。この二つについて正しい理解を

發達の四期

もつことは子供の取扱上きはめて必要なことである。

子供の發達の時期は次の四期に區分して考察される。

嬰兒期 生れてより滿一ケ年の間を言ふ。母乳を飲んで發育

する時期である。最初の一週間は特に初生兒と言ふ。

幼兒期 嬰兒期以後滿六歳までの時期である。即ち小學校へ

出るまでの間で、前半は専ら家庭にあつて生活し、後半は幼稚

園に通ふ。身體も精神も若々しい芽生えをなす時である。

少年少女期 小學校在學時代である。心身の發達著しく従つ

て感化をうけることも強い、往々一生の方向がこの時代に決

定することがある。男女の相違も漸く著しくなる。

青年期 男子は十四、五歳、女子は十二、三歳より二十二、三歳まで

の時期で、人間の成熟期である。身體も精神もこの時代に於

て一變するので、第二の誕生と言はれてゐる。従つて人生に

上處  
女期

於ても大切な時期である。

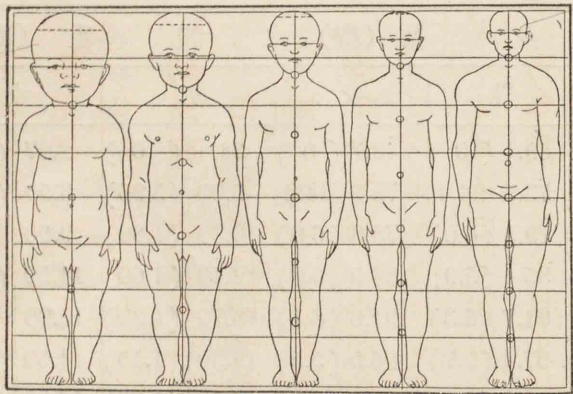
三十一才位

◎ 第一節 身體の發育

身體の發達は全體漸進的なものではあるが、尙その間に幾多の特異な現象を見ることが出来る。

その第一は身體各部の比例が時期によつて異なることである。即ち子供の身體はその何れの時期に於ても大人の身體を縮小したものである。頭と胴と四肢の割合が著しく大人と異つてゐる。上圖に示

例 身體各部の比例  
各年齢に於ける身體各部の比例  
(ストラッツ)



(兒生初) (歳二) (歳六) (歳五十) (歳五十二)

我が國兒童の身長・體重の發達 (三島博士) (内は成長數を示す) (著者)

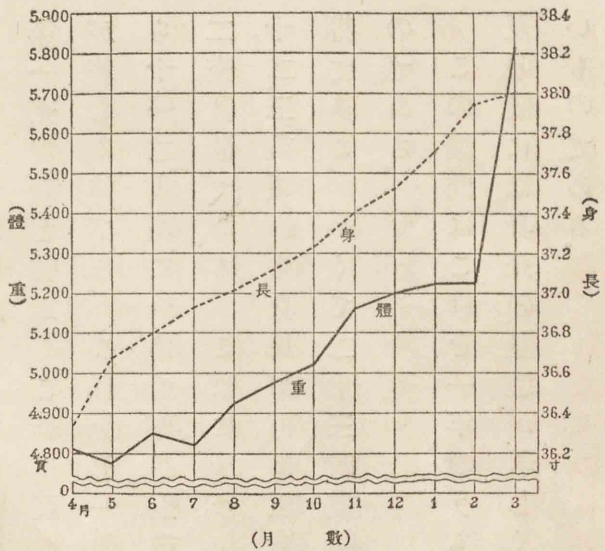
年 齡	身 長 (糎)		體 重 (斤)	
	男	女	男	女
初生兒	49.1 (0)	48.7 (0)	3.04 (0)	2.87 (0)
1	73.5 (24.4)	72.9 (24.2)	9.00 (5.96)	8.50 (5.63)
2	79.5 (6.0)	78.9 (6.0)	10.80 (1.80)	9.90 (1.40)
3	85.4 (5.9)	84.9 (6.0)	12.40 (1.60)	11.50 (1.60)
4	91.7 (6.3)	91.0 (6.1)	13.70 (1.30)	12.90 (1.40)
5	97.4 (5.7)	96.5 (5.5)	15.20 (1.50)	14.50 (1.60)
6	102.8 (5.4)	102.4 (5.9)	16.50 (1.30)	16.00 (1.50)
7	108.3 (5.5)	107.2 (4.8)	17.80 (1.30)	17.20 (1.20)
8	113.8 (5.5)	112.0 (4.8)	19.10 (1.30)	18.70 (1.50)
9	118.3 (4.5)	116.2 (4.2)	21.00 (1.90)	20.50 (1.80)
10	122.8 (4.5)	120.4 (4.2)	23.00 (2.00)	22.30 (1.80)
11	127.0 (4.2)	125.9 (5.5)	25.00 (2.00)	24.40 (2.10)
12	130.8 (3.8)	132.3 (6.4)	27.20 (2.20)	27.80 (3.40)
13	135.2 (4.4)	139.0 (6.7)	29.80 (2.60)	31.40 (3.60)
14	141.5 (6.3)	143.2 (4.2)	33.60 (3.80)	36.50 (5.10)
15	146.3 (4.8)	144.7 (1.5)	38.70 (5.10)	38.20 (1.70)

すやうに初生兒の頭は身長四分の一といふ割合を占め、胴と四肢とは著しく短い。この割合の差は成人に近くに従つて減少されるものである。その第二は身長と體重の發達が一様な割合で

成人 十八歳 二十歳 充實期 伸長期

進むものではなくて、時期によつて多少の消長があるといふことである。しかもその消長は同一歩調をとらず、相錯するものである。即ち初生より四歳頃までは體重の増加が著しい。これが第一充實期と言ふ。これに反して四、五歳より六、七歳までは身長が著しく伸びる。これを第一伸長期といふ。ところが八歳頃から十一、二歳頃にかけて再び體重の増加が著しくなる。これが第二充實期である。これにつづいて男子は十四、五歳頃から、女子は十二、三歳頃から身長が再び旺盛に伸びる。即ちこれが第二伸長期である。かくて二十三、四歳頃までに一通りの發達をおはるものである。この傾向はこれを一年のうちにも見ることが出来る。概ね春夏の候には身長が著しく、秋冬の間には體重の増加が著しいものである。

尋常一年生一  
ケ年の身長體  
重の増加  
(勝岡氏)



は子供の榮養と睡眠にはらはれねばならない。  
母乳は嬰兒の食物として最も適當なものである。その清潔な

この傾向はまた子供の健康、  
精神の状態にも影響を及ぼす  
もので、伸長期には子供は病氣  
にかかり易く、且つ氣難しくな  
りがちであるが、充實期には食  
慾も進み身體も丈夫で精神も  
平和であるのを常とする。

### 第二節 榮養と睡眠

子供の身體の健全な發達を  
はかるのは、家庭の大切な務の  
一つである。その第一の注意

### 乳母

ること、その榮養の調和よろしきを得たること、その極めて消化し  
易いこと等に於て、全く他の食物の遠く及ぶところではない。即  
ちその初めは黄色粘調で胎便を下す用をなし、その濃度は生兒の  
胃の發育に應じて次第に濃くなり、またその乳兒の體質に適應する  
やうに微妙に配合せられ、且つ傳染病に對する或種の免疫性を母  
體より乳兒に移す用をなすと云ふことである。それゆゑ、母乳に  
及ぶ榮養は嬰兒にはないのである。

母乳につぐ榮養物は乳母の乳である。もし止むを得ずして母  
乳を得ない時には乳母を備ふべきである。乳母は生母に代るも  
のであるから、よく醫者と相談して、年齢、産期、乳質、身體の健康、性質  
家系等について適當なものを選ばねばならぬ。

### 人工哺乳

生母、乳母の乳を得ない時は人工哺乳によるより仕方がない。  
人工哺乳に用ゐられるものは、牛乳の外、煉乳、山羊乳、驢馬の乳等が

## 離乳

ある。何れにしても、消毒、分量、回数、濃度、哺乳器等に細心の注意を拂はないと消化不良其他の疾病を起し易い。母乳はただに、乳母の乳や人工哺乳よりもその榮養においてすぐれてゐるのみならず、母は乳を飲ますことによつてその愛情を深めるものである。

離乳期は幼兒の健康の害ひ易い時期であるから特に注意が必要である。離乳は滿一年半から二年頃までの間が良いが、決していそいではない。齒の出来るのは幼兒が食物を欲することを示すものであるから、六、七ヶ月に至つて門齒の發生を見たならば、葛湯粥汁の類を少しづつ飲ませて離乳の準備をはじめ、滿一年前後から牛乳粥軽い魚肉等を與へて次第に乳を遠ざけ、滿二年頃より完全に離乳すべきである。この頃は乳齒も揃ひ、消化力も十分發達し、食物のみで十分に榮養をとることが出来るのである。

## 食品化學の原則に従へ

## 睡眠

離乳期以後の食物は、凡て消化し易いものを選び、且つ食品化學の原則に従つて、食物が一方に偏しないやうに注意することが必要である。もし一方に偏すると、榮養に欠陥を來たして、思はぬ病氣を招くことがある。榮養は一つの桶に喩へることが出来る。どの一つの榮養が不足してゐても、桶の一枚の板が短いと、同じ道理で、他の榮養も十分にその働きをあらはすことが出来ないのである。

睡眠は幼兒の發育に非常に大切なものである。諺にも「寝る兒はふとる」といふ。それ故、嬰兒は靜かな部屋を選んでその睡眠をさまたげないやうにし、漸く成長して遊戯をなす頃には、晝寢をなさしめてその疲勞の恢復をはかり、夜は十分睡眠をさせるがよい。十歳前後までは十時間内外臥床せしめるのが普通である。子供は早くねかせて、十分ねむらしめるやうに習慣づけねばならない。

標準睡眠時間

深くて長い睡眠は子供の健康の第一條件である。次にかかげるのはある學者の示した睡眠標準時間表である。

年齢	睡眠時間
七	一一
八	一一
九	一一
一〇	一〇、三〇
一一	一〇、三〇
一二	一〇
一三	一〇
一四	九、三〇

第三節 鍛 鍊

親は子供が可愛いので往々大事にしすぎて、かへつて子供を弱くすることが多いものである。身體の養護には、榮養、睡眠、衣服、運動等についてつとめて周到な注意を拂つて、その發達の障害となるものを除くやうにするといふ衛生的な方面もあるけれども、進んで體力を強くするといふ鍛鍊の方面もあるのである。なるべく暖かにして風を引かさぬやうにするといふやり方も悪いとは言へないけれども、出来るだけ薄着をさせて幼少の頃から皮膚を

養護の二方面

積極

ルソーの意見

強くして置くと言ふ方法も大切である。温室に咲く花は華麗ではあるが弱い。野生の花は華麗ではないが強い。文明はともすると人間をして温室の花たらしめようとする傾向がある。ルソーは「エミール」の中で「何物でも自然といふ創造者の手から出て来る時は善いが、人の手に託されると悪くなる」といつて、身體も自然に従つて育てるがよい」と述べてゐる。

只子供を保護しようといふのが世の常であるが、之は間違ひである。子供が大人になつたら自分で自分を保護するやうに、又運命の打撃にも堪へ得る様に、富にも貧しきにも大膽に堪へ得る様に、必要があつたらアイスランドの雪の中にも、炎熱焼くるマルタ島の岩の上にも住むやうに教へなくてはならぬ。これがエミールの教育方針になつてゐる。古のスパルタの母親もかやうの精神で子供を育てた。これは、時と所を異にした現

在のわが國に於てもとつてもつて教育の方針となすことが出来ると思ふ。愛におぼれて子供を弱くするやうなことがあつてはならぬ。湯をのんで育つた子よりも水をのんで育つた子の方が強い。座敷で育つた子よりも野原で風に吹かれて育つた子の方が達者である。「可愛い子には旅をさせ」といふ諺は身體的にも一面の眞理を物語るものである。

## 青年時代

保護と鍛鍊の振合は、幼少の頃は保護を主として鍛鍊の心持を失はず、長ずるにしたがつて保護を少くして鍛鍊を主にすべきものである。殊に青年時代に於ては鍛鍊が必要である。青年時代の鍛鍊は困苦缺乏に堪へるといふことを目標にすべきである。冷水浴や冷水摩擦を行ふとか、寒いときに頸巻、手袋、足袋の類を用ひぬやうにするとか、酷暑の頃にも妄りに裸體にならぬとか、或は草をわけて舊蹟をたづね、雪をふんで高きに登り、寒暑にたたかつ

て、身體を鍛へることなどは青年に相應しい鍛鍊である。眞の鍛鍊といふものはその効果が身體の上にとどまらない。精神を鍛へることにもなるのである。青年時代に殊に鍛鍊が必要だといふ理由の一つはここにある。諺にも「健全な精神は健全な身體に宿る」といふ。所謂、文弱の風を拂つて、質實剛健に「衣冠」に至り、袖腕に至るの意氣を養ふものは鍛鍊の道を措いてない。

## 第四節 疾病及び異常

## 親の無知

子供は體力が弱く、病氣に對する抵抗力が足りないために、種々の疾病にかかり易い。ことに言語が十分でないから疾病におかされてもその容體を言ふことが出来ない。それでともすれば治療、手當の時期と方法をあやまつて大事に至らしむることが多い。殊に兩親が子供の病氣に無知なところから、あたら愛兒を死にいたらしめる例が乏しくない。それゆゑ子供のかかり易い疾



健康の標準

病の種類を知り、原因、<sup>如常、有影</sup>症狀、手當の概要をわきまへ、一方これにおか  
されないやうに豫防すると同時に、他方これに冒された時の應急  
處置をあやまらぬやうにせねばならぬ。

初生兒に大切なことは一、泣き聲の活潑なこと、二、皮膚の色の赤  
いこと、三、相當の體重のあること、四、よく乳を飲むことの四條件で  
ある。尿と便と睡眠とは嬰兒期の子供の健康状態を知る鍵であ  
つて、體重はそのバロメーターである。幼兒期に入つても機嫌と  
睡眠と食欲とは子供の健康状態によつて大空のやうに變る。身  
長と體重、脈搏と體溫、顔色、睡眠等に注意することは少年少女期に  
於ても疾病を豫見する助けとなり、その健康状態を知ることが出  
來るもので、母は常にこれらのことに留意してゐなければならぬ。  
「子供は自由にして置かねばならぬ。しかし絶えず注意丈は  
して置かねばならない」といふルソーの言葉はここにも大切な

子供の病氣

訓言である。

子供の病氣はその初めの症狀によつて一、熱の出るもの、二、下痢  
を起すもの、三、痙攣を起すものと、三種に概観することが出来る。

①、熱の出る病氣

破 傷 風

傷口から入り、早きは二日遅くも十日にして發病する。全身の  
痙攣を伴ひ、口もそのためにきけなくなる。非常に痛みを感じ、  
百人中七八十人は斃れる。

百 日 咳

初めは普通の風邪のやうであるが、咳がひどく、咳の終りに息を  
ひく。肺炎を起すおそれがある。傳染病である。

猩 紅 熱

身體一面が眞赤になり、熱は三十九度を越し、咽喉がいたい。餘  
病におそるべきものが多い。

麻 疹

初め風邪のやうで、咳が出目は赤くなり、鼻汁や嘔も出る。二三  
日のうち發疹する。これも餘病を起しやすい。

クループ性肺炎

病期はながくはないが急に高い熱が出て、呼吸が困難になる。  
腹痛を訴へることがある。

ジフテリー  
息がぜい／＼言ふやうになつて扁桃腺に白い膜が出来る。發病後四日以内に血清注射を行へば大ていなほるが恢復後が一層大切である。

蛔 蟲  
腸内に寄生するもので、頭痛腹痛嘔吐を伴ふ。

二下痢を起す病氣

痲疹  
夏季に多く、猛烈な下痢を起し、茶かすのやうなものを吐く。痲疹を伴ふ。俗に「はやて」と稱して、子供の命とりとされてゐる。

大腸カタル  
哺乳期以後の子供に多い。大便が粘液を多くふくんで、痰か鼻汁の様なものに見える。なほり切るまで食物に注意せねばならぬ。

消化不良  
青い便が出て、便通前に腹痛を感じて泣く。哺乳兒に多く、乳をのませすぎたり、腐つた牛乳を飲ませたりするところから來る。

乳兒脚氣  
多く脚氣にかかつた母の乳を飲むによる。顔色蒼白吐乳、青便、胸内苦悶呼吸困難を伴ふ。

三、痲癩を起す病氣

小兒急癩  
「ひきつけ」といふ。急に眼つき顔つきが變り、手足顔胸がびくびくし氣を失ふ。うろたへて手當を間違ひやすい。靜かに寝かして、衣服をゆるくし、熱があればひやし、出來たら灌腸をするがよい。

癩 癩  
卒倒して、口から泡をふく。寢小便の原因になることがある。手當としては衣服を寛かにして帶を解き、靜かな室にねかせておくがよい。

腦 膜 炎  
普通の腦膜炎は含鉛白粉から來ると言はれてゐる。次第に顔色がわるくなり、時に乳を吐き、笑はなくなる。結核性腦膜炎は不治とされてゐる。

これらの疾病のあるものは急激に來たり、あるものはジリジリと來てさまで注意もしないうちに大事に至るといふ種類のものが多い。それ故母親は一、迷信的な忠告に迷はぬこと。二、素人判斷を退けること。三、病狀の明瞭なものは出來るだけ應急の處置をとり、速かに醫師を招くこと等特別の配慮をなさねばならぬ。特に平素からこの方面に研究的精神をもつことは、きはめて必要

子供の病氣の特色

病  
學校生活と疾

なことである。

子供が學校生活をするやうになると、學校病の發生を防ぎまた集團生活から來る傳染病に感染しないやうに留意せねばならぬ。所謂學校病といふのは、はなぢ、頭痛、神經衰弱、視力障害、脊柱彎曲などがその主なるものである。また傳染病には、デフテリヤ、猩紅熱、發疹チブス、ペスト、赤痢、コレラ、腸チブス、バラチブス、流行性腦脊髓膜炎などの劇烈なものから、百日咳、麻疹、流行性感冒、流行性耳下腺炎、おたふく風、風疹、水痘、トラホームのやうな種類のものまでその數が夥しく、その害も恐るべきものが多い。

親はその愛兒については平常から心配しすぎるほど氣をつけるものである。殊に一朝その子が大病にでもおかされると心配のあまり自分をとりみだして、なすべきところを知らぬといふ場合が多い。これは子を思ふ親心の有難さではあるが、親としては

## 親ごころ

異常兒につい  
て

甚だ不覺であると言はねばならぬ。子を思へば思ふほど、心を落ちつけて適切な療養の道を見出さねばならぬ。

身體の發育の異常な子供を異常兒といふ。異常兒は精神的に缺陷を伴ふことが多いものである。例へば頭の特に小さいもの、即ち小頭、または非常に大きいもの、即ち巨頭といはれるもの、其他大いさは普通であつても形が異常なもの、例へば偏曲してゐるとか、幅が廣いとか、著しく高いとか言ふやうなものはともに異常兒であつて、その知力は通常の子供に劣るものである。性格異常兒や病的な早熟兒などもどこかに身體的異常があるのを常とする。これら異常兒の出來る原因は、先天的には遺傳が最も主な原因であるが、親の飲酒や鉛中毒などの影響によることも少くない。後天的な原因としては、頭部の外傷や腦膜炎、腦炎、急性熱性傳染病、五官の疾患などを數へることが出来る。これらの原因の中には親

の注意と手當によつて取とめることの出来るものが少くないのは、我等の深く記憶すべきところである。

### 第五節 精神の發達

子供の精神がいつ頃から發達して來るかと言ふことは兩親にとつて興味ある問題である。しかしそれは分明ではない。丁度東雲の空があかるみ初めて次第に夜明けが來るやうに、子供の精神にはいつとはなしに明るい世界が來るものである。かくして發達した精神活動には三つの作用がある。即ち、外界の事物や現象を認知する働きがその一で、これを知的作用といふ。認知した事に快不快の情をいさぐ、これがその二で感情といふ。かくて我等は愉快なものを求め不快なものを斥けるやうに努力する。この動作を要求する働きがその三で、これを意志作用といふ。知情意は心の働きの三方面である。

精神活動の三  
方面

### 第一 知の働き

#### 一、感覺と知覺

精神の働きの最も原始的なものは感覺である。感覺の主なるものは五官によつて營まれるもので、視覺、聽覺、嗅覺、味覺、皮膚覺がこれである。なほこの外に運動感覺キネシチックや有機感覺オガニクと呼ばれるものもあるが、知識の基礎になるものは五官を通した五つの感覺であるので、「五官は知識の門戸なり」と言はれてゐる。

感覺のあらはれて來る時期は明瞭でない。また何れが先後とも決し難い。視覺のうち光覺は既に出生と同時にあらはれて來るが色覺の發達は遅く、嬰兒は二ヶ月目位になつて漸く赤い色を見て喜ぶやうになる。聽覺は出生三、四日にしてあらはれ、二ヶ月頃になると音のする方へ頭を向けるやうになる。嗅覺は子供では鋭敏でなく、青年期に至つて著しく發達すると言はれてゐる。

感覺の種類

感覺の發達

これに反して皮膚覺は早くより現はれるもので、嬰兒が温湯に浴することを非常に喜ぶのはこれがためである。運動感覺、有機感覺も亦早くより現れ、初生兒はこれによつて饑渴、異常を訴へるものである。

感覺器官を通じて受けたこれらの感覺的印象を一つに統一してこれに意味をつける作用を知覺といふ。物の大小、形、方向、位置などを知るのは空間知覺と言つて、眼に映る大小、明暗、物に觸れる感じ、手足の運動などの關係からこれを知るの、主として視覺と觸覺との結合である。また時間の経過を知るのは時間知覺といふ。過去、現在、未來を識別するのはこの働きである。空間知覺は初めは不正確であるが、幼兒後期になつて、學校に入學する頃は相當正確になつてゐる。しかし時間知覺は發達がきはめて遅く、此頃でもなほ甚だ不完全である。なほ知覺の一種に類化作用と名

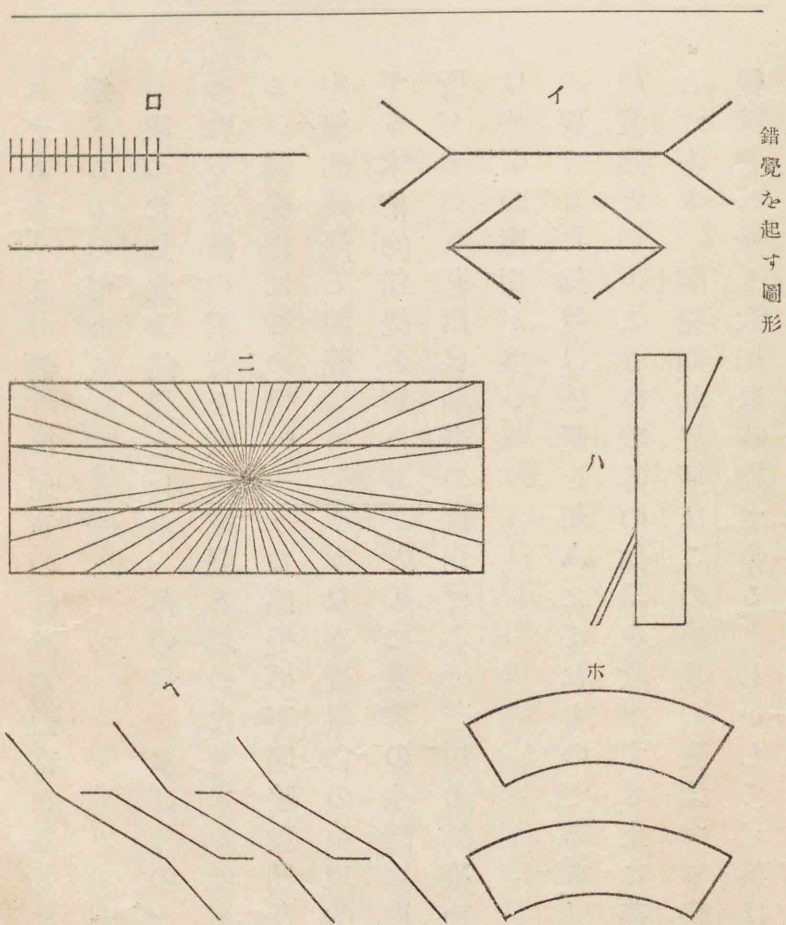
知覺の意義  
物の大きさ、形、方向、位置

空間知覺

時間知覺

類化作用

錯覺



錯覺を起す圖形

づけられるものがある。我等が事物の意味を知るのにはこの働きて、感覺的印象に過去の經驗が加つたものである。「一斑を見て全豹を知る」と言ふのがこ

錯覺

れである。この働きは兒童の經驗が豊富になるに従つて漸次發達するものである。

誤つた知覺を錯覺といふ。薄の風になびくのを見て幽靈と思つたり、水鳥の羽音を敵の夜襲と思つたりするのがこの錯覺である。錯覺にはこの例のやうな感覺の不明瞭、豫期及習慣から來る中樞的錯覺と、視覺にあるやうな感覺器官の生理的構造のため生ずる末梢的錯覺とがある。ともに我等の生活に應用されてゐる所が多い。落語は前者の應用であり、芝居の舞臺面、パノラマ等には後者の應用が多い。

感覺の練習

要するに知覺は感覺を組みたてたものである。それゆゑ感覺の發達といふことは我等の知識を收得する上に非常に大切なことである。嬰兒期、幼兒期はこの感覺の發達する時期であつて、感覺練習に最も大切な時期である。しかして玩具はこの感覺練習

玩具

に欠くべからざるものである。

玩具の種類は多いが、視覺の練習となるものには、風車、風船、造花、旗類、犬張子、吊し猿などが挙げられる。これらのものを乳兒の枕もとに立て、或は吊しなどすることによつて視覺の發達を助けることが出来る。聽覺練習としては、風鈴、がら、でん、太鼓、笛、ハーモニカなどを或は傍から鳴らして聞かせ、或は自ら鳴らさしめるがよい。皮膚覺及び運動感覺を練習するためには、おしやぶり、木製乗物、毬、起上り小法師などがよい。なほ漸く長ずるに及んでは繪本、樂器、蓄音機、ブランコ、木馬、自動車といふやうな兒童の活動性を満足せしめるもので、且つ感覺の練習になるものを選びべきである。

感覺の教育

このやうにして感覺を練習することはやがて知覺を正確ならしめるもととなり、確實なる知識を把握する源となるものである。

そしてこの練習の時期は一生を通じて嬰兒期幼兒期の六ヶ年を除いては適當な時がないのである。世人は往々言葉を教へたり、文字を教へたりすることをもつて教育と心得、その基礎となるべき感覺の練習の如きを忘れてゐるが、これは大なる誤りであつて、よい家を建てようと思ふならば土臺よりうちかためねばならぬやうに、すぐれた知能の教育は先づ感覺の練習から始めねばならぬものである。

## 二、直観

實物について特に注意をはらつて知覺するのを直観といふ。直観すると言ふ言葉は、常識では實物を見るときといふ意味に使はれてゐるが、これは視覺がもつとも有力な感覺器官であるところからかう言ふのであつて、あながち見ることに限つたわけではない。手にふれて硬軟を知り、持つて輕重をわきまへ、食べてこれを味ふ

### 直観の意義

といふやうなことも物によつては皆直観の働きである。即ち實物によつてあらゆる感官を使用して嚴密に知覺することが直観である。例へば繪に書いた林檎を林檎だと認識することも知覺であるが、更に實物について視覺をはたらかせ皮膚覺を使用し、味覺に訴へて、見、持ち、食へることは一層嚴密な知覺でこれが所謂直観である。

### 直観の用

「百聞一見に如かず」と言ふやうに、直観は理解を速かにし、知識を確實にし、且つ記憶をたしかにするものである。殊に直観は事物、現象をそのありのままの生き生きした相すがたに於て知覺するものであるから、生きた知識を得ることが出来る。繪だけで知つてゐる軍艦は靜寂なものであるが、直観した軍艦は、濛々と煙を吐き、ひらひらと旗をなびかせ、水兵が艦上を往來し、機關の音が轟々となり、頗る活動的なものである。即ち直観によつた知識は現實的で活

直觀を助けるもの

動的で生命がある。直觀が教育上、重んぜられねばならぬ理由がここに存するのである。

模型、繪畫、寫眞の類は實物ではない。しかしただ何物にもよらずに話だけ、言葉だけで聞くよりも實感を伴ふことが多いものである。それでこれらを直觀的方便物といふ。昔コメニウスは「豫め覺官に訴へないもので、眞に理解し得るものは一つもない」と言つて、直觀の大切なことを力説し、「世界圖解」と言ふ繪入教科書をはじめて作つたのである。

直觀の教育

子供には初め、感覺の練習といふ意味で、音をたてるもの、色のあつたもの、さまざまの形などを與ふべきである。しかし物心づくに従つて、繪本を與へ、模型的な玩具を選び、或は折あるごとに公園、動物園、野外海岸につれ出して、生きた知識を與へるやうにせねばならぬ。

注意

### 三、注意と記憶

心の作用のうちで自覺せられ得るものを意識といふ。然らざるものは無意識作用である。意識は一つのものに集中することが出来る。これを注意といふ。注意の向けられた所においては意識が殊に明るく、その外の所においては暗いものである。

子供の注意

子供の注意は非常に動き易い。繪本を見てゐても前を物賣りが通るとすぐ駈け出して行つたり歸つて來るともう繪本のことには忘れてお八つを下さいと言ひ出す。これは外來の刺戟が大きかつたり、動いてゐたり、利害關係があつたりするとすぐその方向がひかれるからで、大人にも屢あることである。この種の注意は無意識注意と言はれてゐる。これに反して先生の話を聞き洩すまいとしたり、文字を正しく書かうと言ふやうな時は自ら努力をして注意をつづけて行く。これを有意注意といふ。子どもにも有

無意識注意

有意注意



意注意のあらはれるのは大變後のことで、多少の慾がついて來てからである。有意注意も反覆練習の後には機械的になつて、何等緊張を感じずして注意をつづけることが出来るやうになる。これを第二次の無意注意と言ふ。物を考へ乍ら歩いたり、足でミシンを踏みながら手で別な仕事をするこの出来るのもこの働きによるものである。

注意には以上述べたやうに一點に意識を集中して、他に散るのを止めるといふものもあるが、また廣い範圍に涉つて滿遍なく意識を配るといふやうなものもある。昔、劍道の達人が油斷をしてゐるやうであつてどこにも油斷のない境涯に達してゐたといふのは後者である。

注意力の如何がその子の能力を決定する標準になるものである。注意の散漫な子供は能力が低いと思はねばならぬ。しかし

注意を配る

注意と能力

注意の  
律動

記憶

印象

練習と修養によつてはこれを改めることも出来るのである。注意力の足りないものは何をなしても成功することが出来ない。母はこれを思つてその子の注意力の養成のためによい習慣を作らねばならぬ。

知覺したことがらを覺えてゐて折にふれ、必要によつて思ひ出す働きを記憶といふのである。従つてよい記憶と言ふのは、長く、正確に覺えてゐて、迅速に思ひ出せることである。記憶には二種類あるとされてゐる。その事柄をそのまま、所謂鵜呑みに覺えるのは機械的記憶で、よくその理由を考へ、筋道をたどつて覺えるのは論理的記憶である。言語、文字、名稱等を反覆して語記するのは前者であつて、地理に於て都會の發達と河川の關係を覺えたり、理科に於て電磁石の性質から電話機の構造を記憶したりするのは後者である。幼少の頃は機械的記憶が盛んで、殊に七八歳から十

記憶力の消長

四歳までは一生を通じて最もこの記憶力の強い時である。それ以後は論理的記憶がこれに代るものであるが、凡そ二十四五歳をその頂點としてゐるのである。それゆゑ一生記憶すべき事柄たとへば乗算の九々とか文字とか言ふものは子供の時に記憶せねばならぬ。

記憶の型  
どう言ふ方法に訴へた方が記憶し易いかと言ふことは、人によつて異なるものである。聴覺型のは耳を働かすのがよく、視覺型のは眼を働かすのがよい。また運動型のは運動に訴へるがよい。しかし普通は混合型に屬するといふ人が多いものであるから、いろいろにやつて見るのがよいと思はれる。父母は子供の記憶がどの型式に屬するかを究めて、それに應じた取扱ひをすることが大切である。

一つのことを思ひ出すとこれに關係した外の事がすぐ思ひ浮

## 聯想

ぶのを觀念聯合または聯想といふ。たとへば半鐘と火事、日と月と言ふやうな類で、日常よく接近して經驗するものや類似してゐるもの、或は正反對のものなどは聯合し易いものである。無意味な數字を覺えるのにこれに關係のありさうな意味をつけて覺えるのなどはこの應用と見ることが出来る。佛教の傳來はオ一二、オ一二だなどと言ふのがこれである。

記憶の用  
記憶は精神生活を組み立てる柱のやうなものである。記憶といふことがあつて過去の經驗を保存してゐるためにそれを素材として新らしいことを理解し精神生活を組み立ててゆけるのである。我等の知識は多くはこの記憶によつて出來たものと言へる。それゆゑ記憶の良否は學習上にもまた社會生活上にも非常に深い關係があるものである。

## 記憶検査

記憶の良否はこれを検査することが出来る。機械的記憶は聯

絡のない語を読み聞かせてその記憶してゐるところを記述させ、論理的記憶は意味のある文章を読み聞かせてその記憶してゐるところを書かせなどして検査することが普通に行はれてゐる。これによつてその子供の傾向を知ることが出来たら、それを教育の参考にして行くことが大切である。

#### 四、想像と思考

過去の経験を結合してまだ知らないことを考へ出す働きが想像である。記憶が柱ならば想像はその柱を色々に自由に組み立てて新しい家をつくることである。この想像には二つの種類を考へることが出来る。その一つは旅行をした人の話を聞き乍らその地のことを思ひ浮べて見るといふやうな想像で、これは他人の指導のもとに過去の記憶を組み立てて行つたといふ風な想像であるからこれを受動的想像(再生想像)といふ。これに反して自

想像

再生想像

構成想像

空想、妄想、理想

子供の想像

童謡童話

分が自ら工夫を擬して繪をかいたり文章をつくつたりするのは、自分で一定の目的の下に記憶を結合して行くのであるから能動的想像(構成想像)といふのである。他人の文章を理解するのは前者であり、美術、文學、發明などは後者の産物である。

その外、空想、妄想、理想などと言はれるのも想像の働きて、その内容が實際からかけ離れてゐて到底實現の見込のないものを空想と言ひ、现实生活との間に道德的矛盾のあるものを妄想と言ひ、實際になつてゐてその實現を希ひ、それを實現しても现实生活と矛盾することがないものを理想と言つてゐるのである。

子供は幼少の時から想像の働きが盛んである。同じく一本の棒が立てれば兵隊さんになり、横たへれば汽車になり、かつげば鐵砲になり、さげれば劍になるといふ風で、子供の想像は誠に自由である。童謡、童話、遊戯などはこの自由な想像の翼に哺くまれて生

玩具

れて来た創作であつて、子供の想像はこれによつて養はれるものである。玩具はここに於ても大切な役目をなすもので、常に子供の遊戯の相手になるものである。既に述べたやうに子供の想像は自由なものであるから、この方面から言ふと玩具は簡單で、堅牢で結合分離の自在なものがよい。積めば城ともなり軍艦ともなり、ならべれば汽車ともなり、兵隊ともなるといふものがよい。この點に於て積木は最もよい玩具である。普請場で拾つて来た木屑には玩具屋には見つからない面白い形をしてゐるものがある。子供の自由な想像はまた生命のないものに生命を與へる。枕を負つて子守唄を歌つたり、お人形と話をしたり、蓄音機に着物を着せたりする。ここに童謡の國があり、童話の世界がある。そしてこの樂園に遊ぶことの許されるのは幼年期に限られて居つて、この時代を逸しては一生のうちに再びこの機會を捉へることが出

自由な想像

想像の教育

來ないのである。しかも子供はこの想像の國に思ふ存分に遊ぶ



童話大名家アンダーセンと子供

ことによつて、すべての創作的活動の基礎をつくり、その創作的活動によつて文化の發達を促して行くのである。それゆゑ玩具、童話、童謡、遊戯によつて、子供に豊かな想像の生活を營ましめることは子供の生活を最も有意義にする

子供の嘘

ものである。子供は想像の働きが盛んであるため、想像したことと現實にあつたことを混同して、うそを言ふことがある。このやうなうそ

想像作用が論理的に行はれるのを思考といふ。思考には客観的な思考と主観的な思考とがある。客観的な思考といふのは起上り小法師の起きるわけを考へたり、馬、牛、犬、猫などの共通點や異つた點を考へたりするのがそれで、主観的な思考といふのは、自分はなぜ間違ひをしたのだらうとか、自分は何故かう嬉しいのだらうなどと、自分の精神生活を反省してその間に新しい結論を見出すことである。前者は數學、理科などの學習の基礎になり、後者は修身、歴史などの學習の基礎となるものである。

思考の種類

子供の思考

は道徳的責任のないうそであつて、子供自身も、實際あつたことと信じてゐるのである。子供はまた夢と實際とを誤つてうそを言ふことがある。このうそも前と同じ性質のものである。これらのうその取扱ひは教育上きはめて注意せねばならぬことである。想像作用が論理的に行はれるのを思考といふ。思考には客観的な思考と主観的な思考とがある。客観的な思考といふのは起上り小法師の起きるわけを考へたり、馬、牛、犬、猫などの共通點や異つた點を考へたりするのがそれで、主観的な思考といふのは、自分はなぜ間違ひをしたのだらうとか、自分は何故かう嬉しいのだらうなどと、自分の精神生活を反省してその間に新しい結論を見出すことである。前者は數學、理科などの學習の基礎になり、後者は修身、歴史などの學習の基礎となるものである。

思考の教育

でないとその發生を認めることが出来ない。思考作用が発達する頃になるとさしも盛んであつた想像もその翼をすばめ、子供は童話を去つて實話につき、玩具も實物に近く科學的知識の應用されてゐるものを好むやうになる。判じ繪、考へ物、數學的な遊戯などが行はれるやうになつて、子供は次第に理知的になつて來るものである。

思考作用は工夫發明の素地を作り、科學的研究の態度を養ひ、内省の力を與へるものであるから、父母教師はこれが教育に留意せねばならぬ。それにはつとめて子供を思考せねばならぬやうな必要の中におくと云ふことが先づ第一に大切である。必要は發明の母である。次に、自ら新境地を開拓する愉快を與へることである。一題の應用問題を解くにもその快はある。第三にその結論の適否を反省せしめることである。これは思考を正確ならし

思考の階段  
鳥ノ通有性  
草ヲ食フ  
ヒトノ  
ナチカエ

める唯一のむちである。

思考の簡単なものは比較である。比較作用によつて類似の點を集めて一つの新しい名詞をつくれれば概念が出来る。概念の性質を言ひあらはすことを判断と言ひ、既知の判断から新しい判断を作ることを推理と言ふ。概念、判断、推理は思考の論理的階段を示すものである。

五、言語と文字

言語と文字とは人の思想感情を發表し傳達する道具であつて、人間の創作にかかるものである。人類の文明が今日のやうに進歩したのはこの二者の力に俟つところが頗る多い。

ある西洋の婦人が報告してゐるところによると、その人の姪が始めて用ゐた三つの片言は數ヶ月の進化を経て始めて或意味を示す語になつたといふ。その一は、或ものを指し示す自然の叫聲

言語と文字

言葉のはじめ

白鳥  
黒鳥  
ア  
マ

で「ダ」といふのであつた。大人で言へばソコに相當する語である。第二は自然に發する否定の語で「ナナナ」といふ「いや」と云ふ意味の語であつた。第三は子供の要求服従を示す自然の聲で「ママママ」または「ムム、ムム、ムム」といふのであつた。子供の要求を満すものは母親であるから、ママといふ聲は自然母親と聯絡するやうになり、又教へられる結果母といふ意味の語になつて終つた。かくて言葉の第一歩を踏み出したが、その後も言葉らしいものは、意味を他人に傳へるといふものでなくて、感嘆詞が多かつた。そして第四番に「ないだめだ」といふ意味をあらはす「ゴング」といふ言葉が出来、第五番に「カー」といふ嫌惡を示す語を覺えた。この後の語彙は發明語の外、皆模倣によつて覺えたといふのである。これが一年間に覺えた語彙の順序で、この例は西洋の子供の例ではあるが、子供の言葉を覺え始める第一歩はすべてかくの如きものである。

喃語期

言語の發達は、大要次のやうな階段をとるものである。

一、喃語期 生れて滿一ケ年ほどの間で、始めはクークーといふやうな無意味な音を自然的に發する。やゝ進んで自己の周圍に氣がつき出すと、母の聲を聞いて自分も出して見るやうになり、後には可なり複雑な眞似も出来るが、まだ言語といふ程のものではない。要するにこの期は言語の準備期である。

單語期

二、單語期 一歳から二歳位の間であつて、特別な意味をもつてゐる語を覺える。ワンワンとかウマウマとか言ふのがこれである。この單語はただ物の名にとどまらないで一つの文章を意味してゐるものである。即ちワンワンと言ふのは「これは犬だ」とか「犬の玩具がほしい」とか言ふ意味をあらはしてゐるものである。物に名があるといふことを知つたのは子供にとつての大發見で、かくしてこの期の終りには千乃至二千の單語を覺える。

文章期

三、文章期

三、文章期 二歳以後になると單語をならべるだけでなく、動詞や形容詞を變化させて、お話が出来るといふやうになる。これが文章期である。二歳半以後になると、接續詞や關係代名詞も用ゐるやうになり、かくて次第に精細に自分の思想を表現するに至る。このころになると自分の實際の要求に關するものだけでなく、事物の原因や時間などについて「なぜ」とか「どうして」とか「いつ」とか言ふ質問もする。かくて三歳頃には一通りの話が出来るといふやうになるのである。

言語の教育

純粹な國語に親しみますことは、國民的志操を陶冶する上に極めて大切なことである。それ故子供の發音は正確に純粹にといふことを標準にして導き、言葉は方言、外國語を避けて標準語により、つとめて野卑、輕薄に流れぬやうに注意せねばならぬ。子供は兒童語と稱して語をもぢつて勝手な言葉をつくり、また秘密語、隱語

文字

文字の種類

などと稱せられるものをしきりに新に作り濫用して正しい國語の發達のさまたげとなるやうなことをするものであるから注意せねばならぬ。

文字は、廣く一般に自己の思想感情を傳へ、永遠に残すことが出来るといふ點に於て言語よりも更に進歩したものである。

文字には音表文字と象形文字との二種がある。假名や洋字は前者であつて漢字は象形文字である。音表文字は音をうつしたものであるから、文字の数が少く學習に便利で、これを使用するにも簡單である。しかし字に親しみがうすい。これに反して象形文字は、形をまねて作られたもので繪が圖案化したやうなものであるから、字に親しみがあつて、語としても複雑な意味を含めることが出来る。例へばハシと書くのはこれを書くことも學ぶことも容易であるが、意味が明瞭でない。しかしこれを象形文字で

文字と言語

古文 (篆)	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
篆書	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
隸書	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
楷書	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
行書	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下
草書	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下	上	下

箸橋、端と書けばそれぞれ特有の意味をあらはすことが出来る。ただ象形文字では字数が多く且つ複雑で使用することも容易でない。

文字は言語を縁として發達したものであるがまた文字によつて多くの語が作られるやうになつた。かくて言語は益々豊富になつた。しかしして人類の經驗思想はこれによつて簡單に記録され發表されるので、文明は急速の進

歩を遂げるに至つた。言語と文字は人類の最も誇るべき最も貴重な發明であり、財産である。

第二 情意の働き



感覺的感情

二 情緒と情操

感情は一般に「こころもち」と言はれてゐる。最も簡単な感情は感覺的感情と言つて感覺に伴ふところのものである。例へば嬰兒が湯に入れられて嬉しさうにし、笛や太鼓の音に喜び勇むのがこれだ。皮膚覺、聽覺に伴ふ快感を示すのである。感覺的感情はきはめて漠然たる感情であるが、これが本能と結びつくと喜怒哀樂、恐怖、心配、失望、憎惡、愛情などの、やゝ複雑な、そして可なり強い感情となる。これを情緒といふ。子供の感情生活は多く情緒の生活である。

嬰兒に早くもあらはれる情緒の傾向は、恐怖に關係したものの、怒りに關係したもの、喜びに關係したものの三種である。嬰兒が暗闇を恐れて泣いたり、乳を求めても與へずにあると顔を眞赤にして泣きさけび、軽くたたいたり揺すぶつたりすると喜ぶのは誰で

皮肉な感情は本能と結びつくと喜怒哀樂、恐怖、心配、失望、憎惡、愛情などの、やゝ複雑な、そして可なり強い感情となる。

情緒

嬰兒の情緒生活

恐怖

も氣のつくことである。この三種の傾向は漸次複雑多様となつてさまざまの情緒となるものであるが、その主なるものは次のやうなものである。

**恐怖** 恐怖の對象となるものは、暗闇、大音響見なれぬもの、獨居などである。恐怖の中には、例へば危険や罰に對する恐怖のやうに、將來社會生活をなすに必要なものもあるが、その多くは勇氣のないことを示すものとして、排斥し矯正されるものである。それで家庭では子供の恐怖心を刺戟するやうなことは、つとめて避けねばならぬ。あぶない、こはいなどと言ふ言葉を家庭から退けるのもよき母の心づかひである。

**忿怒** 恐怖は退嬰的であるが忿怒は突撃的で、身體的な動作を伴ひがちである。自由が許されない場合、要求が容れられない場合などに子供はよく怒るものである。怒りは發しては喧嘩とな

忿怒

り、鬱しては憎悪、怨恨となり、變じては悲哀復讐となるので、反社會的なものとして、戒しむべきものとされてゐる。しかし一方には所謂發憤義憤といふやうな奮闘的精神の基ともなるものであるから、これを何等かの意味で満足せしめ、この情緒のよき發達を期せねばならぬ。

## 得意と卑下

## 得意と卑下

人の前で自分を見せびらかさうとする心もちが得意であり、力の強いものの前に自分を賤しみ、機嫌をとつたり甘えたりするのは卑下であつて、共に自意識の發達に關係するものである。得意の情は、名譽心の基となり、勇氣、果斷、努力の源泉となるが、不適當に發達するとかへつて子供の無邪氣さを奪ふものである。子供の前でその子を批評することはその子の自意識を早熟させ、得意、失意の情を刺戟しすぎて子供をいぢけさすものであるから、慎まねばならぬ。また餘り干涉にすぎて小言が多いと、自

## 愛情と同情

分を卑下しすぎて卑屈となり、人の顔色を見てものを言ひ兼ねるやうになる。傲慢に流れず、卑屈に陥らぬやうに自意識の發達に留意して子供を取扱はねばならぬ。

## 愛情と同情

嬰兒でも、親が笑へば笑ひ、外の子供が泣けば一緒に泣き出すものである。これが同情の初めであつて、この最初の同情は他人の表情をまねるところから來るものであるから、これを生理的同情といふ。しかし漸く長じて知識經驗が進み、想像が發達するにつれて、他人の快不快を、自分の快不快の如く感ずるやうになる。これが眞の同情である。愛情は親子、兄弟、夫婦などの間に自然的に發するものであつて、同情にくらべて一層積極的で、その愛するものの利益幸福を祈り、そのためには自分の生命をなげうつものなほ辭せないものがある。この二つの情は社會生活を形づくる根幹となるものであるから、これを社會的感情といふ。

情緒の性質

本能性

本能性  
本能性  
本能性  
本能性  
本能性

上來述べ來つたところの情緒は、子供の生活に現はれる情緒のうち、<sup>二、から情操</sup>の代表的なものであるが、これらの情緒に共通に見られることは何れも本能的のものであるといふことである。即ちこれらの情緒は何れも先天的にあらはれるもので、多く有機感覺を伴ひ、且つきはめて身體的行動を起し易いものである。しかもその行動は多く本能的行動に屬するものである。恐怖に伴ふ逃走、嫌惡に伴ふ排斥、忿怒に伴ふ争鬪など皆本能である。それ故、情緒は本能と離してこれを考へることが出来ない。<sup>かやとけりひん</sup>感覺的感情と情緒との異なる點は、後者が陰に陽に、自己の利害の念に伴つて生ずるものであるといふことである。恐怖はまさに來らんとする危害を豫想して起るものである。忿怒は自分に不快を與へるものを取りのけようとして起る感情である。得意は自分の價値を誇り、卑下は自分の無價値を知るにより、同情愛情も

利己的

表情

表情

自分を愛してくれたいものに對して先づ感ずるものである。この點から考へると情緒はきはめて利己的な色彩の強いものである。情緒は必ず身體的にあらはれるものでこれを表情といふ。表情はその感情を一層強めるものである。悲しいから泣く、泣くから一層悲しくなるのが通例である。それゆゑ表情を統御することはやがて感情の激越に流れるのを防ぐ道であつて、古來東洋に於て喜怒哀色にあらはさぬのを修養の極致としたのは、かかる理由にもとづくものと思はれる。

情緒が一層深化したものは情操である。即ち情操は情緒が、經驗と教育とによつて統一され醇化されたものである。情緒生活<sup>シヤウジツ</sup>が野人の生活なら情操の生活は紳士淑女の生活である。情緒がどこまでも利害の念に即してゐるのに反して、情操は自他の利害を超越して、事物そのものの價値を感ずる情である。従つて自意

識の強い幼年、少年少女の時代の感情生活は情緒の生活を脱することが出来ぬが、漸く知識、經驗が加はつて、自己を離れて事物を事物のありのままの姿で見ることが出来るやうになると、情操の生活に入るものである。知的情操、道德的情操、美的情操、宗教的情操等がその主なるものである。

## 知的情操

**知的情操** 疑惑にあへば不快を感じ、難問が解ければ愉快に思ふのがこの情操で、即ち知的活動に伴うて起る快、不快の情である。學者や發明家が寢食を忘れて眞理の探求、發見、發明に没頭するのはこの感情によるものであつて、子供には未だかやうに深いものは見ることが出来ぬけれども、既に知識を求め、知的活動に興味をもつものであるから、この萌芽を見失はないやうにせねばならない。

## 道德的情操

## 道德的情操

自分の行爲をかへり見て、やましいところがあれば

ば暗い心になり、正しい行爲をした時には明るい心になるのはこの情操があるからである。他人の道德的行爲に對しても同様に感ずるものである。我等の道德的行爲は、一方にこの情操があり、他方に道德的識見が存して始めて立派に行はれるものである。子供の生活は幼年時代に於ては殆んど無道德に等しいものであるが、善惡の觀念が發達するにつれて、道德的情操も養はれ、社會に對する意識の發達と相俟つて次第に道德的生活をなすやうになるのである。父母、長上の賞讃と批評とはこれを助長するに力がある。また反省の習慣は道德的生活を深化するに役立つものである。

## 美的情操

**美的情操** 美しいものに對する恍惚の情、醜いものに對する不快の情がこれで、優美、壯美、悲哀美、滑稽美と稱せられるのは皆この情操である。自然の風光を愛し、繪畫、彫刻、音樂などの藝術を鑑賞

するものもこの情操からである。この方面の性格を趣味と言つてゐる。子供の趣味はまだ意識的永續的なものではないが、美に對する感激はなかなか強いものであり、理解も相當に深いものであるから、早くより注意してこの感情を育てねばならぬ。名畫や名曲に接する機會を多くすることや、兒童畫、童謠、詩歌、作文の教授、技術の練磨、鑑賞の指導等は、この方面に於ての大切なところづかひである。

## 宗教的情操

**宗教的情操** 絶對の力に歸依信順する情である。即ち人生の無常世態の轉變、人間惡に對する深い反省を表とし、絶對の救濟を裏とした感恩、法悦の心境である。子供の宗教生活は周圍のものの宗教生活に支配されることが多い。しかも絶對を感得する力はなかなか強いものがある。その何れよりするも子供を宗教的な雰圍氣のうちにおくことが大切である。

## 感情の性質

感覺的感情、情緒、情操等すべての種類に涉つて考へて見るに、感情の主なる性質は快と不快である。しかし同じく快であり不快であるといつても時と場合によつて、興奮、沈靜、或は緊張、弛緩の情調を帯びるのが常である。例へば遠足の前夜と試験の翌日とは、愉快は愉快であるが前者には緊張があり、後者には弛緩がある。またピアノの演奏と尺八の吹奏とは一は興奮を伴ひ、一は沈靜の情調を伴つてゐる。

感情はまた人により時によつてその趣を異にするものである。同じく明月に對しても、月見れば千々に物こそ悲しけれ、わが身一つの秋にはあらねど、大江千里と嘆く人もあれば、この世をばわが世とぞ思ふ望月の、缺けたることなしと思へば、藤原道長と満悦の情おさへ難い人もある。殊に記憶せねばならぬことは、同じ對象に對して同じ人の懐く感情が、時によつて變ることである。昨

日の愛人が今日の怨敵となつた例は世上に珍らしくない。即ち心を海にたとへれば、感情はその表面に飛沫をあげてゐる波のやうなもので、何等の常任性、不變性を求めることが出来ない。この傾向は情緒に於て特に著しいものがある。しかも人間の精神生活は感情九分意志一分といふもので、そのまた感情生活は殆んど情緒の生活であるといふことが出来るから、愛憎日に異にし、信疑時に同じくないのが人間の内的生活の真相である。人一度この真相を自覺する時、誰しも涙なきを得ないであらう。ただここに情操の生活があつて、この常住なき情緒の生活を統一し醇化して行くのである。殊に宗教的情操は、この不斷の波に常住の月を宿し、愛憎きはまりなき内的生活に無碍の光明を投げるものであつて、情緒の生活に破れおののき疲れたる人間は、この情操の世界に於てはじめて永劫のやすらひと慰めとを得るものである。

## 感情の教育

感情を教養する唯一の道は、これを「いたはる」といふことにある。感情は道理をもつてこれをおさへることがむづかしい。瞋恚の炎に怒り狂つた時、如何に理性の水をかけてもこれを消すことは出来難い。半焼けて煙を出してゐる程度にしか鎮まらず、これでは感情を養ふことにはならない。かゝる場合にあとかたもなく燃やして終ふことがよい教養となるものである。社會的な感情も反社會的な感情もこれを十分に満足せしめることによつて豊かな感情が養はれるものである。しかしてこれを満足せしめるといふ途が、いたはるといふことである。このいたはるといふ方法は、感情其ものを發揮せしめるといふ方法ではなくして、感情を和ぐるに感情をもつてするといふ途である。先に述べたやうに感情は表情を伴ひ、表情は感情を深めるものであるから、一つの感情を節するために故意に他の感情の表情をするのも感情を他に流

## 表情の轉向

## 内面化

してこれを和ぐる途である。悲しみ極らんとして笑ひに紛らすと言ふやうな東洋古來の倫理がこれである。更に進んだ途は感情の内面化である。内面化といふのは反省によつて和げて行く道である。例へば怒りの情が激しく起る時、すべての人間が怒りといふ情に虐げられてゐるといふ事實を憶念すれば、人間の共同の運命に對するしみじみとした心持が起り、人類に對する同情同感の世界がひらけて、いつしか怒りの情が和げられて行くのである。詩歌の道は心に餘裕を與へ、自然及び人生に對する同情同感の心を開くことによつて人間の情を和げるものである。「とんぼつり今日はどこまで行つたやら」(千代)と吟んだ時、子を失つた母の嘆きは十二分になぐさめられてゐるのである。「ふるさとやよるもさはるも茨の花」(一茶)。かう詠んだ時、繼母に對する恨みも、弟に對する怒りも一茶の胸から消えたことであらう。ここに感情に

走らずして感情を満足して行く道があるのである。しかしながらこの内面化の道も要するに人間の心のなかの處置であるから、尚ほ最後の解決となし得ないところがある。即ち人生には人間の心に包み切れぬ大きい怒り、悲しみ、ねたみ、憂ひがある。これらの感情は、絶對の世界に觸れて行く道が開かれない限りは、和ぐるに詮なきものである。親鸞聖人が流罪に遇はれた時、大師聖人源空もし流刑に處せられ給はずば、我亦配所におもむかんや、我配所におもむかずんば、何によりてか邊鄙の群類を化せむ、これなほ師教の恩致なり。と言つて居られる。この言葉にあらはれてゐるところは、普通の詩歌にあらはれてゐる心やりとは大いに異つたものがある。即ちこの言葉の裡には、大いなる力が働いてゐる。その力の前には、怒りも悲しみも一様に消えて、その怒り、悲しんでゐた心をいた

絶對のまことの融化

はられて行く、しみじみとした境地がある。かかる境地を絶對の「まこと」の融化といふ。この絶對の「まこと」の融化によつて人間のすべての感情は残すところなくいたはり養はれて、心ゆくばかり豊かな精神生活を味ひ得るものである。ここに宗教的情操の偉大なる力を認むることが出来る。

二、本能

子供は何等の學習をすることなしに、生後ただちにその生を保つために有用適切な動作をなすものである。この種の働きは後來發達し來たる高等な意志作用の準備をなすものである。反射運動及び本能運動がこれである。

反射運動

有意的な運動といふものは、外界の刺戟に對して意識がはたらいて始めて動作を起すものであるが、ごく單純な運動になるとこの意識の媒介なしに直ちに動作を起すものがある。例へば瞬き、

本能運動

嚏、咳などは何等意識を働かすことなしに刺戟があると反射的に反應をおこすもので、かかる運動を反射運動といふ。

本能運動は更に複雑な生得的運動で、反射運動にくらべると意識的で、且つ感情と相伴ふものである。ただ後に發達する高等な意志作用と異なるところは、一定の事情のもとでは必ず一定の傾向が現れて來ることである。幼兒が飢ゑると泣き、唇に乳首が來ると吸ひ、掌に物が來ると握るのはこの本能運動のあらはれである。本能運動はその數がきはめて多い。これをその傾向によつて、自己保存の本能、發達的の本能、社會的の本能、種族保存の本能の四種に分類することが出来る。

自己保存の本能

自己保存の本能 この本能はもつとも早くあらはれるもので、初生兒が生れるとすぐ乳を求めて泣くのはこの本能である。この本能の特色とするところは、その動作が自己保存のために密接



恐怖本能

争闘本能

所有本能

蒐集本能

食慾本能

な關係があるといふことである。この本能のなかにも數種の異つた傾向を認めることが出来る。先にのべた恐怖の情緒は、危険から身を避けるに役立つもので、これを恐怖本能と言ふ。慾望が阻止されると怒りの情緒が起るが、これは争闘によつて自己を守らうとするところから争闘本能と言はれてゐる。生命保存のために必要なものを求めてこれを所有しようとする傾向は、蟻や蜂などにもこれを見ることが出来るが、これは所有本能といふ。子供が食物や玩具をもとめて兄弟相争ふのは我等のよく見るところである。この本能はまた蒐集本能として特異な發達を示すことがある。子供がマツチのレッテルを集めたり、雑誌の口繪を集めたりするのはこの傾向のあらはれである。これらの本能はその強さに於て到底、食慾の本能に及ぶべくもない。食慾の本能はもつとも早くあらはれてしかも人間の一生にわたつてその發現

傾向

を見るものである。

自己保存の本能には二つの大きな傾向を認めることが出来る。即ち、自己保存のために有用なものを取り入れるのがその一の傾向で、食慾本能、所有本能、蒐集本能などがこれに屬する。自己保存のために有害なものを排斥するといふのが他の傾向で、恐怖本能、争闘本能などがこれに屬するものである。

發達的本能

**發達的本能**

本能のうちで心身の發育を助けるやうなものが發達的本能である。生後三四ヶ月目から現れる遊戯の本能や幼年の頃になつてお父さんの眞似をして人を笑はせる模倣本能などがこれである。この發達的本能にもまた數種の異つた傾向を認めることが出来る。嬰兒に見る驚きや怪しみは單純な好奇心の現れであるが、一箇年の終り頃には、孔があると指を入れたり、抽斗を一つ一つ開けたりするやうになる。これを求知本能といふ。

好奇心

求知本能

## 遊戯本能

三歳頃になると動植物の生活にも興味をもつやうになり、或は自然現象に注意して種々の質問を試みたりする。この傾向はしばしば破壊的な傾向を伴ふものである。器械の内部を知らうとしてこれをこはしたり、花の蕾をむしつたりするのはこれであつて、これが指導には細心の注意と満腔の同情とが必要である。幼児が自發的に喜んで遊び、好んでこれを繰り返へして、倦まないやうな傾向はこれを遊戯といひ、遊戯本能のあらはれである。遊戯は子供の全生活であつて、子供には外に仕事と言ふものがない。最初の遊戯はおしやぶりをなめたり、がら／＼をならしたり、かつこばあゝの如きもので感覺を使用する感覺遊戯であるが、外に出て遊ぶやうになるとままごと遊び、電車ごつこなどのやうな模倣遊戯にかはるものである。この模倣は想像の發達と經驗の集積とそこに歌謠性の發達も伴つて劇的遊戯を産むやうになる。「おてて

## 遊戯の發達

つないで野路を行けば……と謠ひながらはねまはるのはこの小さいいあらはれである。漸く長ずると義經になつたり辨慶になつたり、所謂劍劇ゴツコと稱せられるものともなり、また幕を引いて眞實に劇を實演するやうにもなる。特に女兒にはこの傾向が著しいやうである。しかし最も子供の興味を引くものは運動遊戯で、始めは個人的なひとり遊びをなすが、筋肉の發達と社交性の發生に刺戟されて次第に友を求めて遊ぶやうになり、八九歳の頃になるとお山の大将、かくれんぼ、鬼ごと、なはとびなどの共同遊戯をなすやうになり、十三、四歳頃からはベースボール、バスケットボールなどの複雑な競争遊戯をなすやうになるものである。遊戯の指導は幼兒教育の大切な部分を占めるものである。模倣本能もまた發達本能の大切な一面をなすものである。人の踊るのを見て、これと同じ動作をしたり、物賣りの聲をまねたり

## 模倣本能

社會的本能

するのがこれである。この傾向はかなり早くからあらはれるもので、子供はこれによつて言語の使用や禮儀作法や慣習を自然のうち学習するのである。

社會的本能

孤獨をさけ、友達を求め、この本能である。この傾向は生後三四箇月にして早くも現れるものであるが、特に著しくなるのは四、五歳からで、友達を求めて家を外にして遊びあ

社交性

る。十歳にもなれば一層著しくなつて徒黨を作るやうになる。社交心、同情心、協同心の基礎になるのでこれを社交性とも言ふ。この社交的傾向には一方に於て仲間を求めて徒黨を組み、仲間はずれとなることを嫌ふ傾向があると同時に、他方にはその仲間の中にあつて他に打ちかつて優越の地位に立たうと言ふ慾求がある。これを別に優越本能と言ふことがある。「お山の大将」はこの傾向の現れである。賞讃を喜び、叱責を恥づるのもこの故からで

優越本能

種族保存の本能

ある。時に傲慢心ともなり、時に希望心ともなるから、教育上忽せにすべからざるものである。

種族保存の本能

これは青年期になつて著しい發達をとげる本能である。その第一は異性に對する本能で、誇示、羞恥、愛執、憎惡、嫉妬などのかたちをとつてあらはれ、第二は養護本能と言はれるもので、保育、看護、愛憐などがこの現れである。この本能は自己保存の本能と相並らんで最も力強い本能で、我等の生活はその支配を受けることが多いものである。

本能の特性

以上各種の本能を通じてその性質を考へて見るとそこにいろいろな特性を見出すことが出来る。その一は、本能はそれぞれ現れて來る時期があるといふことである。例へば吸乳、恐怖などの本能は生れた當初から現れ、社交、羞恥などの本能は五歳頃に現れて來る。これを本能の定期性と言ふ。その現れて來る本能も時

定期性

一時性

を逸せず、適當な刺戟を與へないとその現れは微弱となり、或は全く現れずにすむものである。この性質を本能の一時性といふ。例へば言語を覚えようとする傾向は一歳から三歳の間に著しく現れるが、若し聾などのためにこの期間を塞がれると七歳以後は著しくこの傾向が衰へるものである。本能のもう一つの特性は變化性である。本能はその現れる時に受ける刺戟の如何によつてその形を變へてあらはれるものである。例へば男の子は五六歳頃になるとトンボの尻を千切つたり、蛙をとらへてつぶして見たりする。これは自然界に對する好奇心があらはれ始めたもので、この好奇心の現れは花を作るとか鳥や蟲を飼ふとか言ふやうな仕事に變形させることが出来るものである。（これはやうやくのこころ）すべての本能は何等かの方法でこれを満足させることが豊かな人間性を養ふに大切なことである。これを壓迫すると内に鬱

變化性

本能の教育

して性格の破綻を來すやうになる。本能は川のやうなものでこれを防げば忽ち汎濫するに至るものである。しかし如何にこれを満足せしむるかが教育の問題となるところで、一言にして言へば人として生活するに適した形ですべての本能の圓滿な發達をはかることが大切なことになるのである。

前に述べたやうに本能には定時性といはれてある特性がある。それゆゑ本能の圓滿な發達をはからうと思ふものはその發達の時期をとらへなければならぬ。言葉を感じる頃には言葉の指導を怠らぬやうにせねばならぬ。二三歳になつて模倣の時期が來たらつとめてよい模倣をなさしめねばならぬ。枕を負つて子守唄を歌ふやうになつたら人形を與へてその育兒本能をいつくしんでやらねばならぬ。これらは皆その時期を失つたら効のないこと、鐵は熱いうちに打つのが最もよいのである。そしてそ

本能の醇化

の指導にあたつてはつとめてその變化性を利用して、本能の醇化につとめなければならぬ。怒りは反社會的な本能である。しかし義憤は社會の鹽である。それゆゑ怒りを善導して義憤を殺さぬやうにすることは頗る大切なことである。争闘本能は少年時代に著しくあらはれる反社會的の本能である。しかしその變形である奮闘的精神といふものは非常に大切なものである。それゆゑ、運動や競争によつてこの本能に活動の地を十分與へて奮闘的精神の芽生えを殺さぬやうにすべきである。このやうな本能の同情ある取扱ひは兩親によつて家庭のうちにおいて十分の注意のもとに行はれるのが最もよい。特に父親は女兒の、母親は男兒の教育に適してゐると言はれてゐる。兩親の不斷の注意によつて子供の本能のすべてが十二分に活動して、ここにはじめて人間らしい人間が出来るものである。

意志作用

動機

思慮

決定

三、意 志

反射運動や本能も意志作用に屬するものではあるが、普通に所謂意志と稱せられてゐるものは、もつと複雑で高等な精神作用である。意志が反射運動や本能と異なるところは決意の感を伴つてゐるといふ點にある。この決意の原因となるものを動機といふ。意志の働きに於てはこの動機が二つ以上現れるものである。その幾つかの動機の間、思慮がめぐらされて、最後に行動を決定するに至るものである。例へば、何かにせよと言はれて一反の布を貫つてから、それを着物に仕上げるまでの心理過程を考へて見ると、先づ最初に着物にしようか、羽織にしようかといふ種々の目的が現れる。これを動機といふのである。動機は目的の觀念に感情の加つたものである。さてその動機について、どちらにしたものであらうかといろいろ思ひ惑ふ。これが思慮である。思慮は

意志  
思慮  
決定  
動機

通常不安の念が伴ふものである。羽織にすることは斷念して着物にすることにする。これ決定である。着物にすると決めてこれを拵へる準備にかかるのは意志的動作である。決定は安固の念を伴ふものである。思慮がながい時には選擇の意識が明瞭に働くけれども、思慮が短い時は却つて決定の意識が強く働くものである。決定の後には動作があり、動作の後には満足感が伴ふのが普通である。

衝動機が一つで、何らの思慮、選擇をめぐらさずして行動にうつる働きがある。これを衝動と言ふ。衝動は多くの場合本能の端的なあらはれである。非常に飢ゑてゐる時に食物を見てつい前後の考へもなく手を出してしまふといふやうなのがこの例である。衝動は本能と意志との中間に位するものである。即ち意志作用は、最も單純な反射運動にはじまつて、本能、衝動と進展して遂に高

## 衝動

## 意志の鍛錬

等な意志になるものである。子供の精神生活はまだ發達の程度が低く、多くは本能、衝動の生活である。しかしそれはやがて意志となるものであるから、その健全な發達を期せねばならない。決意に先立つて現はれる二つ以上の動機は、必ずしも同一の價値を持つてゐるものではない。各自の境遇により理想に照らして上下優劣があるものである。ところがその劣等なものの方が人間の本性に根ざすところ深く、誘引の力が強いものである。勉強をしようか、遊ぼうかといふ時には後者の方が力強く働く。書物を買はうか、パンを買はうかと迷ふ時にはパンを買はうとする動機の方に心が引かれるものである。それゆゑよい行をしようとするには必ずそこに努力が必要であつて、下等な力強い動機の誘惑にうちかつて、敢然として自己の所信を遂行するだけの勇氣と忍耐がなければならぬ。この實行力を意志力と言ひ、意志力

鍛鍊の方法

積極的鍛鍊

消極的鍛鍊

後(一)ソレニク

を養ふことを意志の鍛鍊と言ふ。  
 意志の鍛鍊には二つの方面を考へることが出来る。信ずる所は必ずこれを行ひ、いやしくも誘惑の乗ずるところとはならないといふ強い実行力を養ふのは鍛鍊の花々しい方面でこれを積極的鍛鍊と言ふことが出来る。これに反して内部の激情をおさへ、不運、逆境に耐へて自分の志操を保持するの力を養ふのは鍛鍊のきはめて地味な一面で、これを消極的鍛鍊と言ふことが出来る。勇氣の徳は前者に必要であり、忍耐の力は後者に必要である。文明は人間を弱くする。所謂文弱の風は、人間の體力を弱くするのみでなく、実行力をも滅殺するものである。しかるに社會生活はかへつて意志の強い人間を要求するやうになつて來るから、社會にたつて何事かをなさうとするためには、積極的に意志を鍛鍊して、所謂自然を征服し、人生を濶歩するの勇氣を養ふ要がある。し

動様—思慮—  
 一決定—行爲  
 一ソレガ意志—  
 一テアル

かしひるがへつて考へるに、人生は平々坦々たるものではない。丁度自然の世界に山あり川あり怒濤逆まく大洋があるやうに、人間の世界もまた切實なる艱苦の道場である。思ふままにならぬことが多い。有爲轉變は世の習ひであつて、無常は人生の相である。人間の考へてゐることに、は盧生一睡の夢が多い。しかも天地自然の法則は嚴として動かすべくもない。この間にあつて底力ある生活をつづけようとするには、深くこの人生の無常を徹見して、その無常流轉のなかに永劫の相を見嚴なる自然の妙理に冥合してその中に生きて行くと、言ふ消極的な意志の鍛鍊が必要である。かかる消極的な意志の鍛鍊は人をして宗教の世界に入らしむるものである。勿論このやうな意志の鍛鍊は一生の問題ではあるけれども、先づ子供の間に養はれ始めなければならぬ。己<sup>おのれ</sup>を節すること、自然の嚴しさや人生の不如意に耐ふること、道徳

消極的鍛鍊の  
必要

法の尊嚴を知らしめること、これ等は何等かの意味に於て子供の意志を消極的に鍛鍊する道となるものである。世には順境にある間は威勢よく生活しながら、一度蹉跌すると忽ちにして常軌を逸し悲觀沈淪の生涯を送るものが少くない。これは積極的な意志の鍛鍊のみがあつて消極的な鍛鍊が欠如してゐるに基くものであつて、深く戒めねばならぬことである。

意志の鍛鍊は身體の鍛鍊と相俟つて行はれる場合が多い。例へば寒暑にたへ、困苦缺乏にたへる身體をつくることは、即ちこれに耐ふるの意志を養ふことになる。それゆゑ青年時代の鍛鍊は體育に伴つて行はれることが多い。但し如何なる體育が積極的  
に、また消極的に意志を鍛鍊するかといふことは深く考へて見ねばならぬことである。所謂勝敗を争ふことの劇甚なる競技は意志の積極的鍛鍊にはなるけれども消極的鍛鍊には縁が遠いと言

意志の鍛鍊と  
身體の鍛鍊

## 意志の自由

## 責任

はねばならぬ。これに反して登山、遠足、行軍と言つたやうなものはある程度まで消極的意志の鍛鍊に資することが出来るものである。しかしあらゆる運動競技に於て勝つて傲らず、負けて恨みなき境涯に達することが出来たならば、最も鍛鍊の趣意に叶ふと言はねばならぬ。

動機を選択するにあつては、各人がその下等なるものを選ぶと高等なるものを採らうと全く自由であつて、何ら他より壓迫、強制せられることがない。これを意志の自由といふ。此自由があるから、吾等はその行爲に對して責任をもつのである。子供の行爲は本能衝動的なものが多くて、自ら決意して行ふことが少いものであるから、従つて責任が薄いのである。しかし意志作用の發達に伴うて次第に責任ある行をするやうになるものである。責任を自覺しないものは到底道德生活をなす資格のないもので



試行と錯誤

四、習 慣

あるから、責任を自覺するやうに導くことは大切なことである。

有意的な運動は、感覺と運動の結合によつて行はれるものである。幼兒に玩具を與へると、最初は手を出すけれどもなかなか握ることが出来ない。何遍か仕損ひをした後漸く成功する。一旦成功すると非常にうれしさうである。何度かくりかへすうちに、もう仕損ひをすることがなく、すぐ手にとれるやうになる。これは玩具の感覺と之に對する運動とが密接に聯絡結合したことを示すものである。このやうに新しい運動はすべて試行と錯誤を重ねたのち成功するものであるから、失敗を恥かしく思つてゐては何事も出来るやうにはならぬものである。かく新しい動作が出来るやうになつたことを順應といふ。

順 應

習 慣

順應し得た運動はこれを何遍かくりかへしてゐるうちに、だん

習慣の用

だん上手になり、後には機械的に無意識的に出来るやうになる。これを習慣といふ。習慣は、例へば雪の廣野を一人二人と歩くに従つてそこに路が出来るやうに、一度運動する毎に神経組織に痕跡を残すのが、何度か同一運動をくりかへすうちに立派な路となつて、その後は容易くその動作が出来るやうになつたものである。

習慣は普通「くせ」と言ふ。「無くて七癖」などと言つて、よくない習慣の方がよく人に知られてゐるが、習慣にはよい習慣もあつて、そのよい習慣はまた人間の生活にきはめて大切な役割をなしてゐる。朝起き出でて顔を洗ふことから、夜床に入つてねむるまで、禮儀作法は勿論、考へること、言ふこと、爲すこと、殆んどそのすべてが習慣である。よい品性といふも畢竟、よい習慣の人に外ならない。また精神的に言つても、習慣は人間の行動を正確迅速一様にし、行動に伴ふ疲勞を少くし、意識を新しい活動に向ける餘地を與へる。

ものである。もし我等が日常一々の行動に意識を働かせねばならぬことになつたら忽ち疲勞困憊の極に達するであらう。かの異境に生活する人が神經衰弱になり勝ちなのは一つはここに原因がある。それゆゑ早くから社會生活をなすにふさはしい良習慣をつくることはきはめて大切なことである。

## 習慣の教育

時を選べ

習慣が出来るにはそれぞれ大切な時期がある。即ち顔を洗ふとか風呂に入るとか言ふやうな身體的習慣や爪をかむとか、鼻糞をむしるとか言ふやうな神經的習慣は、早くも幼年期に出来るものである。着物の着方、言葉づかひ、身振り、整頓などの坐作進退に關するものや、うそを言ふとかものを盗むとか、友情親切と言ふやうな道徳的な習慣及び宗教的な習慣等所謂人格的習慣は二十歳前後に出來上るものである。それゆゑこの時期を放縱卑賤な生活にすぎしたものは、その後如何に富貴の生活をするやうになつ

## 反復

ても野卑な面影がぬけないものである。二十歳以後三十歳頃までは職業的な習慣のつく時期である。この時代になると、この人はどんな職業に従事してゐるかと言ふことが一見してわかるやうになる。このやうに一定した時期があるから習慣の養成にはそれぞれその時期を逃さないやうにせねばならぬ。

習慣をつくるに最も大切なことは、どの時期に於ても、その目的とする動作を反復するといふことである。同一動作を反復すればするほど神經組織の上の路は抵抗を減じて來るから、習慣は益、確實なものとなるのである。しかしその反復の仕方には能率上、種々の得失があるものである。例へば、一度にうんと練習するよりも、少しづつ何回も練習をした方が効果がある。暗算の練習などは復習のたびごとにやるのがよい。また一時に形成する習慣の数が少ければ、早くその習慣を成立せしめることが出来る。行

## 努力

儀作法などは一度に口やかましく言ふよりも一つづつ教へて行く方が早くもあり、子供の發達に應ずることも出来る。それから年齢が若ければ若い程習慣が早く出来る。それゆゑその時期が來たらなるべく早く實行にかかるがよい。更に激勵の力が強くて一様であると、習慣の進歩は速くて確實である。それゆゑ子供が苦心して良習慣を養はうとしてゐたらこれを激勵せねばならぬ。賞讃を與へられた喜びと、味方を得た力強さとは子供の勇氣を百倍にするであらう。要するに良習慣をつくるには一貫した努力が必要であつて、いそがず怠らず、不斷の實行が肝要である。瀧鶴臺の妻が日常たもとに赤と白とのまりを入れておいて、過失のあるごとに赤糸をまき、よい行爲のあるごとに白糸をまいて、良習慣の養成につとめたのは感ずべき努力と言はねばならぬ。

## 悪習慣を破ること

悪習慣を破ることは良習慣をつくることと同様に困難なこと

である。これには不斷の努力のみならず、異常な勇氣を必要とする。蓋し悪習慣は人間の本性に根ざすこと深く、たとへば水の下方に流れ、大木の地に倒れるやうなものであるから、これを打破するには非常な抵抗にうちかち、惰眠をむさぼる心を退けねばならないからである。

習慣は個人が社會に順應する必要から出來たものである。それゆゑ社會の進むに従つて不合理な習慣を破つて、よりよい習慣をこしらへて行くことが大切である。いつまでも固陋な習慣にかかはつて居るのは、習慣に捉はれてゐるものであつて、かくては自己の進歩を期することが出来ない。所謂風習と呼ばれる社會の習慣のなかにも無意味なものや改良せねばならぬものが多い。自己及び社會の習慣を舊になづまず、よきやうに改めて行ける人は尊ぶべき人であつて、かかる人は習慣を支配してゐる人と言は

ねばならぬ。習慣を支配するやうな人をつくるのは教育の大きい使命の一つである。

### 第七章 幼児期の教育

被教育者  
教育者  
場所  
すべて教育の問題は、教育者と被教育者とその場所との三方面から考へねばならない。前二者のことについては我等はすでに學ぶところがあつた。それゆゑ本章以下に於て學ぶことは、主として教育の場所を中心にして考察した事柄である。先づ幼児期の教育の行はれる場所は家庭と幼稚園であるから、本章に於てはこの二者の教育的意味を考察しよう。

#### 第一節 家庭

家庭は一生の教育所  
人は家庭に生れて、家庭に人となり、成人して外に働くやうになつても家庭をその歸るべき場所とし、休らひをここに求めてゐる。

かくて人は一生家庭を離れることがない。さう言ふ意味では家庭は一生の教育所である。しかし特に深い影響を受けるのは幼児期から少年少女期にかけてである。そのうちでも幼児期の前半はここを唯一の生活の場所と定めてゐるのでその感化を受けることも大きい。

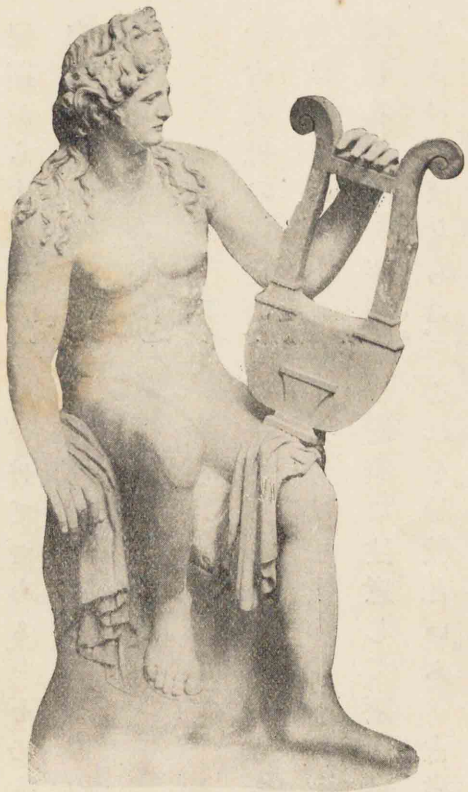
#### 第一 胎教 (天印なこ)

古來、母の感化は、まだ子供がその胎内にあるうちに既に始ると言はれてゐる。それゆゑ母は子供の胎内にあるうちから言行を慎しみ、感情を平靜にし、健康に注意して、悪影響のその子に及ぶのをさけねばならぬ。これを胎教といふ。古書に言ふ「古婦人子を妊んで寢ぬるに側たず、坐するに遷らず、立つに蹕せず。邪味を食せず、割目正しからざれば食せず、席正しからざれば坐せず。目に邪色を視ず、耳に淫聲を聽かず。夜は則ち警

胎教

をして詩を誦し、正事を道はしむ。此の如くすれば則ち生るる子形容端正にして才人に過ぐ」と。

この戒めは近代の科學をもつてしても解釋出来るのであつて、胎兒は五ヶ月を過ぎると、外部の壓迫に反抗して運動する。これは既に胎兒に壓覺が生じたことを示すものである。既に感覺が發達してゐる以上、母體の感化を受けることはあり得ることである。それゆゑ母はつとめて感情の興奮をさけ、言行をつつしみ愉



アポロンの神像

家

快にその日を送るやうにせねばならぬ。周の文王の母は、目に惡色を視ず、耳に淫聲を聽かず、口に教言を出さずして、文王を得たと言はれ、伊藤仁齋は、その妻の妊娠中は毎夜、孝經ならびに聖經賢傳等の佳書を讀み聞かせたので、その子東涯は父に劣らぬ大學者となつたといふことである。西洋においても古のスパルタでは胎教に注意し、妊娠せる母親の居間は殊に立派なアポロンの神像その他の彫刻などで飾つたものである。

第二 報本反始

わが國では、古來、家といふものを重んじて來た。家はわが國の社會組織の基礎になつてゐるのみならず、道德生活の基礎になつてゐる。即ちわが國民は、一家の歴史を尊び、家風を重んじ、祖先の名を輝かすことを子孫の何よりの務として來たのである。昔、戰場に於て敵味方矛を交へる時にさへ、先づ雙方が祖先の名を名乗り

報本反始

あつたのは最もよくこの精神をあらはしてゐる。このやうに祖先を尊ぶのは、とりもなほさず、自己の根源をふりかへつて、そこに感謝する情であつて、これを報本反始といふ。報本反始の情を培ふことは、わが國の家庭教育に最も大切なことである。

祖先の祭り

子供に報本反始の情を養ふに最も適切な行事は、祖先の祭りである。それゆゑもし祖先の墳墓の地に住むならば、祖先の忌日には相携へて墓參をなし、祖先の話をきかせなどし、もし遠く墳墓の地を離れてゐるならば、折にふれて家としての祭祀を行ひ、子供をしてその祭祀をともしせしめることが肝要である。「青い鳥」といふ物語のなかに「思ひ出の國」といふ場面があつて、チルチルとミチルとがその國へ青い鳥をたづねて行くと、死んだ祖父さんや祖母さん達に遇ふ。非常に子供達が訪ねて来てくれたことを喜んで、これから度々訪ねて来てくれと言ふ。「お前達が私らのことを思

孝

ひ出してさへくれたら、私らはいつても遇ふことが出来るのだ。」といふのが、その時の祖母さんの言葉である。これは寓話ではあるけれどもよく報本反始の精神を傳へてゐる。祖先を偲ぶことによつて、祖先の心のうちに生きることが出来る。これが祖先を祭る精神である。



中江藤樹肖像

子が親の心にかへるのは、報本反始の中心であつてこれを孝といふ。そしてこの「孝」によつて養はれる報本反始の情が、すべての徳性の根幹を培ふから、「孝は百行の本」といはれてゐる。中江藤樹の如きは孝の道に最も深く徹した先哲である。しかしこの孝と

いふ心持を子供に養ふことはなかなか難しいもので、道理や訓戒によるのもよい方法ではあるが、更に親が子とともに祖父母の心にかへり、更にその祖先の心にかへることによつて自然に養はれるのが最もよい。さう言ふ意味では、一家に祖父母及び父母ともに存し兄弟姉妹の數も多く、家族が和氣霽然として暮らして行くのが最も幸福な境涯であつて、このやうな家庭では自然のうちに「孝」の心持が養はれ、報本反始の精神が培はれるものである。

報本反始の情はこれを感じの情といふことが出来る。感恩の情は絶対の趣をもつてゐるものである。即ち夫婦の愛や兄弟の友などは、等しく愛の情であるけれども、相對的のものであつて、相對的の愛はともすれば、損はれ易く、傷つき易い。しかるに夫婦、兄弟、親子がともに同じく祖先の心に生き、感恩の情に生きることになれば、この世界に於ては永久に一つになることが出来るのであ

## 感恩の情

る。報本反始の情は、このやうに絶対の趣をもつてゐるものであるから、子供にこの情を培ふことは、やがて宗教的情操を養ふ所以となるのである。即ち、自己の本源を仰ぐと言ふ心持が恩の感じの出発點で、そこから宗教への道もひらけるものである。それゆゑ、家に祖先をまつり、日夕子供と共に禮拜することも非常に意義の深いことである。わが國の普通の家庭に神棚や佛壇があるのは、我が國家社會が恩の關係を基調として成り立つてゐることを示すもので、そこに恩の感じが生きてゐる限りに於て、非常に有意義なことである。親子の愛情も、愛國の至情もここにのみ永遠の生命を見出すことが出来る。「忠孝一致」と言ひ、忠臣は孝子の門より出づ」といふもまたこの意味に於て一層味ひ深いものがある。

## 第三 家庭の行事

## 家庭の行事

家庭の行事は、その個人的なると社會的なるを問はず、これを尊重することが、いろいろの意味から大切である。殊に感恩の情を培ふと云ふ點よりすれば、獨り祖先の祭祀にとどまらず、古來行はれて來てゐる行事はすべて意味のあるものである。例へば個人的には誕生日があり、祖先の忌日がある。社會的には國家の祝祭日があり、鎮守の祭りがある。男の子のためには端午の節句があり、女の子のためには雛の節句、針供養などがある。お正月、節分、お月見などはいづれも家庭的な趣の深いものである。其他子供のために入學を祝つたり、卒業を祝つたりすることもよい心づかひである。子供がこれらの日を嬉しく楽しい日であると感ずるやうに、家として祝意を表することが大切である。誕生日であるといつても、天長節であると言つても、何ら平日と變らぬやうに、空々寂々としてその日を送るのは誠に悲しむべきことであつて、か

くては到底恩の感じなどを子供に養ふことが出來ぬのみか、家庭のあたたかみを少くし、國民精神の根源を枯らすものである。物質的にはよし貧しくとも、しんみりと恩の感じのなかに親子が生きて行くと云ふ趣がありたいものである。一本の旗よく子供をして愛國者たらしめるに足り、一椀の赤飯よく子供に孝順の心を養ふに足るであらう。言葉を用ひず、訓戒をなさず、しかもよく子供をして道徳的ならしめるところに、家庭教育の妙味が存するのである。

## 第四 家庭教育と徳育

家庭に於て子供の身體の發育に伴うて留意すべき事柄や、如何に精神の芽生えを育てねばならぬかと言ふことについては、既に學ぶところがあつた。それでここでは主として子供の躰けについて考察したいと思ふ。躰けと言ふことは廣くこれを道徳教育

## 徳性を培ふ



明るい家庭

または徳育と言ふ。家庭が子供の徳育上最も意義深いところは、子供の徳性を自然に培ふといふ點に存するのである。

家庭教育の責任者は父母であるが、子供に感化を與へるものは父母のみに止まらない。祖父母は勿論のこと、兄弟、姉妹、僕婢に至るまで、家族はみな多少の感化を與へるものである。諺に「氏より育ち」といふのは、この感化の強くて、抜け難いのを物語つてゐる。

その感化は必ずしも善いもののみではない。悪い感化は、一層受け易いものである。さう言ふ意味で、まさしく人は「境遇の子」である。それゆゑ家庭の空氣を明るく、清く、氣高くすることは家庭教育に於て最も大切なことである。

母の感化

母は家族のうちでも殊に深い感化を與へるものである。嬰兒はすべて母によつてその要求を満たし、寝るにも母の子守唄を聞き、起きるにもその優しい手を感じる。漸く成長するに従つて次



(筆ロエッラ) 母聖のアゲセ

第に母の手を離れるやうになるが、なほその要求の多くは母によつて満たされる。飲む、食ふ、寝る、起きる、遊ぶと言ふやうなことは單なる本能の動作にすぎない。しかしこの本能の要求を満たすものは母であつて、子供はこの母に對して深い愛と信頼の念をいだくやうになるものである。子供が暫くでも母がゐないと承知しないのは、この感情を現すに外ならぬ。また母はその子を育てるために心身の勞苦をいとほない。その勞苦は子供の心に感謝の情をやしなひ、従つてまた従順の心を培ふものである。感情は感情をもつてしなければ養へない。

いものである。子供の感情は愛情深い母によつて豊かにはぐくまれる。謠曲の狂女ものは多くは子に別離した母の深い情をあらはして居り、母の情が子供の感情を養ふ上に如何に意味深いものであるかをよく物語つて居る。これ等の感情、愛と信頼、従順の念が子供の徳性の基礎となることは言ふまでもないことである。否、徳性の基礎たるのみでなく、あらゆる教育の出發點となるものであつて、殊に宗教的情操を養ふもととなるものである。このことは家庭教育の眞髓であつて、ペスタロツチが強く力説してゐるところである。

ペスタロツチの主張

ペスタロツチは「リンハルトとゲルトルード」と言ふ一まとめの教育小説を書き、そのなかで家庭が教育上もつとも意味の深いものであることを述べ、母の感化が教育の根本であることを物語り、すべての學校は家庭のやうであり、教師は母親のやうであつて、



ゲルトルードと子供達

始めて眞の教育が行はれるものであることを力説し、社會の改善も、道徳の振興も、風俗の矯正も、かかる家庭が根本になつてゆくものであることを力強く説いてゐる。儒教の教ふところ、は修身齊家治國平天下にある。東西古今の思想が家を社會風教の基礎に考へてゐるのは誠に面白いところであつて、家庭教育の緊要な點も亦そこにあると言はねばならぬ。

第二節 幼稚園

## 幼稚園の教育

家庭は自然の教育所である。子供本来の性質を伸ばしその子供に適した教育の道を選ぶことが出来るといふ點より考へても理想的な教育所である。しかしここにも尙ほ缺乏してゐるものがないとは言へない。例へば兄弟はあるけれども、お友達同輩がない。母はよい教育者ではあるけれども常に子供に接してゐることを許されない場合もある。また凡ての母に教育的な手腕をのぞむことが出来ない。且つまたすべての家庭に教育的な設備を求めることも出来ない。これ等の缺點を補ふものが幼稚園である。即ち幼稚園は、子供をして子供らしい社會生活に馴れしめ、周到な注意の下に子供の生活を指導して心身の發達を企圖し、以て家庭生活と學校生活との連絡をはかるものである。

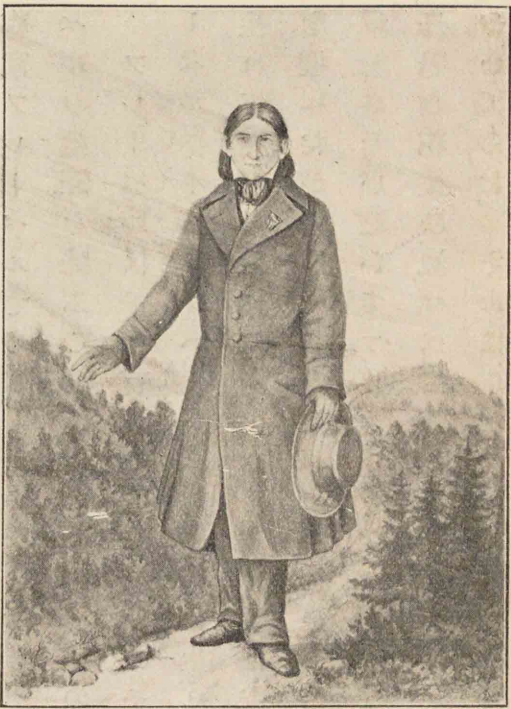
## 第一 フレーベルの精神

幼稚園の始祖  
フレーベル

幼稚園の教育はこれを學校教育と同一視するにはあまりに家庭的である。しかしこれを家庭生活と同様に見るにはあまりに合理的、社會的である。それで特にこの教育を保育と言ふ。はじめて幼稚園といふ名の下に子供の保育をはじめたのは、獨逸の教育家フレーベルである。幼稚園の性質を考へるためにはフレーベルの生涯を味ふことがきはめて興味のあることである。

フレーベルは千七百八十二年、獨逸のチュウリンゲン地方のオーベルワイズバツハといふ片田舎に生れた。父は牧師であつた。生れて九ヶ月目に母を失ひ、子守の手に育つた。數年後には繼母を迎へたが、家庭はそのために冷たかつた。家庭では滿されない淋しさをいだいて、フレーベルは、よく附近の森林をさまよつた。鳥鳴き花笑ひ、流れは自然の音楽をかなで、森は自然の神秘をささやいてゐた。それはまたフレーベルの家庭に比べては何と樂し

## 子供の時代



ルベールフツ立に森のンゲンリウユチ

む神の力の尊さを信ぜずにはゐられなかつた。自然界の萬物は何れも神的活動の表現であつて、神はすべてのものを作り、凡ての事物に存し、且つこれを支配し給ふ——といふフレールベルの敬虔な思想は既にこの頃に胚胎してゐたと見ることが出来る。

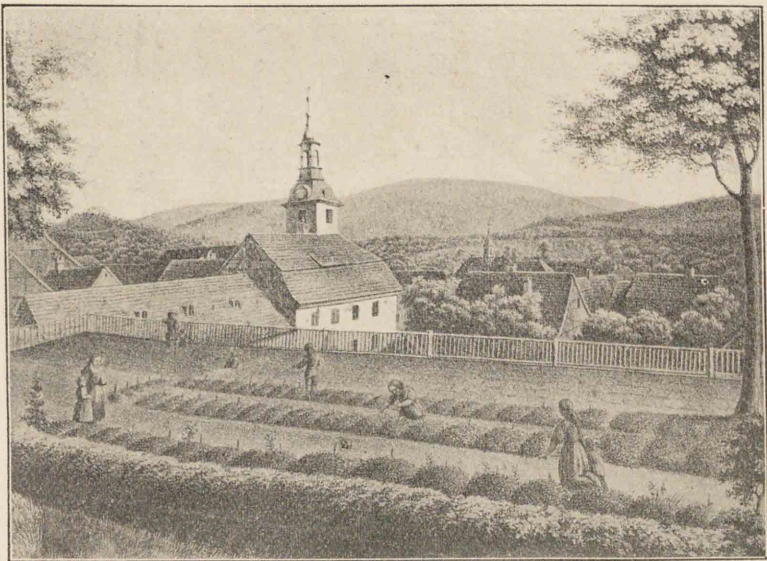
く、美しい情調であつたらう。フレールベルはこの温い自然の懷にいだかれ、その子供の目を送つたのである。そして子供心にも自然の偉大さを讚嘆し、そのうちに秘

青年時代

幼稚園の發祥

十八歳の時、自然科学の研究を目的としてエナ大學に學んだが、果さず、その後偶然の機會からフランクフルトの模範學校の一教師に職を奉じた。フレールベルは生來子供が好きであつたので、この時大いに喜んで、魚の水を得たやうなものだと言つた。その後ペスタロツチについて學び、得るところが多かつた。しかしなほ自分の素養の足りないことを恥ぢて、ゲツチンゲン、伯林等の大學に學んだが、偶、ナポレオンが獨逸に攻め込んだので、學を廢して義勇軍に従事した。

戦争から歸ると、フレールベルは學校をたて、或は瑞西に招ねかれ、孤兒院長となつたが、千八百三十七年始めてブランケンブルグに一教育所をたて、専ら小學校入學以前の子供の教育をしたが、千八百四十年に至つてこれに幼稚園といふ名をつけた。これが幼稚園の始めである。



何故その學校に幼稚園といふ名をつけたか。フレibel はかう考へた。人は本來伸びてゆく性能をもつてゐる。教師はこれを世話するに過ぎない。丁度園丁が花園の中で花を世話するやうなものだ。花園、幼稚園！ この名こそ自分の學校の名にふさはしい。否、獨逸の子供は花だ。獨逸はその花園だ。獨逸の母はよき園丁であらねばならない。フレibel はかう考へついた時、喜

幼稚園の發達

びが胸にあふれた。丁度散歩の途中にあつたが、いそいで歸宅して早速學校の名を幼稚園と改めたのであつた。自然を愛し自然の中に育ち、自然の中に尊い原理をみつめて居たフレibel の姿がここに躍如としてゐる。幼稚園は實にこのやうな意味から始められたものである。

この幼稚園はその後何でもないことから政府の誤解を受け、遂に閉鎖を命ぜられた。フレibel は百方手をつくしてその誤解を解かうとしたが果さず、千八百五十二年リーベンスタインのほとりマリエンタールに歿した。しかしその精神に感激したマールホルツビュロー夫人の熱心な盡力によつて千八百六十年その禁令は解かれ、爾來世界各國にひろがつて遂に今日の隆運を見るに至つたものである。

第二 恩物

遊戯の指導

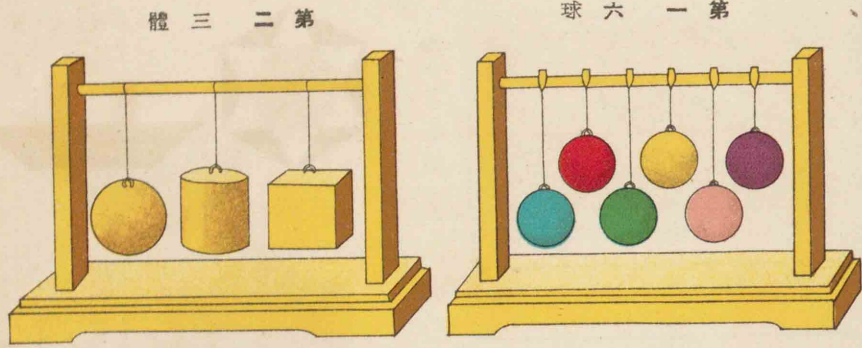
自然界の萬物は神的活動の表現であるといふのが、既にのべたやうにフレーベルの信念であつた。この信念からすれば萬有の目的はその中にある神性を發展せしめることにあり、人間もまたその有する神性の圓滿な發展を目的とせねばならぬ。人間の神性はどこにあらはれるかと言ふとそれは子供の遊戯にあらはれてゐる。それゆゑこの遊戯を指導して作業にまで導くのが教育の任務であるとフレーベルは考へた。實に幼稚園はこのやうな原理の下に立つて、子供の遊戯の指導をもつてその重大な任務とするものである。フレーベルはこの方便物として恩物といふ一種の玩具を發明した。

恩物

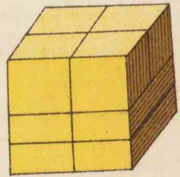
フレーベルの始めて用ひた恩物は

六球、三體、積木(第一、第二、第三、第四)

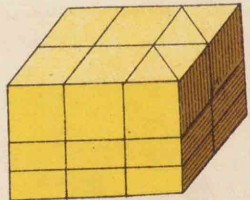
の六種にすぎなかつたが、その後



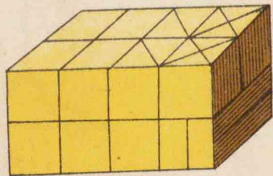
第三積木第一



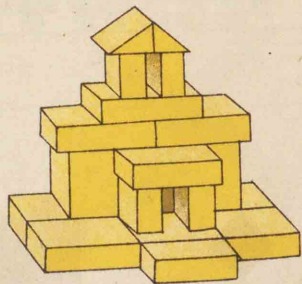
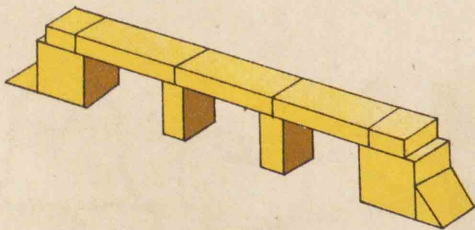
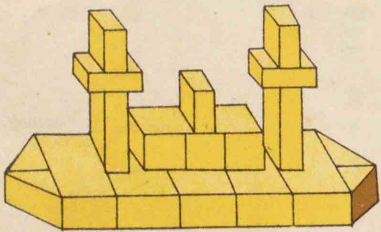
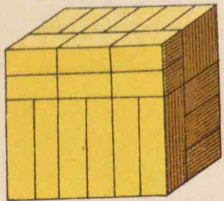
第四積木第二

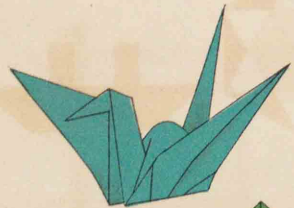


第五積木第三

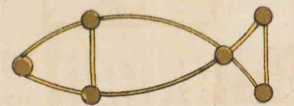
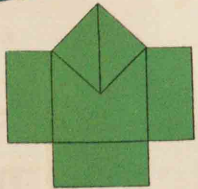


第六積木第四

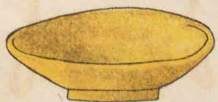
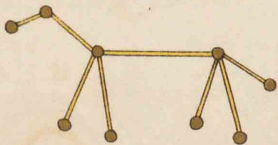




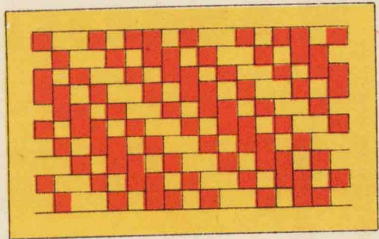
第十八 紙たたみ



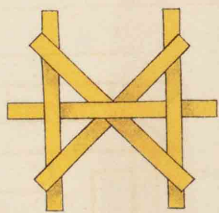
第十九 豆細工



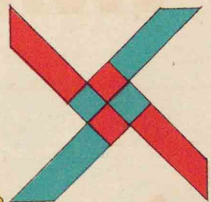
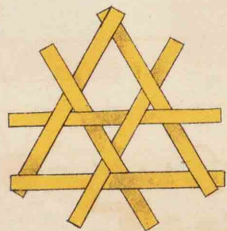
第二十 粘土細工



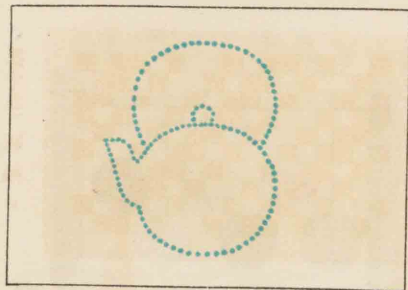
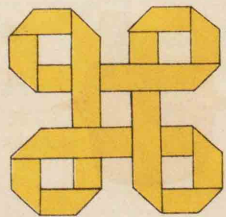
第十五 紙織り



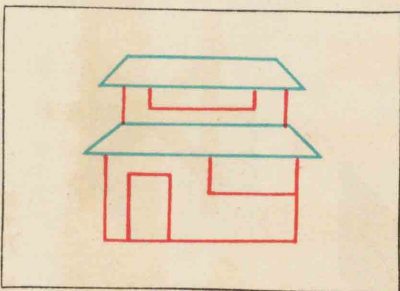
第十六 板組み



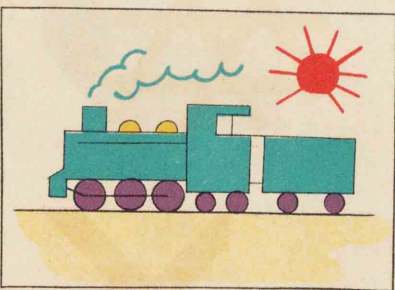
第十七 紙組み



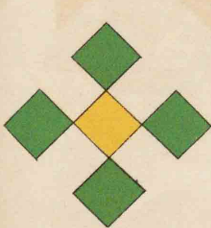
第十一 紙刺し



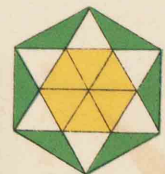
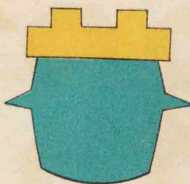
第十二 縫取り



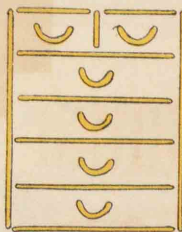
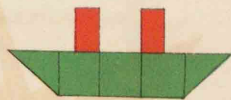
第十三 書き方



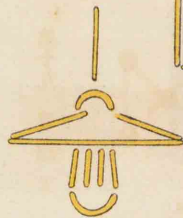
第十四 紙剪り



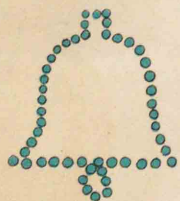
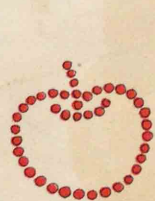
第七 板なべ



第八 箸と環



第九 糸と紐

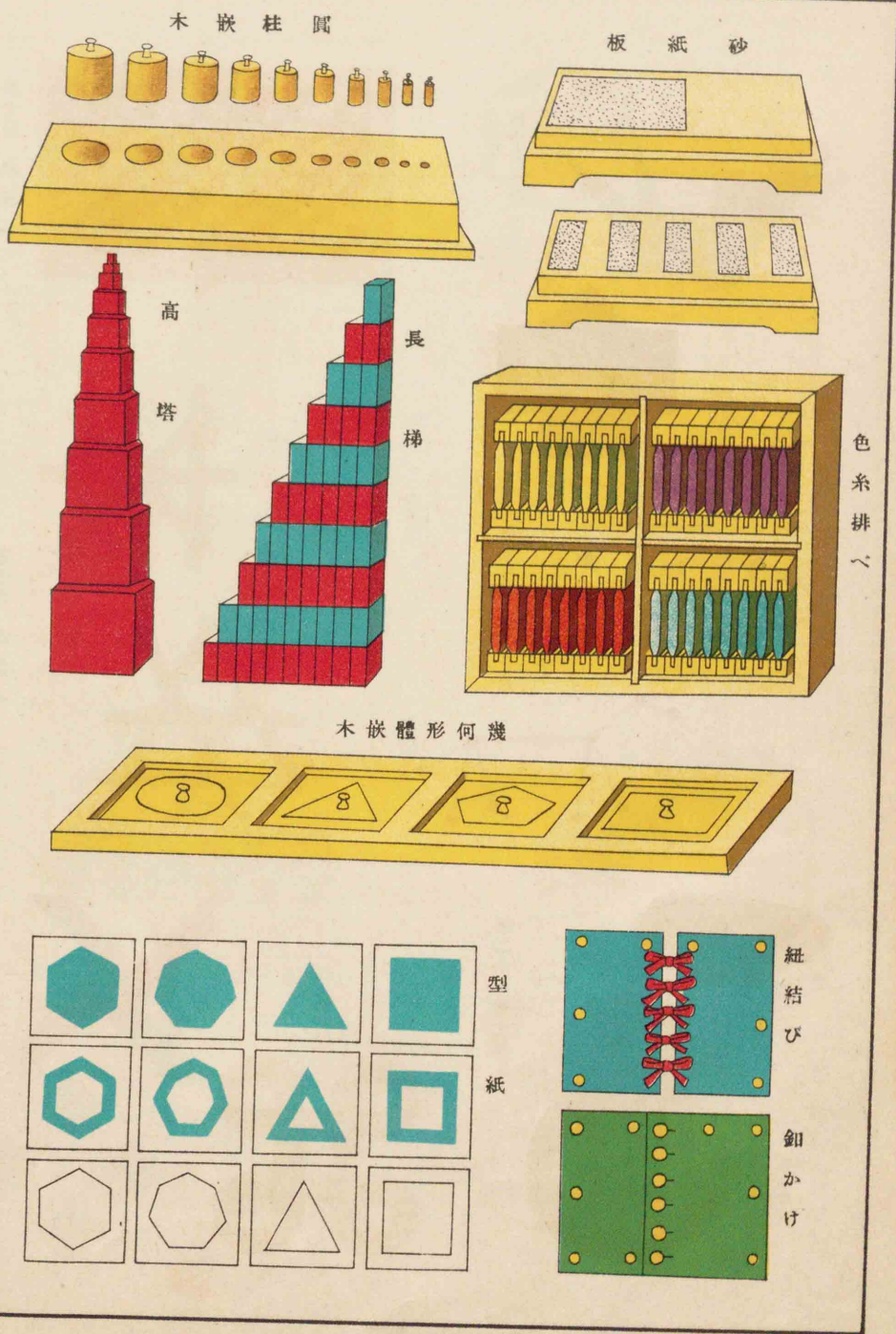


第十 粒體

モンテッソリ  
女史の教具

特長

板ならべ、箸と環、糸と紐、粒體、紙刺し、縫取り、書き方、紙  
 剪り、紙織り、板組み、紙組み、紙たたみ、豆細工、粘土細工、  
 を加へて廿種になつた。フレイベルはこれらの玩具に深い意味  
 を見出し、神の賜へしものであるとして恩物と名づけたのである。  
 この恩物の長所とするところは、如何にも單純素朴なものである  
 といふ點にある。このやうな單純素朴な玩具は、組立て取はづ  
 しが自由であるため、子供の自由な想像を働かせることが出來て、  
 子供の獨創力を養ふものである。フレイベルはこれをもつて、子  
 供の活動力を満足せしめると共に手指及び覺官を練りその構成  
 力を高めることが出來ると信じた。  
 近時モンテッソリ女史は幼稚園の教育に種々改良を加へ、更  
 に感覺練習のための教具數種を加へた。即ち





砂紙板、輕重木版、高塔、大梯、長梯、圓柱嵌木、幾何形嵌木、色糸排べ、紐結び、釘かけ

等がこれである。この玩具は如何にも科學的に出來てゐる。

この恩物及び教具は現在も幼稚園の手技に於て、大切な材料とされてゐる。

第三 自然に親め

自然に親め

子供を自然に親ましめよといふのがまたフレーベルの教へた原理の一つである。即ち庭園で草木を培養せしめることを、卓上で恩物を使つて種々な形を造らしめることと相ならべて、これを作業的遊戯と稱し、幼稚園で行ふべき保育の大切なる項目としたのである。

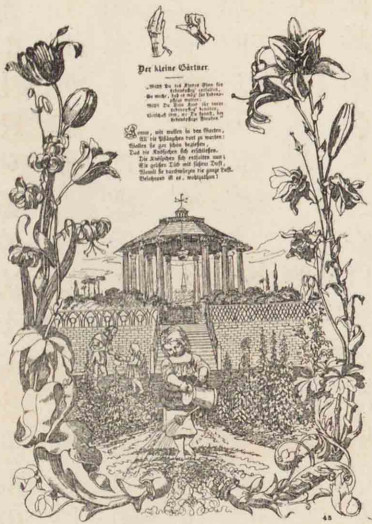
自然の化

種子を土におろす、水をやる、芽が出る、莖が伸びる、花が咲く、蝶が來る、蜂が來る、實がなる。その一々の變化はどれほど子供の心を

喜ばせ、驚かせることであらう。そしてかつてフレーベルが森林にさまようて感得したやうな自然の力を、子供達はその一本の草

小さな園丁

お庭にお出で  
みんなみんなお出で  
小さな木の芽草の芽に  
甘いお水を  
さんぶりかけて  
閉ぢた蕾を開かせませう  
ソレ開いた蕾が開いた  
甘い香りを庭一面に  
にほはせながら  
よい行ひによい報い!



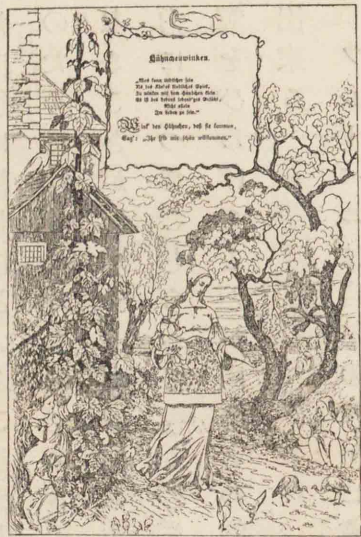
一莖の花に見つけるであらう。さうして子供は子供ながらに、人力の及ばないかなたに自然の神祕な力のあることを知り、人はそ

東洋の精神

の自然に融合して始めてその目的を達することが出来るといふやうなことも理解し所謂天を敬し人を愛する心持も感ずることが出来る。フレールベルは更にこの作業的遊戯が子供の身體を強壯にし、その觀察力を高めるものであることを特に高調してゐる。自然に親しむことは、日本に於て一層深い意味を見出すことが出来る。西洋の文明 人間を相手にし、むしろ自然を征服することとをその精神にしてゐるに反し、東洋の文明は自然を對象とし、自然のうちに生きることをもつてその精神としてゐる。例を繪畫にとつて見ても西洋には優れた人物畫が多い。しかし日本には花鳥山水などの自然を描いたものに秀でたものがある。古來、日本人は、自然の靜寂を愛し、自然の中に深い哲學を見出してゐる。自然に親しむことは日本人の特性である。それはまた日本古來の和歌が最もよくこれを證明して居る。従つてこの特性を育て

飼育

ることは、幼稚園の教育に於てもまた肝要なことでなければならぬ。鳥を飼ひ、動物を養ふこともまた自然に親ましめることの一つ



ひよこ呼び

幼児のをさなき手もて

雛鳥招くそのいぢらしさ

類ひもあらぬその可憐さよ

ものみなに通ふこゝろは

これぞげに人生の生けるこゝろ。

トットをお招き

トット来いつてお招き

「トットちゃんいらつしやう」

つて言つてごらん。

である。しかしこれはまた植物に對するとは異つた喜びを子供に與へるものである。即ちこれによつて廣い意味の同情心を培

土いじり

ふことが出来る。また求知心を満足せしめ、観察力を養ふ點に於ては植物を培養すると同様な効果があるものである。

土に親しむといふことは、植物を培養することを別にしてもまた自然に親しむといふことが出来るであらう。砂場はこの目的のために作られるものである。ここでは子供は宇宙の創造主となることが出来る。山も川も海もはては草も木もすべて自分の力によつてこしらへて行くことが出来る。子供は十分に想像の翼をひろげることが出来る、その間に自然界の妙をうかがふことが出来る。

フレイベルは自然のなかに育つた。したがつて自然の深い意味を知つてこれを幼稚園の教育にとり入れたものであつて、恩物の發明と相俟つてフレイベルの二大功績と言はねばならぬ。

尙フレイベルはこれらの作業的遊戯に對して、運動的遊戯とい

運動的遊戯

ふものがあることを唱道してゐる。運動的遊戯と言ふのは、行進、跳躍、舞踏等をなし、これに合せて唱歌を練習するものである。フレイベルはこれをもつて子供の活動性を満足せしめ、身體を強壯にするものであると述べてゐる。

#### 第四 現行の幼稚園

現在世に行はれてゐる公私立の幼稚園は、以上述べたところのフレイベルの精神をもとし、その後における兒童研究の成果にもとづいて各種の改良を加へたものである。今これに關して我國法令の定むるところを示せば大要次の通りである。

#### (イ) 幼稚園令 (摘要)

第一條 幼稚園ハ幼兒ヲ保育シテ其ノ心身ヲ健全ニ發達セシメ善良ナル性情ヲ涵養シ家庭教育ヲ補フヲ以テ目的トス

第二條 市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得

現行の幼稚園

幼稚園令

大正十五年四月二十二日  
勅令第七十四號

目的

設置

園兒

保姆

幼稚園令施行規則

大正十五年四月二十二日  
文部省令第十七號  
保育

市町村、市町村學校組合及町村學校組合ハ前項ノ規定ニ依リ幼稚園ヲ設置スル場合ニ於テ費用ノ負擔ノ爲學區ヲ設クルコトヲ得

第三條 私人ハ本令ニ依リ幼稚園ヲ設置スルコトヲ得

第四條 幼稚園ハ小學校ニ附設スルコトヲ得

第六條 幼稚園ニ入園スルコトヲ得ル者ハ三歳ヨリ尋常小學校就學ノ始期ニ達スル迄ノ幼兒トス但シ特別ノ事情アル場合ニ於テハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムルコトヲ得

第七條 幼稚園ニハ園長及相當員數ノ保姆ヲ置クヘシ

第九條 保姆ハ幼兒ノ保育ヲ掌ル

保姆ハ女子ニシテ保姆免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第十條 特別ノ事情アルトキハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ保姆免許狀ヲ有セサル女子ヲ以テ保姆ニ代用スルコトヲ得

(ロ) 幼稚園令施行規則 (摘要)

第一條 幼稚園ニ於テハ幼稚園令第一條ノ趣旨ヲ遵守シテ幼兒ヲ保育スヘシ

幼兒ノ保育ハ其ノ心身發達ノ程度ニ副ハシムヘク其ノ會得シ難キ事項ヲ授ケ又ハ

過度ノ業ヲ爲サシムルコトヲ得ス

常ニ幼兒ノ心情及行儀ニ注意シテ之ヲ正シクセシメ又常ニ善良ナル事例ヲ示シテ之ニ倣ハシメムコトヲ務ムヘシ

第二條 幼稚園ノ保育項目ハ遊戲、唱歌、觀察、談話、手技等トス

第三條 幼稚園ノ幼兒數ハ百二十人以下トス但シ特別ノ事情アルトキハ約二百人マ

テニ増スコトヲ得

第四條 保姆一人ノ保育スル幼兒數ハ約四十人以下トス

第五條 幼稚園ニ於テハ年齢別ニ依リ組ノ編制ヲ爲スヲ常例トス

第六條 幼稚園ニ於テハ保育項目、保育時數、組數等ニ應シ必要ナル員數ノ保姆ヲ置クコトヲ要ス

第七條 保姆免許狀ヲ有スル者ヲ得難キ場合ニ於テハ之ヲ有セサル女子ヲ以テ保姆ニ代用スルコトヲ得但シ保姆免許狀ヲ有セサル者ノ數保姆免許狀ヲ有スル者ノ二分ノ一ヲ超過スルコトヲ得ス

特別ノ事情アルトキハ管理者又ハ設立者ハ當分ノ内期間ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受ケ前項但書ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

園兒數

保姆

園長  
檢定

第八條 公立幼稚園ノ園長タルヘキモノハ小學校ノ本科正教員又ハ保母免許狀ヲ有スル者若ハ教員免許令ニ依ル教員免許狀ヲ有スル者タルヘシ

第九條 保母檢定ハ分テ無試験檢定及試験檢定トシ學力、性及身體ニ就キ之ヲ行フ

第十條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ保母ノ無試験檢定ヲ受クルコトヲ得

一 小學校ノ本科正教員ノ免許狀ヲ有スル者

二 高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者若ハ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者

ニシテ其ノ合格又ハ卒業後一年以上幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ニ從事シタル者

三 專門學校入學資格ヲ以テ入學資格トスル學校ニ於テ一年以上幼兒ノ保育ニ適スル教育ヲ受ケテ卒業シタル者

四 従前ノ規定ニ依リ保母免許狀ヲ取得シタル者ニシテ三年以上幼稚園ニ於テ幼兒ノ保育ニ從事シタル者

五 其ノ他地方長官ニ於テ特ニ適當ト認メタル者

第十一條 保母ノ試験檢定ハ左ノ科目ニ就キ尋常小學校本科正教員ノ試験檢定ノ程度ニ準シ之ヲ行フ 修身、教育、保育、國語、算術、歴史、地理、理科、圖畫、手工、音樂、體操、裁縫

設備

第十二條 高等女學校ヲ卒業シタル者又ハ專門學校入學者檢定規程ニ依リ試験檢定ニ合格シタル者若ハ一般ノ專門學校入學ニ關シ無試験檢定ヲ受クル資格ヲ有スル者ニ就キ試験檢定ヲ行フトキハ修身、教育、保育、圖畫、手工、音樂、體操以外ノ學科目ニ限リ其ノ試験ヲ缺クコトヲ得

第十八條 幼稚園令第六條但書ノ規定ニ依リ三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムトスルトキハ之ニ要スル施設ノ概要ヲ具シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十九條 幼稚園ノ設備ハ左ノ各號ノ規定ニ依ルヘシ

一 敷地ハ道德上及衛生上害ナキ所タルコト

二 建物ハナルヘク平家造トシ組數ニ應スル保育室、遊戲室其ノ他必要ナル諸室ヲ備フルコト

三 保育室ノ大サハ幼兒五人ニ付一坪ヨリ小ナラサルコト

四 遊園ハ幼兒一人ニ付ナルヘク一坪以上ノ割合ヲ以テ設クルコト

五 保育用具、玩具、繪畫、樂器、黑板、机、腰掛、砂場等ヲ備ヘ其ノ他衛生上ノ設備ヲ爲スコト

三歳未満ノ幼兒ヲ入園セシムルモノニ在リテハ前項ノ外之ニ要スル相當ノ設備ヲ爲

スヘシ

## 第五 託 兒 所

幼稚園に類似したもので近頃託兒所といふものが設けられるやうになつた。幼稚園はフレールベルが人間本性の發達のために考へ出したものであるが、託兒所はこれとは異つた理由から設けられるやうになつたものである。即ちその理由とするところの原因は商工業の發達にある。

機械の發明は工業の方法を一變して、家内工業はここに工場工業となつて、所謂産業革命なるものを招來した。その結果として父母は朝早く家を出ることが多く、ために家庭の長所は破壊され、子供の教育をかへりみる機會が全く失はれて來た。このやうな子供は不幸であつて、その將來には寒心すべきものがある。この時に親にかはつて親の不在中その子を預つて世話をするのが託

その起因

その教育

兒所の任務である。託兒所には従つてごく幼い子供、三才以下の子供をあづかるものと、三歳以上の子供、幼稚園時代の子供を預るものがある。

託兒所の教育の方法は殆んど幼稚園と同じい。遊戯、唱歌、觀察、談話、手技等がその主なるものである。ただ一つ異つた點は、幼稚園に比してもつと家庭的な空氣をとりいれ、食事、睡眠、入浴等の衛生、榮養上のことも留意せねばならぬといふことである。

託兒所は千八百四十四年に佛蘭西に設けられたのが始まりで、今では世界各國に行はれ、社會施設の重要なものに數へられてゐる。世の母たる人にして餘力ある人はかやうの施設にその母性の力をそゝぐといふことも極めて望ましいことである。

### 第八章 少年少女期の教育

小學校教育

子供はその初め家庭で母の暖い愛情のまにまに、きはめて愉快に、きはめて自然的に教育されるのであるが、もうこの期の子供になると心身の發達が頗る迅速で、到底消極的な家庭乃至幼稚園の教育では満足出來なくなる。且つ家庭教育では社會的、團體的訓練といふものが出來ない。そこでもつと積極的に計畫をたて方案を工夫し秩序あり組織ある教育を行つて、この心身の發達に順應した教育を行ひ、社會生活に適するやうに訓練せねばならない。かくて小學校が設けられて、少年少女期の教育を分擔するやうになつたものである。

#### 第一節 小學校

目的

我が國の小學校の目的は小學校令第一條に次のやうに定めて

ある。

小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ智識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

それゆゑ、教育の期間が延長されても、教育の内容が變化しても、教授の方法が如何に改良されても、要するにそれはこの目的を達するため、この目的の範圍内に於て行はれることである。

養護  
道德教育  
國民教育

ここに定められてある目的は四つのことを含んでゐる。身體の發達に留意するといふのがその一である。これは廣い意味での體育といふことであつて、小學校の體育はさう分化したものであつてはならないので特に養護と言ふ。道德教育の基礎を與へることはその二、國民教育の基礎を培ふことはその三であつて、この二つの目的は小學校の訓練に於て特に留意さるべきところで

## 知識技能

ある。日常生活に必須なる普通の知識技能を授けるのはその四であつて、これは主として教授に於て取扱はれる問題である。教授、訓練、養護は小學校教育の三作用である。

小學校の目的はこれを二方面から考察することが出来る。これを一家個人の方から考へれば、社會に出て立身出世をなし一家の繁榮をはかる素地をつくることである。今日のやうに進歩した世の中に於ては一定の教養がなくては到底成功することが出来ない。少くとも小學教育位は誰しも受けねばならぬ。従つて小學校の教育はこの見地にたつて有用な教育を施すことを目的とせねばならぬ。次にこれを社會國家の立場から考へると、社會國家の進歩發展は一にその成員たる國民の教育程度如何によつて決せられるものであるから、小學校に於ては特に國民として恥しからぬ教養を與へるやうに努力しなければならぬ。この二つ

## 義務教育

の目的は小學校令第一條に於てもよくうかがふことが出来る。例へば生活に必須な知識技能を與へるといふのは前者であるし、道德教育殊に國民教育の基礎を與へるといふのは後者である。身體の發達に留意することや道德教育のことは兩方に必要であると考へられる。このやうに小學校の教育は個人としても國家としても必要缺くべからざるものであるから、國家はこれを義務教育とし、滿六歳に達した翌日から滿十四歳に至る八箇年間の學齡期間に、小學校の教育を受くべきことを規定してゐる。

小學校の教育がこのやうに義務教育として、貧富貴賤の別なく國民一般の受くべきものとして要求され、獎勵されるやうになつたのは、邑に不學の戸なく家に不學の子弟なきを期せられた明治天皇の御盛徳によるものである。即ち御即位の始め天神地祇に誓はせられて五ヶ條の御誓文を御發布になつた。曰く

## 國民教育の大精神



五ヶ條の御誓文

一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ  
 一 上下心ヲ一ニシ盛ニ經綸ヲ行フベシ  
 一 官武一途庶民ニ至ルマデ各其志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス  
 一 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ  
 一 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ

明治維新の大業は一としてこの大精神によらぬものはないけれども、わけてこの國民教育の大方針は茲にその源を仰ぐことが出来る。降つて明治二十三年には教育に關する勅語をおくだしになつて、國民教育の據るべき所をお示しになつた。日本國民に今日の盛大と平和と幸福とが持ち來らされたのは一にこの卓拔なる明治天皇の御精神によるものであつて、教育事業の盛んになればなるほど、この大精神を發揚するやうに心掛けねばならない。

### 第二節 小學校の教育者

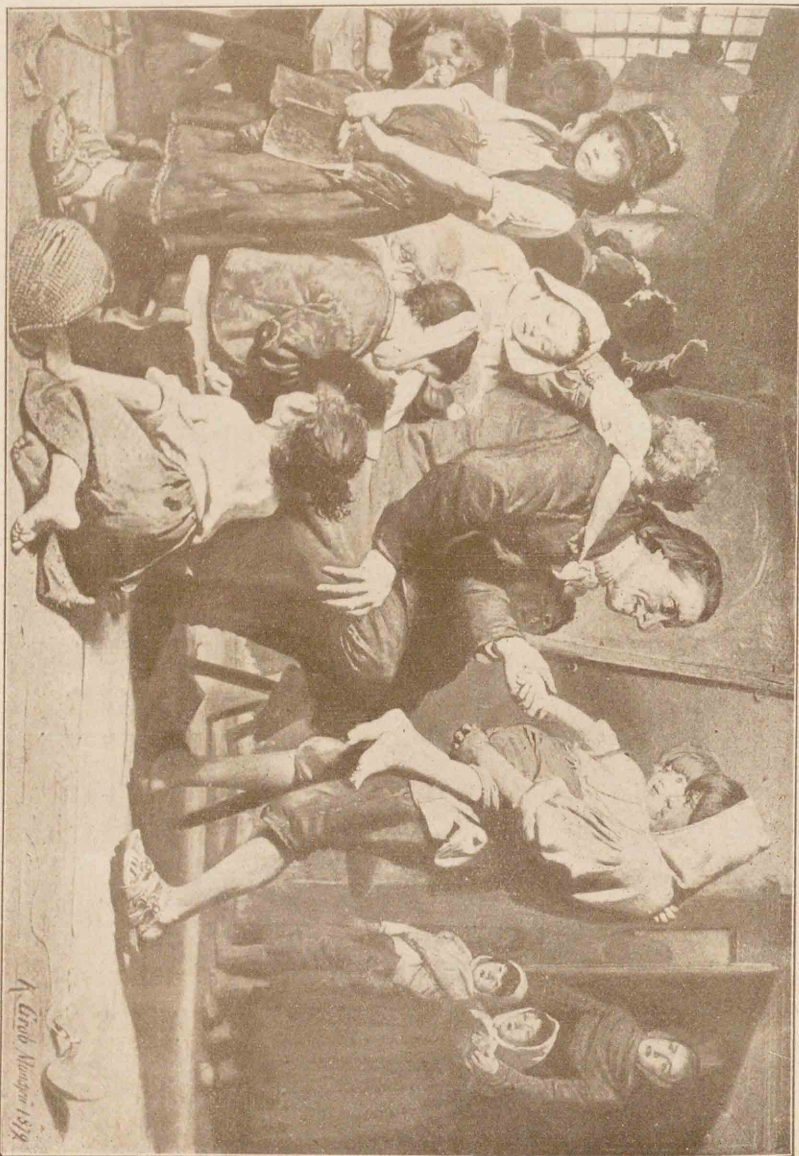
教師は他人である

家庭教育の主宰者は母であつて、母は本來わが子を愛する熱情をもつてゐるが、小學校の教育者は他人である。したがつて始めからその教へ子に對して母のやうな愛情をもつてゐるものではない。子供は教師によつてはじめて他人に接するといふことが出来る。母にのみ、身内のものみに接してゐた子供は、そこに一種の矛盾と空虚とを感ずるものである。入學當初の子供に對してはこの微妙な心持の變化に注意せねばならぬ。子供の前で教師を批評し、その取扱を是非することは一層この他人と云ふ心持を助長するものである。また教師をあまりに嚴格なものに見立てることも、子供をして教師の前に心の扉を閉ぢさせるやうになる。教育は心と心の接觸に始る。へだてぬ心をもたずやうに氣をつけることは學校でも家庭でも大切なことである。

個性を知る力

子供に對する愛情の起るのはその子供の個性を明かに認識した時である。愛なくして教育は行はれないから、この個性を知る力は教師に大切なものである。女子が教育者に適してゐるといふのも一つはこの個性を見わかる直覺力が女子にあるからである。一年よりも二年、二年よりも三年と同じ教師についてゐる時間がながければながいほど教師にも子供にも愛着の心が起るのは、この個性を知ることがお互に深くなるからである。小學校の教育は、家庭教育から見れば非常に知識を授けるといふ色彩の強いものではあるが、なほ専門的な知識の傳達を必要としない時である。むしろ個性の一層著しい發展を期すべき時であるから、小學校の教育者は、よく子供の生活をみつめてそこに子供の個性を理解し、その個性を發展せしめるやうに努力せねばならぬ。人各享くる所あつて、個性より見るならば人間に廢物はないものである。

グロリー 筆



入スタロチと子供たち(スタック孤兒院にて)

「スカロツチは貧しい生活をしてゐる子供達が、その貧し  
のために尊い個性を伸ばすことが出来ず、悲惨な境遇に沈んで  
ゆくのを悲しんで、自分の一生を賭してこれを救はうとした人  
である。スカロツチの孤児院を經營するやうになつたのも、さう  
いふ止み難い念願からであつた。この孤児院を經營した期間に  
短かつたが、その熱愛と信仰とはよくこの世にけられた子供達の  
心裡に誕生の明るさを興へることが出来た。

### 求道心

### 無邪氣

る。ある一面よりしか人間を見ることが出来ず、そのために人と  
人との間に甲乙をつけ、個性の價値をよく重んずることの出来な  
いものは、小學校の教師たる資格のないものである。  
小學校は高尚な専門的の知識を授けるところではない。しか  
し強い研究心を子供の心に植ゑつけねばならない。それがため  
には小學校の教育者は絶えざる求道者であらねばならぬ。即ち  
小學校の教育者は學者であり、聖人であることは要しないけれど  
も、野心も、悩みも、苦しみもある人間であるべきである。蓋し求道  
の心なくしてはこれらの悩みを感じることがなく、悩みなくして  
は人の心の深いところに接することが出来ないからである。法  
然も親鸞もその悩みの多い人々であつた。この人達によつて正  
しいめざましい人間教育の道が見つけられたことは少くない。  
教育は心と心の一致から出發する。その點から考へると子供

のやうに無邪氣になれる人がもつとも小學校の教育者に適してゐる。ペスタロッチもフレーベルもさう言ふ人達であつた。少くとも子供の時の無邪氣さを失はず、何時でもその無邪氣さに歸り得るものが小學校の良教育者となり得ると言はねばならぬ。それがためには日々の悩みが念々にくだけて行くと云ふところがなくてはならぬ。その意味で宗教的信念は人間に永遠の若さを與へるものである。

吾今爲國死<sup>ス</sup> 死不背君親<sup>ニ</sup> 悠悠天地事<sup>ヲ</sup> 鑑照在明神<sup>ニ</sup>

松陰にこの心境があつて松下村塾の青年教育が大成功を収めたものである。

### 第三節 學友

學友の感化

學校の特色の一つは友達のあることである。少年少女期の子供に友達の必要なことは幼児期以上である。これは社會的本能

社交的訓練

の現れが一層顯著になつて來たことを示すものである。とまれこの頃の子供は家を外にして遊びまはるものであるから學友の感化を受けることが多い。學友の力は子供の上に親よりも兄弟よりも時として教育者よりも強いはたらきをもつものである。

この傾向を利用して社交的な訓練をなし、同情、友情といふやうな社會的感情を養ふたよりには、非常によいことである。學校で言ふならば級友の病氣見舞やその家の不幸のお弔ひなどがその例である。それも出来るだけ子供らしい方法でその友情をあらはすやうな手段をとるがよい。必ずしも大人のやうな仕方をする必要がない。家庭では誕生日の會、御節句のお招き、カルタ會などを企ててお友達を招くがいい。これ等は皆友情を濃かにし子供の社交的な訓練になるものである。

學友の選擇

學友を選擇することは子供自身の性質や環境に支配されることが

多く、父母や教師がこれを選んで與へようとしても、必ずしもその通りにならぬことがある。しかし悪友の影響は恐るべきものがあるから、此の點については學校でも家庭でも細心の注意をせねばならぬ。殊に父母たるものは、その子供の學友について常によく觀察して、子供に學友の美點や長所を學ばせるやうにとつとめ、又友の悪い點や短所を見て我が身の缺點を反省せしめるやうに導かなければならぬ。妄りに好惡の情に従ふことは慎まなければならぬ。

最も注意を要することは團體を作る風がこの期の學友間に次第に流行して來ることである。この風は時に秘密の集りをつくつて悪事をはたらくことがあり、その結果は恐るべきものがある。それゆゑこの傾向を善導することが大切である。例へば運動の團體をつくらすとか、學習の團體を組織すとか、音樂作文の會お

## 團結心の善導

伽嘶の會、日曜を利用する遠足、寫生の會などをつくつてこれを子供の自治にまかすことは、この傾向を善良に導くものである。現今の學校にはこの傾向を指導する施設が足りないため、子供は市井の間に不良の團體を組み勝ちである。近年發達しかけた少年赤十字、少年團などはこの傾向を善導する最もよい企てである。試みに少年團の掟を左にかかげる。

## 掟

- 一 健兒は命にかけても己が節義を重んずる。
- 二 健兒はお互に兄弟である。
- 三 健兒は恭謙である。
- 四 健兒は禮儀正しい。
- 五 健兒は心身共に清い。
- 六 健兒は質素を旨とする。

- 七 健兒は快活である。
- 八 健兒は動植物の友である。

宣誓

私は神聖なる信仰に基き名譽にかけて次の三條を誓ひます。

- 一 神明を尊び皇室を敬ひます。
- 一 人のため世のため國のために盡します。
- 一 少年團の掟を守ります。

標語「そなへよ、つねに」

第四節 教科書と課外讀物

國定教科書

科目によつては教科書のないものもあるけれども、多くは國定教科書を用ひることになつてゐる。教科書が國定になつてゐることは義務教育の性質から考へて、なるべく費用を少くしようと云ふことと、國民教育の主眼に立つて効果ある内容を一樣に授け

耽讀の弊

たいといふ考へからである。

さて學年が漸く進むにつれて子供の讀書慾は日に日に盛んになつて、はては手あたり次第に何でも讀み散らすやうになる。ここに於て課外讀物を與へる必要が生じて來る。教科書と課外讀物との取扱ひはなかなか難しく、これを自然に任かすと、往々耽讀の弊に陥る恐れがある。子供が童話や雜誌に讀みふけつて、寢床までこれを持ち込んだり、學校の休憩時間にまで持出して讀み耽ることはよく經驗することである。

讀書法

およそ讀書の方法には二通りある。一を粗讀といひ、一を精讀といふ。粗讀といふのは字句にかかはらず通讀してその大意をとるもので、童話などを讀むのはこの方法でよい。精讀といふのは一字一句を忽せにせず、熟讀玩味する方法で、教科書などはこの方法によらないと、失敗をする。この二つの讀書の方法は子供の

時代から修練すべきもので、學校でも家庭でもこの指導にあたらなければならぬ。そこで教科書は念には念を入れ、吟味に吟味を重ねて編纂してあるから精讀の材料としては最も適當なものである。しかし乍ら旺盛な子供の讀書慾は、到底この沈思低回的な精讀にのみ甘んずることが出来ないから、ここに適當な課外讀物を與へて粗讀の材料にするがよい。多くの場合教科書は學校でも吟味をして教へ、家庭でも念を入れて豫習復習をさせるけれども、課外讀物に至つては全く放任になりがちである。これは思はざるも甚だしいもので、かくては讀書力の大切な半を失ふことになる。それゆゑ家庭でも學校でもまづ課外讀物の粗讀の仕方について指導を怠らぬやうにせねばならぬ。

## 課外讀物の指導

課外讀物の粗讀の仕方を指導する方法は種々あるであらう。例へばある題目を與へて讀ましめるとか、讀んだ後にその内容を

## 課外讀物の選擇

發表紹介せしめるとか。或は理科の書物ならばその記述に従つて實驗させるとか。名勝案内によつて旅行遠足の計畫をたてさせるとか。漸く學年が進むにつれて内容の批評をさせたり、お話の内容を劇に仕組ませるなど、ともに適當な方法と言はねばならぬ。また一面これによつて子供が耽讀に陥るのを防ぐことも出来るのである。

課外讀物の選擇は先づ子供の好尚によらねばならない。大人に好いと思はれる讀物が必ずしも子供に適當な讀物ではないから、子供の希望によつて選り、大人の考へをもつて妄りに干渉しない方がよい。しかしなほ二三の注意すべきことがないではない。子供はともすれば低級な雜書を耽讀しがちである。それらのものは兒童の好奇心をそり易いからである。またその内容の餘りに悲哀にすぎるものや、恐ろしいものは、子供の精神をいたましめ

るものである。極端な社會の暗黒面を描いたものや、不良な風俗を寫したものは、子供の精神から明るさを奪ふものである。これらはともに注意して避けしめねばならない。「自由に、しかし注意深く」と言ふことが學友の場合と同様にここでもよい標語である。近時その道の大家がきそつて子供のためによい科學的或は文學的な兒童讀物を著作されるやうになつたことは、誠に福音といはねばならぬ。

### 第五節 小學教育の三方面

#### 第一 養護

身體の發達はなほ植物の發育の如きものである。植物はその發芽や移植の當時は雨につけ風につけて適當な保護が必要であるが、愈々根づき育ちはじめたならば次第に雨にもあて風にも鍛へねばならぬ。さうしないと温室の花となつて終ふ。子供の身體

養護

についても家庭教育に於ては保護的な各種の注意が必要であるが、小學校に通ふ頃ともなり、學年も次第に進むにつれて次第に鍛錬の趣を加へて行かねばならぬ。小學校に於ける養護の積極的方面は體操、教練、遊戯及び競技によつて代表される。體操、教練は主として身體各部の均齊な發育と協同を尙ぶ習慣を養ふものであり、遊戯及び競技はそれに興味の加つたものと見ることが出来る。いづれも無理がかからないやうに、各自の體質に應じた體育が施さるべきである。消極的方面としては學校の設備に注意し、通風、採光、保溫、飲料水等を衛生的にする外、机、腰掛、黑板器具等も子供の感官姿勢、健康等を損はぬやうにし、常に學校病の發生と傳染病の豫防に留意せねばならぬ。しかして次第に鍛錬の心持を加へるやうに心がけねばならぬ。

#### 第二 教授



## 教授の目的

教授の目的については從來二つの考へ方がある。即ちその一は、一定の期間内になるべく多くの文化内容を學習させようとするもので、これを教授の實質的陶冶といひ、他の一つは、生徒の學習能力の養成に重きをおくもので、これを形式的陶冶といふ。何れを重んずるかと言ふことは議論の存するところであるが、學習の基礎を與へるといふ小學校教育の性質から言へば、形式的陶冶を輕んずることは出來ない。

何を教へるかといふこと、即ち教授すべき文化内容はこれを教材といふ。教材を一定の部類に分けたものを教科目といふ。教材の範圍、教科の種類は個人の發達から考へても國家の將來から考へても非常に大切なことになるので、小學校令をもつて規定されてゐる。しかして小學校令施行規則には、各教科目の要旨を確定し、且つその内容を定め、別にその内容を難易の順によつて各學

## 教材

## 教科目

## 教科課程表

年に配當し、毎週の教授時數を規定したところの教科課程表といふものを示してある。國定教科書はこの内容に従つて作られ學校はこの要旨に従つて教授してゐる。

## 教授法

如何に教へるかと言ふことは、心身の發達の途中にある小學校に於ては正に工夫討究さるべき問題である。先づ第一に各學校に於ては、この全國一様に定められた教材を、その土地の情況、學校の事情等を考へて、その學校に適したやうに各學年、各學期、各週に配當した豫定案を作る、これを教授細目といふ。さてこの豫定を立てば次に時間表(日課表)を作つて毎日の豫定時間を定め、更に担任の教師は全教材を適當に區分し、その區分されたものを單元といふ。この單元について教授の順序を考へて教授案をたてる。一單元の教授の順序を教授の段階といふ。

## 準備的行動

## 教授細目

## 日課表

## 教授案

## 教授の段階

教授の段階は通常三段に分れる。(一)豫備(二)教授(三)整理がこれ

である。この三段は子供の心理作用と、新しい事項を理解する順序とを研究して案出されたものである。

(一)豫備 學習の動機を喚起するのがこの段の任務である。即ち教授の目的を指示して子供の注意を新教材に向け、或は新教材を理解するに必要な既知の事項を復習し、技能科に於てはその用意をなさしめる等、心身の準備を整へる。

(二)教授 新しい知識、技能をこの段で授ける。その授け方は種類ある。知識教材は正確な判断をさせ、實驗をするやうな場合は觀察、比較をなさしめ、技能科のやうなものは示範し、説明し、練習させる。

(三)整理 新知識を子供の生活に統一する。即ち既知の事項に結合し、或は他の方面に應用し、理科などでは法則に、修身は格言のやうな形にまとめ、技能科では成績の處理をする。

## 教授の様式

教授中はなるべく子供を働かせるのがよい。自ら働いて得るのは啓發されるところが多いものである。教師は子供の活動を促すやうに働かねばならぬ。教師と子供の活動ぶりを教授の様式といふ。教授の様式中、教師が主として働いて、子供は表面受身になるものを、注入的教式といひ、左の四種がある。

## 示教式

(一)示教式 實物、模型、標本、繪畫を示し、或は實驗を行つて子供の直觀を指導する教式である。

## 示範式

(二)示範式 模範を示してこれに倣はせる教式である。圖書、書方、體操、唱歌などはこれによる。

## 講話式

(三)講話式 教師の講話により、子供の想像をはたらかせ、思考、感情に訴へて理解せしめる教式である。

## 説明式

(四)説明式 事實間の理論的關係を明かにする教式である。子供が表立つて活動するものを開發的教式と言ひ、これには左

發問式

の二種がある。  
(一)發問式 教師と子供とが互に發問應答をしながら教授を進める教式である。

課題式

(二)課題式 問題を與へて子供自身に活動させる教式である。近時世に唱道されてゐるダルトン・プラン、プロジェクト・メソッドの如きもこの方面即ち子供自らの活動を重んずる教育法である。すべて教授の効果は、その教授された知識技能が、どれ程子供自身のものになつてゐるかといふことによつて試めされるものである。それゆゑ教授者は以上述べた種々の形式の精神を汲み、敢へて形式になづまず、新奇にはしらず、確實なる効果をあげてゆくやうにとめねばならぬ。

第三 訓 練

社會的訓練

小學校の訓練の特色はその社會的訓練にある。家庭幼稚園な

どでは、目上、目下のもののみで同輩がなかつたり、或は同輩のみで目上、目下のものがあるなかつたりして、これを社會生活の模型として考へるには缺點が多かつた。殊に年も幼く精神も社會的訓練に適しなかつた。しかし小學校の時期に於ては精神も適當に發達し、その環境には目上目下同輩長上等あらゆる身分のものがあり、多人數で共同生活を營んでゐるので、多人數の間に必要な公徳、奉仕、協同、親和、正義、克己、生存競争場裡に必要な勇氣、自信等の諸徳を練習するには誠によい機會である。このやうな社會的訓練を行ふ方法は種々あるであらうが、要するに團體意識の働くものが多い。團體遊戯や團體競技などは子供の嗜好にも適し、結果も明瞭であつてこの訓練を行ふに適當な手段である。各種の當番、掃除、圖書室の整理などは責任の念を養ふに適してゐる。式日、祭日その他の儀式、學藝會、音樂會、運動會等は秩序、靜肅、共同等の公衆道

## 自治の訓練

徳の修練となる。これらは主として團體的共同的な諸徳であるが、整理、整頓、清潔のやうな個人的な諸徳を守る修養もまた學校生活、學級生活の間に行はれるものである。

自治の習慣を養ふことは更に大切な社會的訓練である。自治は政治組織の基礎をなしてゐて、自治の訓練がよく行はれるか否かは、早速次の時代の國民生活の安危にかかはることである。しかし子供の自治と大人の自治とは大いに異なるものであるから、自治の訓練をすると稱して小さき大人を作つてはならない。小學校時代の自治はむしろ自治の精神とも言ふべきもので、その手はじめとしては家庭や學校に於て自分のことは自分でするといふ程度のところから始められねばならない。そしてやゝ進んでは各自の組を整理するために委員を選んだり、當番の割りあてを協議したり、遠足、級會の分担を定めたりする等、子供の精神の發達に

## 訓練の方針

順應したものを選ばねばならぬ。自治の精神の基礎をなすものは、共同と責任と奉仕とであるから、自治と稱しなくてもこれ等の諸徳を養ふことは、やがて健全な自治の精神を養ふ所以となるものである。

自由か束縛かと言ふことが從來訓練の二大方針として考へられてゐる。子供の情意生活はきはめて活動的であるから、束縛がよいと言つてもこれに對して一言一行に干涉して過度の束縛を加へると、この活動性の圓滿な發達を期することが出来ぬ。ともするとこれがために誠實の心を失つて虚偽に陥るものである。またその子供の性質によつては徒らに反抗心を養成することにもなる。これに反して自由を誤解して放任をこととすると、子供は放縱に流れて慾望の奴隸となり、成長の後もその弊を脱することが出来なくなる。これまた自然の性を損ふものである。そこ

で寛嚴よろしきを得ると言ふことが訓練の要諦となる。ルソーは「エミール」の中で束縛を排し、子供を自由に育てよと言ふことを主張してゐるが、仔細にこれを読むと、それは人爲的な束縛を攻撃しただけであつて、我儘に育てよと言つてゐるのではない。愛の教育者と稱せられるベスタロツチも決して我儘を許さなかつた。學校生活には小さい人生の趣あらしめるがよい。人生には大いに活動する自由の天地があると同時に、天地自然の原則、人と人との間の道徳律は嚴として動かすべくもない。もし人生を自由の天地とのみ信じて、嚴として侵すべからざる一面のあることを忘れしめたならば、それは學校教育の失敗と言はねばならぬ。それ故、いやしくも道理にはづれたこと、社會生活を損ふやうなこと、身體上の危険と精神上の不徳惡癖のごときは嚴にいましめねばならぬ。

學校と家庭の  
連絡

學校の方針と家庭の方針とが矛盾しないやうにすることは訓練に於て特に必要である。これがためには家庭と學校の連絡が講ぜられねばならない。學校はこの目的のために保護者會をひらき、行事を通知し、或は家庭訪問等をなすべきであるし、家庭では折あるごとに學校を參觀し、或は質疑をなし、相談をもちかけて、兩者相俟つて訓練の効果を擧げるやうに努力しなければならぬ。學校の方針を批評し、子供の面前で罵詈すすてかへり見ないやうなことは師道の尊嚴を傷つけ、訓練の効果を破壊するもので最も慎まねばならぬ。

## 第六節 特殊教育

目が見えなかつたり、耳が聞えなかつたり、或は生れつき人並の能力のない子供や、性行に欠陥のある子供、これらの子供を特殊兒童といふ。この不幸な特殊兒童のためにも教育が考へられて、文

## 聖代の餘澤

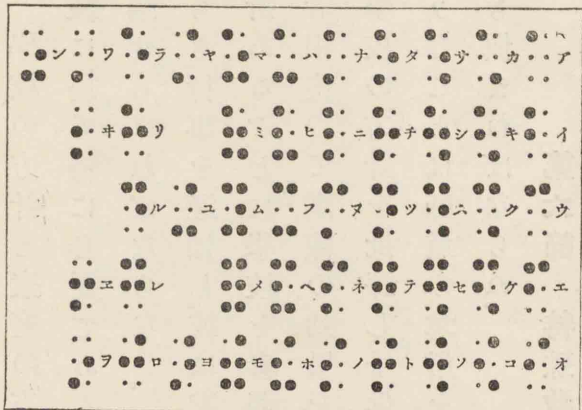
明の恩恵に浴することの出来るやうになつたのは、當然のこととは言ひ乍ら、まさに聖代の餘澤である。

**盲學校** 盲學校は盲目の子供に普通教育及び職業教育を施す

ところである。點字といふ特殊な文字が盲人のために發明されてから、この方面の教育は非常な進歩をとげた。現今わが國には七十餘校の盲學校がある。點字新聞も發刊され、點字投票も認められるやうになつて、この不幸な人々も漸う我等と同じ幸福を受けるやうになつて來てゐる。

**聾啞學校** 生來耳が聞えないために話が出来ないといふ氣の毒な子供

盲學校  
點字  
文部省著作の  
盲學校用教科  
書がある



聾啞學校

口話法

のために聾啞學校が設けられてゐる。近來口話法が用ひられるやうになつてからこの方面の教育も非常な進歩を遂げるに至つた。口話法と言ふのは他人の唇を見てその話を會得し、これを眞似て發音する方法である。

林間學校

**林間學校** 身體の虚弱な子供のために、身體の保養を本位とし、その間に少しづつ學習させるために設けられる學校である。我國には常設のものはまだ少い。しかしこの學校は健康な子供にも有効な方法であるから、この精神をくんで、夏休中、有志の子供に海濱や林間に引率して水泳や遊戯をさせながら少しづつ復習もさせることは我國でも盛に行はれてゐる。

臨海生活

補助學校

**補助學校** 知能の發育のきはめて不十分で、普通の子供と一緒に教育することの出来ない低能兒のために、特殊な教育を行ふ學校である。一校を組織するまででなく普通の學校で學級を別に

## 補助學級

して教育してゐるところもある。このやうな學級は補助學級と言ふ。また低能兒よりも一層知能の劣つたものはこれを白痴と言つて従來は教育の道のないものとされてゐたが、近來の研究は、感覺器官の練習から始めて、相當の効果を收める道が発見されてこの方面の教育も次第に發達して來てゐる。

白痴や低能兒を無教育のままに社會に送ることは、本人の不幸はもとより、社會のためにもよいことではない。殊に彼等といへども人の子である。尊い人間の生を享けながら、その光をあらはさずに、犬猫のやうに終らしめることは見るにしのびないことである。この方面の教育が發達して來たのは誠によろこばしいことである。

## 孤兒院

**孤兒院** 親のない子供のために、養育をかねて教育を行ふところが孤兒院である。わが國では聖徳太子の悲田院以來の古い歴史をもつて居り早くから發達してゐる。現在わが國には公私立

澤山の孤兒院がある。孤兒の教育は、境遇のためにもすれば僻みがちな性格を素直に育てることが何より大切である。

## 感化院

**感化院** 道德上の低格兒のために感化遷善の教育を行ふところが感化院である。これらの低格兒はあるものは先天的な遺傳から、あるものは境遇の悪かつたことから不良な子供になつたものである。嚴格にすぎる家庭、放任にすぎる家庭、兩親のない子供、一方の親のない子供、酒飲みの家庭などから出るこれら後天的な低格兒の多くは、家庭の冷たさ、淋しさに満たされない心をいだいて市井の歡樂を追うたものである。道德的見識もなく情操も乏しいから、説諭や訓戒は効がない。適當な職業をあたへて、氣ながに愛情をもつて導くのが最もよい方法である。

## 社會事業と女性

同じ時代に同じ人間に生を享けながら、不幸なもの不幸なま

まにしておくことは堪へ得ることではない。相ともに手を携へて幸福な生涯を送りたいものである。このやうな考へから、社會の欠陥、天性の不運から不幸な境遇にある人々のためになす救濟事業を社會事業と言ふ。特殊教育は社會事業の重要な一部をなすものである。社會事業の發達は愛情深き女性の理解ある共同に俟つことが多い。

## 第九章 青年期の教育

青年期

青年期は心身の變化期である。精神も身體もこの期間に急速に發達してこの期の終りには殆んど成熟の域に達する。この異常な發達に伴つて精神上にも身體上にも種々な變化が現れる。一般に感傷的になつて、且つ怒り易く、反抗的な氣分になり易い。すべてのものに疑ひをもち、その解決につとめるやうになる。正

義を愛し、殉教的な行を好み、美に對して強いあこがれをもつやうになる。要するに精神が動搖し易く、身體も健康を損ねがちである。従つてこの期は人生の危機だといふことが出来る。また人間はこの時期に一度生れ變るやうなものであるから、第二の誕生だともいふ。この時期の教育を分担するものは中學校及女學校、其他各種の中等學校であるが、かう言ふ氣難しい時代であるから、この期の教育は一番難しい。

### 第一節 中學校と女學校

中學校と女學校とはそれぞれ男子及び女子の高等普通教育を施すところである。普通教育といふのは、人としてまた國民として必要な一般普通の教養を與へることを言ふので、小學校は初等の普通教育を行ふ所である。中學校及び女學校は小學校教育を基礎としてその上に同様の教育を行ふのでこれを高等普通教育

中等學校



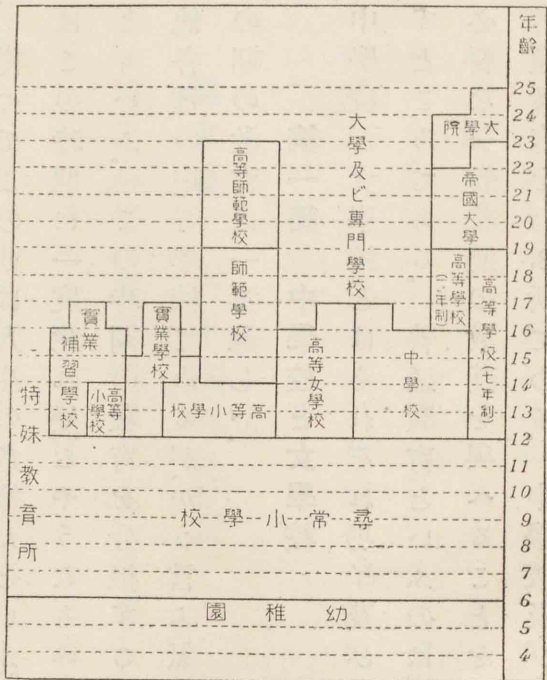
と言ふわけである。高等普通教育の機關には外に高等學校があ

つて、高等學校を以て高等普通教育は完成されることになつてゐる。

中學校や女學校は高等普通の教育をなすところであるから専門學校と異つて職業的色彩が薄い。言はば何れの職業に従事することも任務としてゐる。國家の消長は國民文化の程度によつて決せられるから、より高き

實業學校

我が國の學校系統



事するとも役立つやうな基礎を與へることを任務としてゐる。

女學校の特色

普通教育を受けた國民が多くなることは喜ばしいことであるけれども、また一方、人は必ず何等かの職業に従事するものであるから、職業的な教養をおろそかにしてはならない。各種の實業中等學校はここに存在の意義をもつてゐるものである。

女子は天分とするところが男子と異り、家庭を齊へ、子女を教育することが將來の主な仕事であるから、女學校は中學校とその内容を著しく異にしてゐる。もつとも近來女子の職業に従事するものが次第に多くなつて來たが、その傾向の善悪は別として、その職業は依然として補助的な色彩の濃いものである。それ故女學校の特色はその家政的な部分にあるといふことが出来る。即ちよき母性への準備が女學校の使命であり、誇りである。

男は剛かれ、女は優しかれ、これは人類はじまつて以來の祈願である。しかして中學校と女學校とが丁度その教育をなすに適當

柔と剛

した時期である。剛と言ふのは強い意志と正義を愛するの情を言ふのであつて、粗暴を言ふのではない。易に所謂自彊不息なる乾の徳である。優しさと言ふのは柔弱といふことではない。春風もつて人に接し秋霜もつて己をつつしむといふつつまじき坤徳を言ふ。

宿かさぬ人のつらさをなさけにて

おぼろ月夜の花の下ぶし

の歌を以て有名な蓮月尼の如きは、最も理想的に坤徳を發揮した人である。西洋においてラファエロの描いた聖チエチリアのごときは、藝術品ではあるがやはり此の坤徳の理想を西洋風にあらはしたものである。

此の如く眞實の人間としての男性への教養と眞實の人間としての女性への教養が、中學校と女學校の訓練の方針でなければな



筆ロエッフラ

アリチエチ聖

イタリアのボロニアの美術館にあるラファエ  
ロの傑作であつて、ドイツの文豪ゲーテを感激  
せしめたもの、聖き宗教の世界と和かなる女性  
の心との理想的融合を示したものである。

### 個性の指導

らない。

個性の輝きはこの期に次第に明瞭になつて来る。従つて學習にも好悪があらはれ、生徒は往々にして好きなものに熱中し、嫌ひなものはすててかへり見ないやうになる。この傾向をよく指導することはやがてその一人々々をそれらの生涯の使命の道に自覺せしむる所以となるのである。

### 第二節 性的誘導

#### 性意識の發芽

青年期になると異性に對する好奇心が漸次強くなつて来る。これは誇示、羞恥、愛執、憎惡、嫉妬などと同じく種族保存の本能の一の現れてあつて、この本能はこの青年期に始めて明瞭にあらはれ、しかもこれは食慾などの自己保存の本能について旺盛な本能であるから、適當な誘導をしないと青年の前途をあやまる少くない。

取扱ひ方

既にのべたやうに、本能には變化性と稱すべき性質があつて、その發現の最初の時期に注意をして適當な手あてをなすと、その本能のよくない方面の發現を防いでしかも他の方面に於てその本能に十分はたらく餘地を與へることが出来るのである。それゆゑこの異性に對する好奇心の取扱についても、一方に於ては悪い方面に發達しないやうに境遇を整理すると共に、他方穩當な方面に發現の餘地を與へるやうな教育の方法をとらねばならぬ。

異性に對する好奇心はこれを刺戟しないのがよい。友達や讀物の選擇に注意することが大切である。友達のなかには變態的にこのやうな興味の強いものがあり、それがために往々不良少年の群に投ずるやうな危険がある。また讀物のなかにもかかる好奇心に投じて讀者を釣らうとする所謂「賣らんかな」の書物がある。注意して避けしめねばならない。青年の興味をこれらの不良な

刺戟しないやうに

運動の獎勵

刺戟から避けしめる第一の道は運動を獎勵することである。運動は青年の最も好むところであつて、これによつて强健な身體を得るのみでなく、純潔淡泊快活な性格と正義を愛し、公平を旨とし、困苦にたへる奮闘的精神とを養ふことが出来る。一方に於てこのやうなよい陶冶が出来るのみならず、身體を使ふ結果、こころよき疲れを覺えてながき夜を他念なく熟睡することが出来て、誘惑のつけ入る機會をなくするものである。すべて緊張した精神をもつて他に餘念なからしめると言ふことが大切である。その意味ではあながち運動に限らず、漸く旺盛ならんとする知的要求を察して、各種の研究に没頭し得るやうな境遇を與へることもよい手段である。學術、科學の各種の會合をつくるなどはこの例である。又高尚なる文學藝術に親しましめることもよいことである。名譽を尊び、正義を愛し、他の爲めに自らの勞苦をいとほぬと言

緊張した精神

犠牲的精神の指導

## 友情

ふ犠牲的精神は源を同じうしてよい傾向としてこの期に現れて来るものである。それ故、この精神の指導は青年の異性に對する興味を間接的に指導する所以である。例へば友達に對する友情はこの期に於ては異常な進化をなす。貧困な友人のために勞役をともにしてその學資を助けたり、病氣の友のために身の勞苦を忘れて看護につくしたと言ふ美談はよく聞くところで、この美しい友情はこの時代を飾る花である。それゆゑ學生生活とは友人をつくることであるといつてゐる人さへある。誠に信頼しあふ友人は一生の寶であつて、そのやうな友人はこの友情のあつた青年時代にのみ得られるものである。

## よき慰め

底知れぬ淋しき、頼りなさを感ずるのもこの時期である。殊に笈を負うてふるさと遠く遊學する青年にとつては、この寂莫の感は殊に著しい。これは家庭的な暖さから離れてゐることが一層

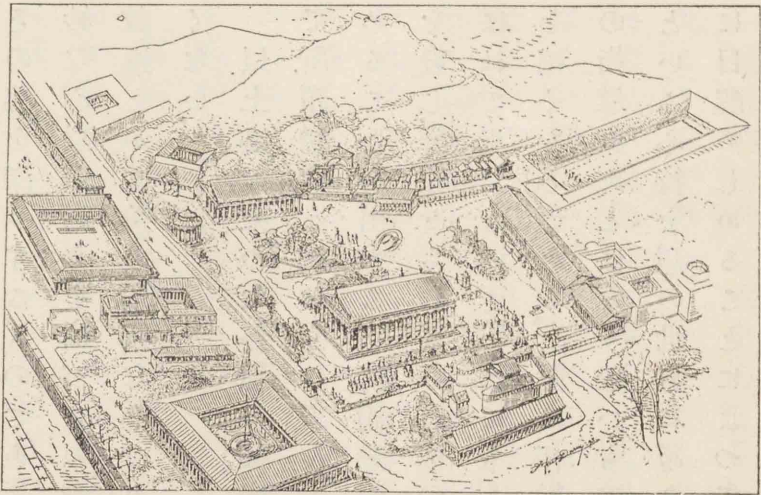
戀愛の否定即  
醇化

その感を深うするものであるから、父母はよく氣をつけてこの微妙な心意の動きをはづさぬやうにせねばならぬ。青年の墮落と放逸とが、父母の周到な心やりで未然に防ぎ得た實例は決して少くない。

以上述べ來つた各種の傾向を善導することによつて、青年をして所謂戀愛と稱せられてゐるものを否定せしめ、これを醇化せしめることが出来る。所謂戀愛事件なるものは、性的意識にその端を發し、醇化せられざる各種の傾向が、一の友情の形をとつてあらはれて來たものであつても、しその取扱ひを誤ると憂ふべき結果を招くものである。愛は相對的な心持であつて、愛のみでは人生の指導原理とはなり難いものである。所謂ものあはれを知るといふ心持を恩の世界に導き相對の上に超越した絶對の「まこと」に目醒めしめることによつてのみ、戀愛事件の眞の解決を得るも

鍛鍊の時期

運動



昔のオリムピア

のである。しかしてこれは性的意識が恩によつて醇化されたるものにのみ與へられる純なる一道である。

第三節 心身の鍛鍊

心身の鍛鍊の必要な所以については既に學ぶところがあつた。青年期はまさに心身の鍛鍊の時期に相當してゐるのであるからこの期を逸せぬやうにせねばならぬ。鍛鍊の方法は運動によるべきであるが、所謂運動なるものは鍛

勝敗を伴ふ運動

鍊といふ方面から考へると二種に類別することが出来る。一は勝敗を直接の目的としてゐるものであり、他は勝敗の念の強くないものである。古ギリシアで、祖先を同じうする各地方の人々がオリムピアにあつまつて、ゼウスの宮の神苑に於て各種の運動競技を行つて以來、世に行はれるやうになつたところの競走及び各種の競技などは前者であり、旅行遠足、登山の類は後者である。

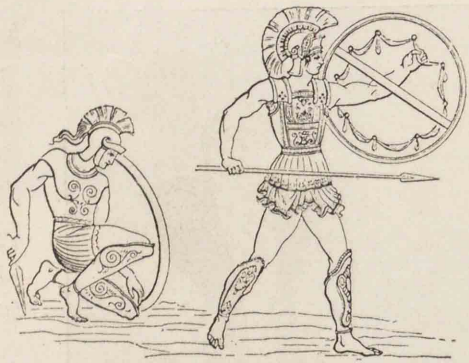
鍛鍊の鍛鍊たる所以は、その鍛鍊が身體を強健にするといふ點にとどまらず、實に意志の鍛鍊、即ち不撓不屈の精神を養ふといふ點にある。従つて強い身體を作る外に能のないものは、これを眞の鍛鍊といふことが出来ない。勝敗をあらそふ運動の陥り易い弊害はこの點にある。馬車馬のやうな身體と、上品な輕業師を作るやうな結果になり易い。プラトンはかかる精神的要素の欠けた體育を受けた者を批評して、彼等はその生涯の大部をねむつて

張  
プラトンの主



すこすものである」と言つてゐる。  
 プラトンによれば青年の教育は音楽と體育によるべきものであるとされてゐる。そして其音樂とは精神的陶冶一般を意味し、體育とは身體的鍛鍊を意味してゐる。その身體的鍛鍊の第一義は精神をして身體を支配せしめる事にあるといふのである。番犬のやうな鋭い眼と耳とを有し、飲料水や食物が様々に變化する間にあつて、又夏の暑さ冬の寒さの間にあつても、よくこれに堪へて健康を保つ程の意志力ある戰士を養成するのがプラトンの理想國に於ける體育の目標で、かかる鍛鍊に最も適したものは軍事的教練であると言ひ、このやうな方針の下に體育が行はれたならば、人體はみだりに病氣にかかるものではないと言つてゐる。

武士道



古  
リヤ  
ア  
シ  
の  
戦  
士

る。  
 プラトンが青年の身體を鍛鍊する最良の方法として軍事的教練をあげたことから、思ひ出されるのはわが國の武士道である。わが國の武士道は實に徹底した鍛鍊を行つたものである。即ち劍道、柔道、弓道などがそれである。しかしこの武士道の鍛鍊がプラトンの軍事的教練と異なるところは、後者が敵を豫想した訓練を主としてゐるに對して、前者は敵を豫想しながら敵を忘れることを極意とする點にある。所謂無念無想、眼中敵なく、自己なく、天地なきを達人の境地としてゐた點である。これは勝敗を争ひながら勝敗の外に遊ぶものであつて、この極靜の境涯か

勝敗を伴はぬ  
運動

ら大活力が生れたものである。このやうな徹底した鍛錬から來た武士道の人生觀には誠に悠々自適の趣があつた。宮本武藏の如き、山鹿素行の如きはかゝる心境に到達した人々である。それ



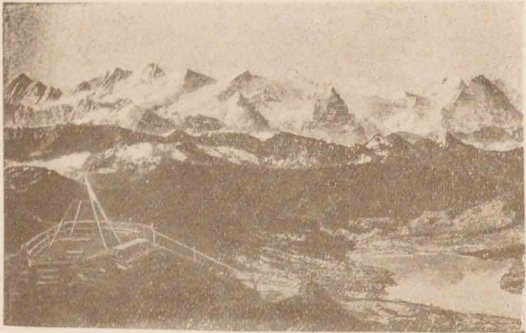
宮本武藏肖像

ゆる鍛錬の手段としての競走競技のみでは不十分である。鍛錬はこの心境をもつてその到達點と考へねばならない。

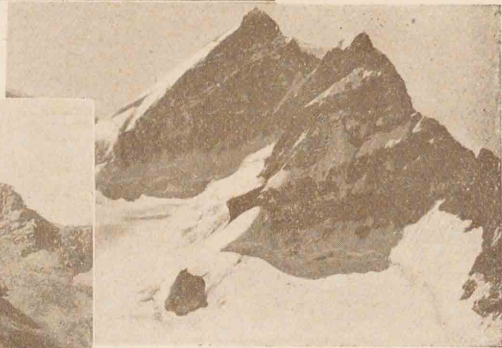
勝敗の念を伴ふことの少い運動、即ち登山、遠足等にあつてはまた別の意味の精神的鍛錬がある。即ちこの種のものにあつては、不眠不休、困苦、缺乏に堪へる意志力が養は

高山の愉快

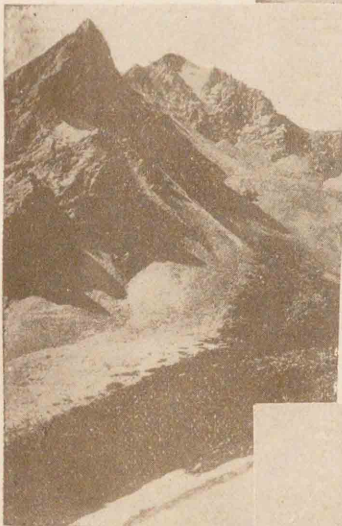
アルプス連峯



ウラフグンユ峯靈



岳ケ馬白・岳ケ槍



屋小の山れ離岳ケ馬白





英雄崇拜

れるものである。これらの諸徳は人間の慾望を節するところから生れる強さである。人間は自然の情として暖衣飽食を求め、偷安、惰眠をむさぼり易いものである。苦心、慘憺これらの慾望にうちかつて、始めて高山の愉悅にひたり、絶海の豪壯に對することが出来るのである。この己を盡くして、自然の大に抱合するところに、登山、遠足、旅行の精神がある。ただこの種のものにあつては青年にありがちな無謀をいましめねばならぬ。無謀は自然の大を輕視するところから起り、往々一命を危くすることがある。天地自然を畏れ、周到な用意をもつてこれに對することも運動の精神であることを教へねばならぬ。

少年時代の終りからこの期にかけて英雄崇拜の傾向が生じて来る。この傾向は往々にして粗暴放逸、無作法を豪傑の心事と心得て、身をあやまることがないとは言へない。これは英雄の高い

理想を解せぬところから來るものが多い。英雄の高い精神生活を味はすことによつて、この傾向の善導につとめねばならぬ。武士道が武士をして人間の花たらしめたやうに、眞實の人間の道がこれからの社會に立つ人をして、國民の中堅たらしめるのである。高い教養は精神の練磨を外にしては成就せられぬのである。

#### 第四節 宗教的覺醒

青年期の美しさはその純潔な理想をいざとところにある。名利に害せられず、虚偽偽瞞に陥らず、きはめて純潔な理想をもつてゐるところに、青年の面目が躍動してゐる。既にのべたやうに犠牲献身の情はこの期に始めて見られる美徳である。斷つとも切れない友情の美しさ、おしたてて戦ふ正義の華かさ、それをしも夢といふならば、青年は何によつて生きて行くべきであらうか。ただにその理想が美しいのみならず、青年は不屈の精神をもつてこ

青年期の美しさ

れを實現しようとしてとつとめる。願望逡巡を排してひとすぢにその實現を期する。そこにまた青年らしい若々しさを見ることが出来る。

理想と破滅

この理想の美しければ美しいほど、その實行の熱心であればあるほど、これらの理想は破滅し易いものである。否必然の道程として破滅の道をたどるものである。その破滅は、その理想がなかなか實現しないといふやうに外的に來ることもあるが、自分の内なる世界に動搖を感じると言ふ内的原因によることも多い。青年は勇んで進むといふ華々しい一面をもつと同時に、大層いたみ易い、沈み易い心をもつてゐるものである。正義をおし立てて不正と戦ふ間はよいのであるが、一度自分の内的生活を省みてそこに不正を見出した場合は、到底堪へられない苦しみを感ずるものである。犠牲献身を理想とし、社會改善、人類救済を絶叫しても、一

度それ自らに犠牲献身の念の寸毫もなく、むしろ自分はそれを叫ぶことによつて名を賣り世に認められようとしてゐるのではないかといふ少しの疑念でも起きたら、純潔を生命とする青年の常として堪へ得ることではない。光と暗とは隣りあつてゐるやうに善と悪とは表裏をなし、愛と憎とは隣りあひ、正を愛するところとこれを斥けるところが結合してゐる。一度自分の内面生活のこの矛盾に氣がついた時は、如何に高しとしてゐた理想もたちまちに破れ、黄金のやうに輝いてゐた理想も鉛のやうに黒ずんで終ふのである。そこに残るものは深い悲しみがあるだけである。

喜怒哀樂のやうな情緒は一面から見れば本能であるから、悲しみも喜びもその心情を轉換することが出来る。即ちこれをいたはることが出来る。所謂、悲しみ極まらうとするととき、笑で紛らすことも出来る。喜怒面にあらはさずして涙をのむこともあり得

いたはりと絶  
對恩

る。しかしこのやうないたはりの道によつて支配される喜怒哀樂の情には限りがある。前に述べたやうな理想の破滅に伴ふ無限の悲しみが、このやうな相對的ないたはりによつて和げられ、忘られて行くことが出来るであらうか。それは絶対に不可能であることを思はねばならぬ。この悲しみは何ものをもつてしても代へることの出来ぬ悲痛な悲しみである。しかしながらもう一層深い内觀の眼をむけた時に、更に大いなる力が自分に働いてゐることを感ずる。何故なら、そのやうに



山越の三尊

矛盾した自己に氣がつくと言ふことはそこに人と人との關係を  
超えた絶對者の恩光を生命の奥に感ずるからである。暗黒に向  
けてゐた瞳を轉じてこの恩光に接した時、そこに救濟があるので  
ある。そこにはやすらひとはげみとがある。かの有名な山越え  
の三尊の如きは、この美妙の心境を藝術的にあらはしたものであ  
る。

## 修養と信仰

親には孝なれ、人には愛をもて、偽るな正しくあれ、といふ求道生  
活は青年の理想とするところ、我等のもつて尊しとするところ  
である。人格を玉にたとへれば、その玉を刻々に磨いて永遠の光を  
與へようといふ修養は、誠に貴い人間の努力である。しかもこの  
やうな修養は結局破滅に導かれるものである。孝を勵む心は不  
孝な迷ひ心によつてこはされ、人を愛しようと云ふ努力は利己心  
によつて憎惡に變へられ、偽るな正しくあれと言ふ心の底から、同

じく人の目を逃れて悪事を働かうとする心がおこる。恐らく何  
人と雖自己内心のこの苦闘を見ては、悲觀、絶望せざるを得ないで  
あらう。この絶望の心の根柢をうるほすものが無限絶對の恩光  
であつて、この恩光の前には今までの力みはなくなつて、たゞ無限  
の感謝の行があるばかりとなる。既に絶對の光の前に自己の無  
力を知らされたものには悲觀も絶望も融け去り、ただ感恩奉謝あ  
るのみである。そこに底力強き人生の行路がある。信は力なり  
とはこの邊の消息を物語るものである。それゆゑ修養は信仰に  
よつて徹底するものと言はねばならぬ。行誠上人の歌に曰く、

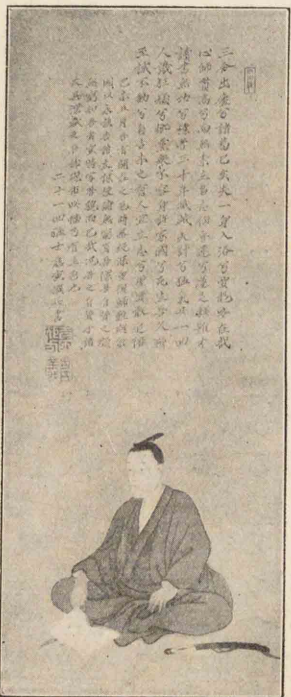
わが袖の玉とひろひてつつまばや

うちつけられし石も瓦も

あきらめに非ず、妥協にあらず、何と強い勵みではないか。

このやうな宗教的覺醒の道程も、要するに青年の一筋なる純潔

な精神より發するものである。この意味に於て青年時代はまさしく宗教的覺醒の時代であつて、青年期の教育にはこれを措いて外に生命の哺育をなし得ないものである。



吉田松陰肖像

しかして一度び宗教的に覺醒すれば絶對恩の光の中に自己を深省する生活は死に至るまで渝らぬも

のである。松陰が死に際して親に送つた手紙の如きは自己の學問の淺薄なるを反省し、

親おもふ心にまさる親こゝろ

今日の音つれ何ときくらむ

との情懷を洩したものであつて、まことに終始一貫宗教的の心境

西ノ春秋 陸奥の氣風 松陰の遺稿 松陰の遺稿 松陰の遺稿

松陰の遺稿 松陰の遺稿 松陰の遺稿

平生三才四徳を 五徳天の威徳を 承りて 承りて 承りて

平生の學問淺薄にして至誠天地を感格する事出来不申、非常の變に立至申候嘆々御愁傷も可被遊拜察仕候親思ふ心にまさる親心けふの音つれ何ときくらん

年、去去年十月六日差上置候書得と御覽被遊候はゞ左まで御愁傷にも不及申と奉存候尙又當五月出立の節

心事一々申上置候事に候今更何も思殘事無御座候此度漢文にて相認め候語諸友書も御轉覽可被遊候幕府正議は

丸に御取用無之衷狄は縦横自在に御府内を致し跋扈候得共神國未だ地に墜不申上に

聖天子あり下に忠魂義魄充々致し候得ば天下の事も餘り御力落無之様奉願候隨分御氣分御大切に被遊御

長壽を御保可被成候以上 十月廿日謹置

家大人膝下

寅二郎

百拜

兩北堂様隨分御身體御脈專一に奉存候私被談候共首までも葬吳候人あれば未だ天下の人には棄られ不申と御一

啖奉願候兒玉小田村久坂の三妹五月に申置候事忘れぬ様御申聞奉願候異々も人を哀んよりは自ら勤むる事干要に

御座候私首は江戸に葬り家祭には私平生用候視と去年十月六日呈上仕候書とを神主と被成候様奉願候視は巴酉の七月か赤馬鬮

廻浦の節買得せしなり十年餘著述を助けたる功臣なり松陰二十一回猛士とのみ御記し奉願候

に住したものと云ふべきである。

## 第十章 人生即教育

教育を青年期までの事業のやうに考へ、勉強を學校時代に限るのは、眞の教育の意義に遠いものである。人間の進歩發達はその一生に涉つて行はれるもので、従つて人は一生修養を怠つてはならぬものである。學校時代に於ける學問よりも、むしろ實際生活に當面して、そこに生くべき道を創造發見してゆくところにこそ、眞の教育の精神がある。社會は大きい學校であつて、人生は絶えずる求道生活である。

### 第一節 結婚論

青年期が第二の誕生であるならば、その次に來る結婚は新しい人生の學校に入學することに當るのである。青年期の心身の發

教育は一生の仕事

青年期の總果

## 人間の完成

達はここに最後の果實を結んで、人間はこの時から改めて新しい生涯に入るのである。

結婚は人間の意味を完成するものである。人間といふ言葉は、男を意味するものでもなく、女を意味するものでもない。いはばその全體を意味してゐるものである。プラトンはこのことについて一つの物語を残してゐる。その喩へ話によると、太古人間は球形の身體をもつてゐて、その勢力も絶大で屢、神を苦しめたものだといふのである。そこで神はいかにもしてこの人間の強大な勢力を減殺しようと思つてここに一つの工夫をめぐらし、その球形のからだを中央から二つに切斷して半分の人を二人づつこしらへた。その結果として人間の世界には誠に悲惨な現象が起つた。即ちその切られた片方は他の片方をあこがれもとめて彷徨し、食をもとらず餓死するものさへ多かつた。神はこの有様を見

## 人格と人格の結合

てさすがに憐愍の情にたへず、そこで切られた片方と片方とが相遇ふ時に、そこに子供といふ慰めを與へられたといふのである。この物語はいろいろな深い意味をわれわれに教へてくれるのであるが、なかでも男女相逢うてはじめて人間が完成し、そこに圓滿な世界を顯現しようとする慾求が人間の根本に存してゐるものであることを物語つてゐる點に於て無上の妙味がある。即ち結婚はその一に歸する作用である。結婚の重大な意味がここにあるわけである。

それゆゑ結婚にあたつては、人格と人格の結合といふことが最も考慮されるべきことである。財産とか地位とか言ふことは世間によく問題になることであるがこれは第二である。古人の「男は女の徳を擇び、女は男の行を擇ぶ」と言ふことが最も大切である。家系を考へ、本人の健康を考慮することはまた結婚生活を幸福に

## 夫婦の道

し、よき子孫を得、人間の素質を向上せしめる所以である。これもまた人間を擇ぶといふことの一面である。戀愛をもつてよき結婚の唯一の條件であるかのやうに論ずる人もあるが、これは心得違ひである。夫婦の道といふものは結婚にはじまるものであるから、所謂戀愛結婚と言へども、結婚前の心持のままでは到底夫婦の道は實現しないのである。戀愛結婚の破綻は多くこのやうな心得違ひから來るものである。慎重に考慮された結婚はやはり恩の世界を背景としなければならぬ。ただ結婚者同志の間に新生活を開拓して行くの努力と覺悟は必要である。戀愛などと稱して一時の空想や感情によつて一生の大事を輕率に決してはならぬ。詩人も謳つてゐるやうに「戀は短い、悔はながい」のである。

## 夫婦は人生の道連

青年期の男女はすべてのものを美化して考へる傾向がある。

## 結婚生活の歸結

男は女を女神のやうに神聖にして氣高いものと考へ、女は男を英雄のやうに強く正しいものであると思ひがちである。それゆゑ「結婚は誤解によつて成る」と言ふ人もある。しかしお互に人間であることを思はねばならない。清く正しいことへの憧憬はあるけれども、人間自身は暗く弱い性格をもつてゐるものである。人生はその弱い人間のながい旅であつて、夫婦はその道連である。お互の缺點を知つて、共に絶対の恩光の前に跪き、相慰め、相勵ましてゆくとところに夫婦の道がある。そこに眞實の和がある。この様に恩の世界に跪いて人生の行路を辿る同朋同行の心持は、夫婦生活のうち人間生活の苦惱を味ふと共に、夫婦生活そのものを縁として絶対の慈光を味ふことになるのである。

かかる生活はこれを感じ恩報謝の生活といふ。感恩報謝の生活は日常生活に於ては祖先を仰ぐことによつて味はれる。夫婦が



共同の祖先を仰ぐことを通して、迷執としての相對愛を脱して絶對の世界に目ざめて行く。ここに夫婦の道がある。しかして夫婦の關係は親子の關係を背景としてはじめて成立するものであることをも自覺するのである。ここに結婚生活の最も深い意味を見出すことが出来る。即ち結婚生活は子供と共に感恩報謝の生活に入ることによる歸結が存するのである。

## 第二節 社會教育

社會は人間の活動の舞臺であるから、大人が社會から受ける影響の甚大なのは言ふまでもないが、その初め家庭に嬉戲する間から、學校に通ふ頃は勿論、社會の影響を受けることが多いものである。そこでこの社會の影響を教育的にするといふことが人間教育の上に必要なこととなつて來るのである。

社會教育の手段はこれを二方面から考察することが出来る。

社會教育

社會教育の手段

その一の方面は、子供を中心として社會民衆に惡影響を與へるやうな事物を取りのぞいて環境を教育的に整理することである。風俗の矯正、都市の美化、運動、活動寫眞や雜誌刊行物の取締り、衛生上の取締りなどがこれである。

活動寫眞と新聞雜誌は最も人心を左右することが多い。従つてこれを教育的にするといふことは最も大きい社會教育の問題である。しかしこれらのものは共に營利事業であるから、これを經營するものに一世を指導するの氣慨がなければ到底よい結果を期待することが出来ない。取締りなどはそもそもその末である。そしてもしこれらのものが眞に教育的良心にめざめて起つたならばその偉大な感化指導は眞に驚くべきものがあるであらう。

社會教育の他の一面は、社會民衆の教育、それ自體のために諸種の施設をなすことである。普通、社會教育と言はれてゐるものは

圖書館

主としてこの方面をさしてゐる。

一、圖書館 社會民衆の自由な時間に、自由な研究をなさしめて、その知的、道徳的の修養機關となつてゐるものは圖書館である。圖書館は縦には古今の書籍を集め、横には世界各地各國民の勞作を陳ねて、民衆の來り讀むに任かしてゐる。近時兒童圖書館も設けられ、巡回文庫の企もあつて、次第にその効果を徹底しようとしてゐる。しかし我國の圖書館教育はまだ歐米に及ばぬ點が多いからこれが發達のためには一層の努力を要する。

博物館

二、博物館、展覽會 博物館、動物園、植物園、水族館、展覽會、博覽會などは、實物教育をなすところである。即ちこれによつて知見を廣め、趣味を養ふことが出来る。我國に於けるこの方面の設備は未だ歐米に及ばない。將來この方面にも一層の研究が必要である。

講演會等

三、講演會、講習會 近時各地に開催されるやうになつた夏季大

青年團等

學や市民講座などがこれである。長期にわたるものは學校教育に劣らぬほどの効果を擧げることが出来る。

四、青年團 青年訓練所、青年團は、徳育を主として知育、體育上の修養を企ててゐるもので、到るところにその施設を見ることが出来る。青年訓練所は、青年の心身を鍛錬し、國民としての教養を與へる目的で設立された組織的の機關で、滿十六歳より二十歳までの青年を入所させ、四ヶ年にわたつて修身、公民、教練、普通學科、職業學科等の項目によつて訓練してゐる。

公園等

五、公園、公開運動場 近頃運動趣味の發達につれて、公衆の運動設備も出來て、公衆の體育機關となつてゐる。しかしなほ國民の一部に限られてゐるかの觀あるは遺憾である。公園は公衆の保健のために設けられ、都會地には無くてはならぬものである。

社會教育の學校教育と著しく異なるところは、如何にこれらの設

備が整うても、これに無關心なものはその恩澤に浴することが出来ぬといふことである。それゆゑ學校教育に於て求道心求知心を培ふことが、これらの社會教育機關を活用せしめ、延いては社會教育を盛んにし、その効果を擧げしめる所以になるのである。

### 第三節 社會生活の歸趣

人間は一人で生きてゐるものではない。着物は呉服屋から買ひ、家は大工によつて建てられ、米は農夫の手によつて作られる。呉服屋から買ふと言ふその着物は呉服屋によつて作られたものではない。問屋の手を経て織物會社から來たものである。織物會社では多くの女工が雑音と塵埃の中で健康をかへり見る暇もなく機械を督して織り上げたものである。織物會社はまたその原料である綿糸を紡績工場に仰ぐ。ここでも多くの女工が命的に働いてゐる。紡績會社は綿花を原産地から買入れる。原産

社會の恩

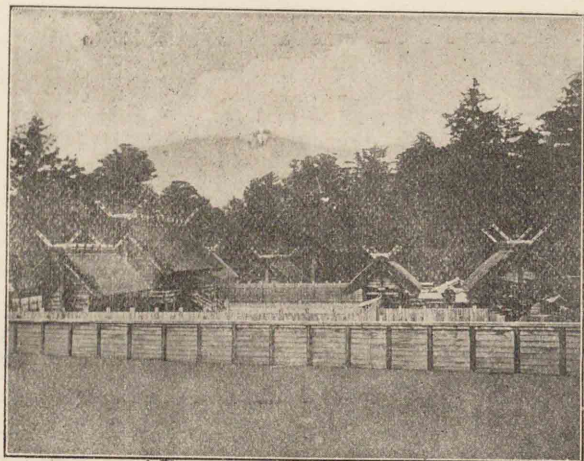
地では多くの農夫が辛苦してこの綿花を作るのである。このやうに考へると一枚の着物にも多くの人の血と汗とが織り込まれてあることを知る。家もさうである。食物もさうである。それゆゑ一人の人間が生きてゆくには千萬無量の人の力が働いてゐることを思はねばならぬ。その多くの人の誠によつて人間は生かされてゐるのであつて、我等はその頂點にあつて安易な生活をつづけてゐるのである。「人を見たら泥棒と思へ」といふ諺があるが、これは實に無自覺な言葉であつて、豈はからんやその泥棒と思ふべき人々によつて自分は生かされてゐるのである。太古草昧の時代は勿論近世機械の發明があるまではこの社會も狭い範圍に限られた。しかし今日の如く交通の發達職業の分化に伴つて、複雑な社會生活を營むやうになつてはその關係する社會も廣くその恩澤も大きい。封建時代に於ては交通は領内に限られた結

家と恩の自覺

果「人を見たら泥棒と思へ」と言ふやうな思潮が強かつたのであらうが、新しい教育を受け、進んだ文明に生活するものにとつては、この社會の恩を自覺し、社會に對する務を怠らぬことが何より大切なことである。しかしこの社會の恩を自覺して生活して行くと言ふことは我執の強い我等には單なる推論によつてなし得るやうな容易なことではない。推論によつてさう考へても我執によつて打消さるるのが人情の常であつて、そこに我執を超越する絶對信順の世界があつて始めて、この大なる恩の世界に目覺めることが出来るのである。

恩の世界は自己存在の根元をふりかへる心の世界である。現實の生活に於てかかる感恩の所縁となるものは家である。わが國の家といふのは西洋の夫婦本位の相對的な家と違つて、親子相傳へて過去から未來に存在する絶對の趣ある存在である。即ち

國の恩



伊勢大廟

子は親を仰ぎ、親は子と共にその祖を仰ぐ。そこに絶對信順の世界があるので、その祖先を仰ぐことは、自己存在の根元にふりかへるものであつて、これがとりもなほさず感恩の世界である。わが國の家にこの世界があつて永遠にその生命を維持してゐるものである。即ち子孫は祖先を祭り、祖先の心にかへることによつて新な活動の源泉を得て永久に榮えて行くのである。わが國體はこの感恩の心をもととして成立してゐるものである。その日の神の御心は無限の大御め

ぐみを與へ給ふ御心である。青人草はこの日の神の御めぐみの露にうるほひ、その無限の御廻施によつて平和な生活をするのである。しかしして日の神の御裔は我が國體に於ける恩光照耀の焦點にあらせ給ひ、民草はこれによつて日の神を永久に仰ぐことが出来るのである。かかる國體は萬國にその類をもとめることが出来ない。プラトンはその著理想國に於て一人の哲人が帝王として君臨する正義の國家を描いてゐるが、このやうな國家は地上に於てただ我國あるのみである。ペスタロツチは親心子心をもつて微妙に一貫してゐる國家を理想として描いたが、これを西歐に於てもとめることが出来ない。支那の王道の思想も、佛教の四恩一如の國家もただわが國に於てのみ實現せられてゐるのである。これ實に、感恩の思想をもつて成立してゐる國の尊さであり、誇りである。この意味に於てわが國體は永遠の生命をもつてゐる。

教育的  
教育の究竟目

るものであつて、天壤とともにきはまりなかるべし」と仰せられた御神勅の有難さを、如實に仰ぐことが出来るのである。

かく考へて來るとき、我等は國家とその生命を一つにしてゐるものであることを知る。ただに我等の生活が社會的であるにとどまらず、ただにその家が永遠の生命をもてるにとどまらず、その社會もその家も、この洪大な恩の世界には一如となつて、その運命をこの國家と共にしてゐるものである。利己、相對、我執の世界を超えて、この恩の世界に生きてゐることを自覺することが我等日本人の徹底した人世觀であり、この自覺に導くことがわが國教育の究竟の目的でなければならぬ。しかししてこの理想は決して排他的、褊狭なものではなくて、之ヲ古今ニ通シテ謬ラス之ヲ中外ニ施シテ悖ラサル」ところ、この道によつてのみ、わが國が世界に存在の理由をもち、この自覺に於てのみわが國民が世界に濶歩する

ことを許されるものである。而してこれ實に親心子心の國家的  
社會的融和の境である。

### 日本女子教育學 (終)

小學校令  
明治三十三年八  
月二十日  
勅令第三百四十  
四號

目的  
種類

### 附錄 小學校關係法規抄

#### (一) 小學校令 (摘要)

沿革

明治三十六年三月勅令第六三號、同年四月同第七四號  
同四十年三月同第五二號  
同四十四年七月同第二二六號、大正二年七月同第二五八號  
同八年二月同第一〇號、同十二年八月同第三七六號  
同十五年四月第七三號、同年六月同二四二號改正

#### 第一章 總 則

**第一條** 小學校ハ兒童身體ノ發達ニ留意シテ道德教育及國民教育ノ基礎並其ノ生活ニ必須ナル普通ノ知識技能ヲ授クルヲ以テ本旨トス

**第二條** 小學校ハ之ヲ分テ尋常小學校及高等小學校トス  
尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ一校ニ併置スルモノヲ尋常高等小學校トス

市町村、町村學校組合若ハ其ノ學區又ハ市町村學校組合ノ負擔ヲ以テ設置スルモノヲ市町村立小學校トシ私人ノ費用ヲ以テ設置スルモノヲ私立小學校トス

第三章 教科及編制

修業年限

第十八條 尋常小學校ノ修業年限ハ六箇年トス  
高等小學校ノ修業年限ハ二箇年トス但シ延長シテ三箇年ト爲スコトヲ得

教科目

第十九條 尋常小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、唱歌、體操トシ女兒ノ爲ニハ裁縫ヲ加フ

土地ノ情況ニ依リ手工ヲ加フルコトヲ得

第二十條 高等小學校ノ教科目ハ修身、國語、算術、國史、地理、理科、圖畫、手工、唱歌、體操、實業（農業、工業、商業ノ一科目又ハ數科目）トシ女兒ノ爲ニハ家事、裁縫ヲ加フ

土地ノ情況ニ依リ前項教科目ノ外外國語其ノ他必要ナル教科目ヲ加フルコトヲ得  
前項ノ教科目ハ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得第三學年ニ於ケル圖畫、唱歌ニ付亦同シ

手工ハ實業ニ於テ工業ヲ學習スル兒童ニハ之ヲ課セサルコトヲ得

實業ノ數科目ヲ置キタル場合ニハ兒童ヲシテ其ノ一科目ヲ選擇セシム實業ハ文部大臣ノ定ムル所ニ依リ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得

教科用書

第二十四條 小學校ノ教科用圖書ハ文部省ニ於テ著作權ヲ有スルモノタルヘシ  
前項ノ圖書同一ノ教科目ニ關シ數種アルトキハ其ノ中ニ就キ府縣知事之ヲ採定ス

學齡

第三十二條 兒童滿六歲ニ達シタル翌日ヨリ滿十四歲ニ至ル八箇年ヲ以テ學齡トス

就學ノ義務

學齡兒童ノ學齡ニ達シタル日以後ニ於ケル最初ノ學年ノ始ヲ以テ就學ノ始期トシ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタルトキヲ以テ就學ノ終期トス學齡兒童保護者ハ就學ノ始期ヨリ其ノ終期ニ至ル迄學齡兒童ヲ就學セシムルノ義務ヲ負フ

學齡兒童保護者ト稱スルハ學齡兒童ニ對シ親權ヲ行フ者又ハ親權ヲ行フ者ナキトキハ其ノ後見人ヲ謂フ

免除及猶豫

第三十三條 學齡兒童瘋癲白痴又ハ不具癱疾ノ爲就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ府縣知事ノ認可ヲ受ケ學齡兒童保護者ノ義務ヲ免除スルコトヲ得  
學齡兒童病弱又ハ發育不完全ノ爲就學セシムヘキ時期ニ於テ就學スルコト能ハスト認メタルトキハ市町村長ハ其ノ就學ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ直ニ府縣知事ニ報告スヘシ

市町村長ニ於テ學齡兒童保護者貧窮ノ爲其ノ兒童ヲ就學セシムルコト能ハスト認

入學

メタルトキ亦前二項ニ準ス

第三十五條 尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スル者ハ其ノ雇傭ニ依リテ兒童ノ就學ヲ妨クルコトヲ得ス

第三十六條 學齡兒童保護者ハ就學セシムヘキ兒童ヲ市町村立尋常小學校ニ入學セシムヘシ但シ市町村長ノ認可ヲ受ケ家庭又ハ其ノ他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシムルコトヲ得

官立若ハ府縣立ノ學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ授クヘキ部分高等學校若ハ中學校ノ豫科又ハ盲學校若ハ聾啞學校ノ初等部ハ兒童就學ニ關シテハ之ヲ市町村立尋常小學校ト同視ス

出席停止

第三十八條 小學校長ハ傳染病ニ罹リ若ハ其ノ虞アル兒童又ハ性行不良ニシテ他ノ兒童ノ教育ニ妨アリト認メタル兒童ノ小學校ニ出席スルヲ停止スルコトヲ得

資格

第三十九條 小學校ノ教科ヲ教授スル者ヲ本科正教員トシ其ノ教科目中修身國語算術國史地理理科以外ノ教科目ニシテ文部大臣ノ定ムル一科目又ハ數科目ヲ限リ教授スル者ヲ專科正教員トス  
本科正教員ヲ補助スル者ヲ准教員トス

第六章 職員

免許狀  
懲戒權

第四十條 小學校教員タルヘキ者ハ免許狀ヲ受クヘシ

免許狀ハ府縣知事之ヲ授與シ全國ニ通シテ有効トス

第四十一條 免許狀ヲ受クルニハ師範學校若ハ文部大臣ノ指定シタル學校ヲ卒業シ又ハ小學校教員ノ檢定ニ合格スルコトヲ要ス

第四十七條 小學校長及教員ハ教育上必要ト認メタルトキハ兒童ニ懲戒ヲ加フルコトヲ得但シ體罰ヲ加フルコトヲ得ス

(二) 小學校令施行規則(摘要)

沿革

小學校令施行規則  
明治三十三年八月二十一日文部省令第十四號

- 明治三十四年一月省令第二號、同三十五年二月同第三號、同年十二月同第一五號
- 同三十六年三月同第一號、同年四月同第二號、同年十一月同第三四號
- 同三十七年二月同第一號、同年十月同第一九號、同三十八年五月同第七號
- 同四十年三月同第六號、同年六月同第二〇號、同年八月同第二四號
- 同四十一年三月同第八號、同年四月同第一五號、同年五月同第一八號
- 同年九月同第二六號、同四十二年四月同第一二號、同四十二年三月同第四號
- 同年七月同第二一號、同四十四年四月同第一五號、同年七月同第二四號
- 同四十五年一月同第三號、大正二年七月同第二〇號、同第二一號
- 同三年一月同第一號、同年十月同第三〇號、同七年三月同第四號
- 同八年三月同第六號、同九年八月同第一九號、同第二三號
- 同十年八月同第三六號、同十二年八月同第三五號、同十三年八月同第一六號



同十四年四月同第一三號、同十五年四月同第一八號、同年六月同第二七號、昭和二年十一月同第二〇號、同年十二月同第三二號、同三年七月同第一〇號改正

### 第一章 教科及編制

#### 第一節 教 則

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ

道徳教育及國民教育ニ關聯セル事項ハ何レノ教科日ニ於テモ常ニ留意シテ教授セ  
ンコトヲ要ス

知識技能ハ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ選ヒテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナ  
ラシメンコトヲ務ムヘシ

身體ヲ健全ニ發達セシメンコトヲ期シ何レノ教科日ニ於テモ其ノ教授ハ兒  
童ノ心身發達ノ程度ニ副ハシメンコトヲ要ス

男女ノ特性及其ノ將來ノ生活ニ注意シテ各々適當ノ教育ヲ施サンコトヲ務ムヘシ  
各教科目ノ教授ハ其ノ目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益センコトヲ  
要ス

第二條 修身ハ教育ニ關スル勅語ノ旨趣ニ基キテ兒童ノ徳性ヲ涵養シ道徳ノ實踐ヲ  
指導スルヲ以テ要旨トス

教授ノ要旨  
修身

國語

第三條 國語ハ普通ノ言語、日常須知ノ文字及文章ヲ知ラシメ正確ニ思想ヲ表彰スル

算術

第四條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ生活上必須ナル知識ヲ與ヘ兼テ思考ヲ精確  
ナラシムルヲ以テ要旨トス

國史

第五條 國史ハ國體ノ大要ヲ知ラシメ兼テ國民タルノ志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

地理

第六條 地理ハ地球ノ表面及人類生活ノ狀態ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ又本邦國  
勢ノ大要ヲ理會セシメ兼テ愛國心ノ養成ニ資スルヲ以テ要旨トス

理科

第七條 理科ハ通常ノ天然物及自然ノ現象ニ關スル知識ノ一斑ヲ得シメ其ノ相互及  
人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ觀察ヲ精密ニシ自然ヲ愛スルノ心ヲ養  
フヲ以テ要旨トス

圖畫

第八條 圖畫ハ通常ノ形體ヲ看取シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ得シメ兼テ美感ヲ養フヲ  
以テ要旨トス

唱歌

第九條 唱歌ハ平易ナル歌曲ヲ唱フルコトヲ得シメ兼テ美感ヲ養ヒ徳性ノ涵養ニ資  
スルヲ以テ要旨トス

體操

第十條 體操ハ身體ノ各部ヲ均齊ニ發育セシメ四肢ノ動作ヲ機敏ナラシメ以テ全身  
ノ健康ヲ保護増進シ精神ヲ快活ニシテ剛毅ナラシメ兼テ規律ヲ守リ協同ヲ尙フノ

裁縫  
 手工  
 農業  
 工業  
 商業  
 家事  
 外國語  
 程度又教授時數

- 習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 第十一條 裁縫ハ通常ノ衣類ノ縫ヒ方及裁チ方等ニ習熟セシメ兼テ節約利用ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 第十二條 手工ハ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ得シメ工業ノ趣味ヲ長シ勤勞ヲ好ムノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 第十三條 農業ハ農業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ農業ノ趣味ヲ長シ勤勉利用ノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 第十三條ノ二 工業ハ工業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ勤勉綿密ニシテ且創作工夫ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 第十四條 商業ハ商業ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ勤勉敏捷ニシテ且信用ヲ重スルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 第十五條 家事ハ家事ニ關スル普通ノ知識技能ヲ得シメ家事ノ趣味ヲ長シ兼テ節約利用、秩序、清潔ノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス
- 第十六條 外國語ハ日常簡易ノ英語ヲ習得セシムルヲ以テ要旨トス
- 第十七條 尋常小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第四號表ニ依ルヘシ  
 手工ヲ加フルトキ又ハ第一學年第二學年ニ於テ圖畫ヲ課スルトキハ其ノ每週教授

隨意科目  
 教授細目  
 成績考査

- 時數ハ學校長ニ於テ他ノ教科目ノ每週教授時數ヲ減シ之ニ充ツヘシ
- 第十八條 高等小學校各學年ノ教授ノ程度及每週教授時數ハ第五號表又ハ第六號表ニ依ルヘシ
- 第十八條ノ二ノ規定ニ依リ實業ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スヘシ
- 實業ニ於テ工業ヲ學習スル爲手工ヲ課セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ教科目ニ配當スルコトヲ得
- 第三學年ニ於ケル圖畫、唱歌ヲ隨意科目ト爲シタル場合ニ於テ之ヲ學習セサル兒童ニ對シテハ其ノ每週教授時數ヲ學校長ニ於テ他ノ數科目ニ配當スルコトヲ得
- 第十八條ノ二 實業ハ特別ノ事情アル場合ニ限り管理者又ハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ之ヲ隨意科目ト爲スコトヲ得
- 第二十一條 尋常小學校若ハ高等小學校ニ於テ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制スルトキハ各學年ノ程度ニ拘ラス全部又ハ一部ノ兒童ヲ同一ノ程度ニ依リ教授スルコトヲ得
- 第二十二條 學校長ハ其ノ小學校ニ於テ教授スヘキ各教科目ノ教授細目ヲ定ムヘシ
- 第二十三條 小學校ニ於テ各學年ノ課程ノ修了若ハ全教科ノ卒業ヲ認ムルニハ別ニ

卒業

試験ヲ用フルコトナク兒童平素ノ成績ヲ考查シテ之ヲ定ムヘシ

**第二十四條** 學校長ハ修業年限ノ終ニ於テ尋常小學校若ハ高等小學校ノ教科ヲ修了セリト認メタル者ニハ卒業證書ヲ授與スヘシ

學校長ハ學年末ニ於テ各學年ノ課程ヲ修了セリト認メタル者ニハ修業證書第二十一條ノ規定ニ依リ一學年間學習セシ者ニハ學習證書ヲ與フルコトヲ得

第三節 編 制

學級數

**第二十九條** 小學校ノ學級數ハ二十四學級以下トス

特別ノ事情アルトキハ市町村立小學校ニ在リテハ市町村市町村學校組合又ハ町村學校組合ニ於テ私立小學校ニ在リテハ設立者ニ於テ府縣知事ノ認可ヲ受ケ前項ノ制限ニ依ラサルコトヲ得

兒童數

特別ノ事情ニ依リ小學校ニ於テ分教場ヲ設クルトキハ一分教場ノ學級數ハ六學級以下トシ第一項ノ制限外ト爲スコトヲ得

**第三十條** 一學級ノ兒童數ハ尋常小學校ニ在リテハ七十人以下高等小學校ニ在リテハ六十人以下トス

特別ノ事情アルトキハ前項ノ制限ヲ超過シテ各々十人マテヲ増スコトヲ得

編制

**第三十一條** 尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ同一學年ノ女兒ノ數一學級ヲ編制ス

二部教授

教員組織

ルニ足ルトキハ男女ニ依リ該學年ノ學級ヲ別ツヘシ

第一學年及第二學年ニ在リテハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

高等小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全校女兒ノ數一學級ヲ編制スルニ足ルトキハ男女ニ依リ學級ヲ別ツヘシ

特別ノ事情アルトキハ第一項又ハ第三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

**第三十三條** 修身體操唱歌裁縫手工實業及小學校令第二十條第二項ニ依リ加ヘタル教科目ハ數學級ノ全部又ハ一部ノ兒童ヲ合セテ同時ニ之ヲ教授スルコトヲ得但シ裁縫手工實業ニ就キテハ兒童ノ數七十人ヲ超エサル場合ニ限ル

**第三十四條** 土地ノ情況ニ依リ尋常小學校若ハ其ノ分教場ニ於テ全部若ハ一部ノ兒童ヲ前後二部ニ分チテ教授スルコトヲ得

**第三十五條** 尋常小學校ニ於テハ各學級ニ本科正教員一人ヲ置クヘシ

高等小學校ニ於テハ其ノ學級數ニ等シキ員數ノ本科正教員ヲ置クノ外教科目教授時數兒童數等ニ應シ必要ナル員數ノ本科正教員又ハ專科正教員ヲ置クヘシ

土地ノ情況ニ依リ尋常小學校ニ在リテハ二學級毎ニ本科正教員一人及准教員一人又ハ三學級毎ニ本科正教員二人ヲ置クコトヲ得

必要アル場合ニ於テハ前三項ノ規定ニ依ルノ外尙准教員ヲ置キ兒童ノ教授ヲ補助



計	手工	裁縫	體操	唱歌
二二	工簡易ナル細		四 遊教體 戲及競練 技	四 平易ナル 音唱ナル 單
二三	工簡易ナル細		四 遊教體 戲及競練 技	四 平易ナル 音唱ナル 單
二五	工簡易ナル細		三 遊教體 戲及競練 技	一 平易ナル 音唱ナル 單
女男 元七	工簡易ナル細	二 通針法 ノ縫ヒ方 方類	三 遊教體 戲及競練 技	一 平易ナル 音唱ナル 單
女男 元三	工簡易ナル細	三 通常ノ衣 方縫ヒ方 裁類	三 遊教體 戲及競練 技	二 平易ナル 音唱ナル 單
女男 元三	工簡易ナル細	三 通常ノ衣 方縫ヒ方 裁類	三 遊教體 戲及競練 技	二 平易ナル 音唱ナル 單

圖畫ハ第一學年第二學年ニ於テハ每週一時之ヲ課スルコトヲ得  
 手工ハ第一學年第二學年第三學年ニ於テハ每週一時、第四學年第五學年第六學年  
 ニ於テハ每週二時之ヲ課スルコトヲ得

第五號表 (高等小學校教科課程表) (修業年限二箇年ノモノ)

修身	科目	學年	每週授時數
二	道德ノ要旨	第一學年	一
二	道德ノ要旨	第二學年	一

家事ノ時間ハ裁縫ト合セテ四トス

國語	算術	國史	地理	理科	圖畫	手工	唱歌	體操	實業	家事
六	四	二	二	二	一	一	一	三	女男 二五	(四)
日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	整數、小數、分數、數ノ代數的計算、幾何圖形、珠算	國史ノ大要	外國地理ノ大要	植物、動物、礦物及自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象、元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身生理衛生ノ大要	簡易ナル形體	簡易ナル製作、製圖、手藝	(單音唱歌) (簡易ナル複音唱歌)	體操 遊戲及競技	(農)農業ノ大要(工)工業ノ大要(商)商業ノ大要	衣食住、看病、育兒、一家經濟ノ大要
六	四	二	二	二	一	一	一	三	女男 二五	(四)
日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	比例、步合算、數ノ代數的計算、幾何圖形、珠算(日用簿記)	前學年ノ續キ	地理ノ補習	自然ノ現象、通常ノ物理化學上ノ現象、元素及化合物、簡易ナル器械ノ構造、作用、人身生理衛生ノ大要	(簡易ナル形體) (簡易ナル幾何畫)	簡易ナル製作、製圖、手藝	(單音唱歌) (簡易ナル複音唱歌)	體操 遊戲及競技	(農)農業ノ大要(工)工業ノ大要(商)商業ノ大要	衣食住、看病、育兒、一家經濟ノ大要

裁縫ノ時間ハ家事ト合セテ四トス

小學校令第二十條第二項ノ教科目ニ關シテハ本表ノ時數ノ外男兒三時以内女兒二時以内ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得  
前項ノ外本表各教科目ノ每週教授時數ヲ增加スルコトヲ得但シ每週教授時數ノ合計ハ三十二時ヲ超ユルコトヲ得ス  
實習ニ關シテハ前項ノ教授時數外ニ涉リテ尙之ヲ課スルコトヲ得

第六號表 (高等小學校教科課程表 (修業年限三箇年ノモノ))

算術	國語	修身	學年毎週教授時數		
			第一學年	第二學年	第三學年
四 整數、小數、分數、數ノ代數的計算、幾何圖形、珠算	六 日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	二 道德ノ要旨	二 道德ノ要旨	二 道德ノ要旨	二 國史ノ補習
四 比例、歩合算、數ノ代數的計算、幾何圖形、珠算	六 日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	二 道德ノ要旨	二 地理ノ補習	二 地理ノ補習	二 國史ノ補習
四 第一學年、第二學年ノ課程ノ補習 (日用簿記)	六 日常須知ノ文字及普通文ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方	二 道德ノ要旨	二 理科ノ補習	二 地理ノ補習	二 國史ノ補習

計	裁縫	
	男 三〇九	女 三〇九
	(四) 通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方	(四) 通常ノ衣類ノ縫ヒ方、裁チ方、繕ヒ方

計	裁縫	家事	實業	體操	唱歌	手工	圖畫	理科	地理	國史
										男 三〇九
男 三〇九	四	四	二五	三	一	一	一	二	二	二
女 三〇九	四	四	二五	三	一	一	一	二	二	二
男 三〇九	四	四	二五	三	一	一	一	二	二	二
女 三〇九	四	四	二五	三	一	一	一	二	二	二
男 三〇九	五	五	二六	三	一	一	一	二	二	二
女 三〇九	五	五	二六	三	一	一	一	二	二	二

小學校令第二十條第二項ノ教科目ニ關シテハ本表ノ時數ノ外男兒三時以內女兒  
 二時以內ニ於テ之ヲ課スルコトヲ得  
 前項ノ外本表各教科目ノ每週教授時數ヲ增加スルコトヲ得但シ每週教授時數ノ  
 合計ハ三十二時ヲ超ユルコトヲ得ス  
 實習ニ關シテハ前項規定ノ教授時數外ニ涉リテ之ヲ課スルコトヲ得

附錄 終

昭和四年九月十四日印  
 昭和四年九月十七日發  
 昭和四年十二月二十日訂正再版印刷  
 昭和四年十二月二十三日訂正再版發行

日本女子教育學

定價金五拾五錢  
 昭和六年臨時定價  
 金八拾七錢

著者 福島政雄

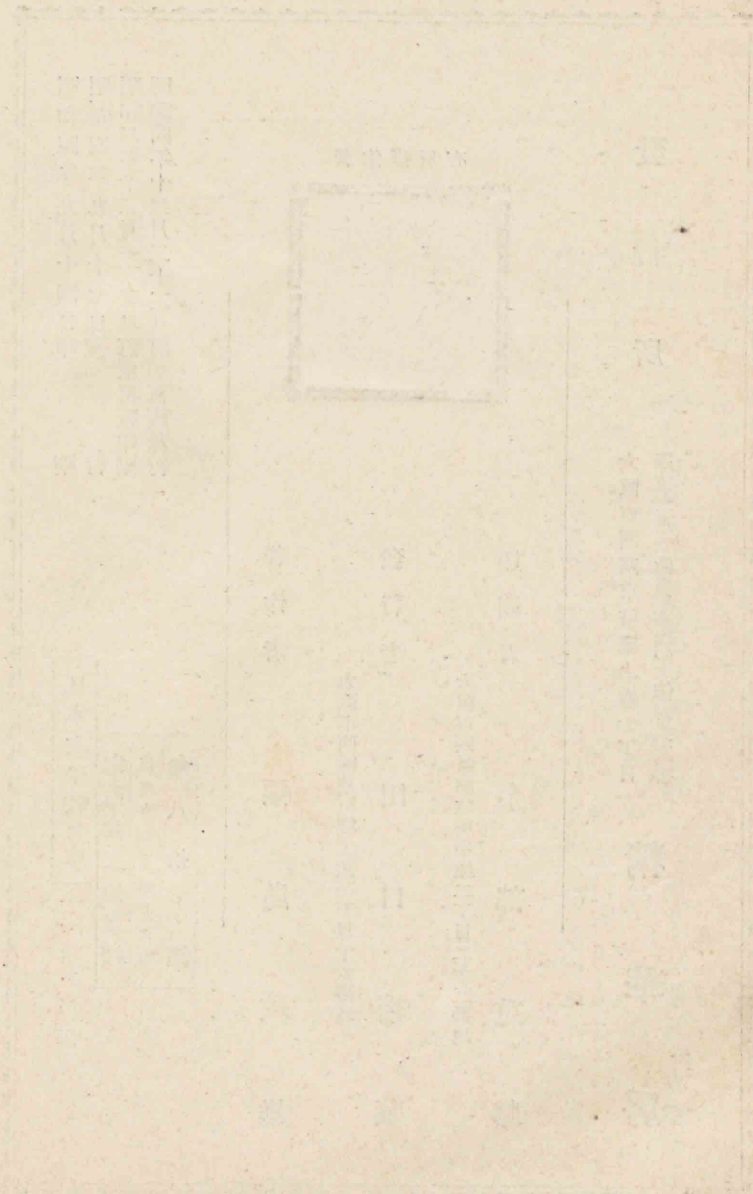


著者 福島政雄  
 發行所 大阪市西區京町堀上通一丁目十六番地  
 田口繁藏  
 印刷者 余部重郎  
 大阪市西區阿波座中通二丁目二十三番地

發行所

大阪市西區京町堀上通一丁目  
 振替大阪三六五番・電話土佐堀三六番

精華房







本  
四  
山  
崎

広島大学図書

2000048934

